

令和4年度  
地域交流拠点清田の機能向上に向けた  
調査検討業務  
報告書

令和5年3月  
株式会社 GLOCAL DESIGN

## 目次

1章 業務概要.....	1
1-1 業務の目的 .....	1
1-2 業務の内容 .....	1
1-3 業務フロー .....	2
2章 令和3年度における地域交流拠点清田の機能向上案の検討 .....	3
2-1 機能向上案検討の考え方 .....	3
2-2 令和3年度 地域交流拠点清田の機能向上案 .....	4
3章 きよた暮らしラボ（意見交換会）の企画・運営.....	5
3-1 きよた暮らしラボについて .....	5
3-2 令和4年度きよた暮らしラボの流れ .....	5
3-3 令和4年度きよた暮らしラボの参加者 .....	6
3-4 令和4年度きよた暮らしラボの実施結果 .....	7
3-5 ニュースレターの作成 .....	72
4章 Fun! Fan! KIYOTA（実証実験）の企画・運営・効果検証.....	76
4-1 Fun! Fan! KIYOTA について.....	76
4-2 Fun! Fan! KIYOTA の流れ.....	76
4-3 Fun! Fan! KIYOTA の実施結果.....	77
4-4 実証実験における検証結果の機能向上案への反映 .....	137
5章 地域交流拠点清田の機能向上案の検討.....	141
5-1 地域交流拠点清田の機能向上案 .....	141
5-2 地域交流拠点清田における今後の進め方 .....	144

# 1章 業務概要

## 1-1 業務の目的

札幌市では、平成28年に策定した「第2次札幌市都市計画マスタープラン」において、市内17か所に位置付けている地域交流拠点のうち「清田」を先行的に取り組む拠点の一つとして掲げ、短期的には公共交通サービスの利便性向上に努め、将来的には拠点機能向上のための効果的な取組を展開していくこととしている。

これを受け、令和3年2月に策定した「地域交流拠点清田の拠点機能向上に向けた官民連携によるまちづくりの基本的な考え方」においては、今後の取組として、清田区役所周辺における恒常的なにぎわいや交流の創出に向けた効果的な手法を検討することとしている。

一方、国土交通省では、昨今の新型コロナ危機を踏まえた今後の都市政策の在り方として、令和2年8月に「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」（論点整理）を公表したところであり、ここでは、「ウォークアブルなまちづくり、ゆとりある緑とオープンスペースの充実についての重要性が高まっており、これを一層推進すべく、様々なオープンスペースを柔軟に活用しつつ、ネットワークを形成することでウォークアブルな空間を充実させることが重要」との方向性が示されている。

本業務は、地域交流拠点清田の機能向上に向けて、新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性を踏まえた上で、地域住民などとの意見交換や実証実験による効果検証を実施しながら効果的な手法を検討することを目的とする。

## 1-2 業務の内容

### (1) きよた暮らしラボ（意見交換会）の企画・運営

地域交流拠点清田の機能強化について、地域住民と意見交換を行った。意見交換会は全4回実施し、令和3年度に検討した地域交流拠点清田の機能向上案をもとに、地域で試行的に取り組む実証実験の内容やこれまでの取組を踏まえた今後の方向性などの検討を行った。

また、意見交換会の開催結果等を地域住民等へ周知するためにニュースレターを2回作成した。

### (2) Fun! Fan! KIYOTA（実証実験）の企画・運営・効果検証

意見交換会で検討した内容が地域交流拠点清田における恒常的なにぎわいや交流の創出に効果的であるかを検証するために実証実験を行った。

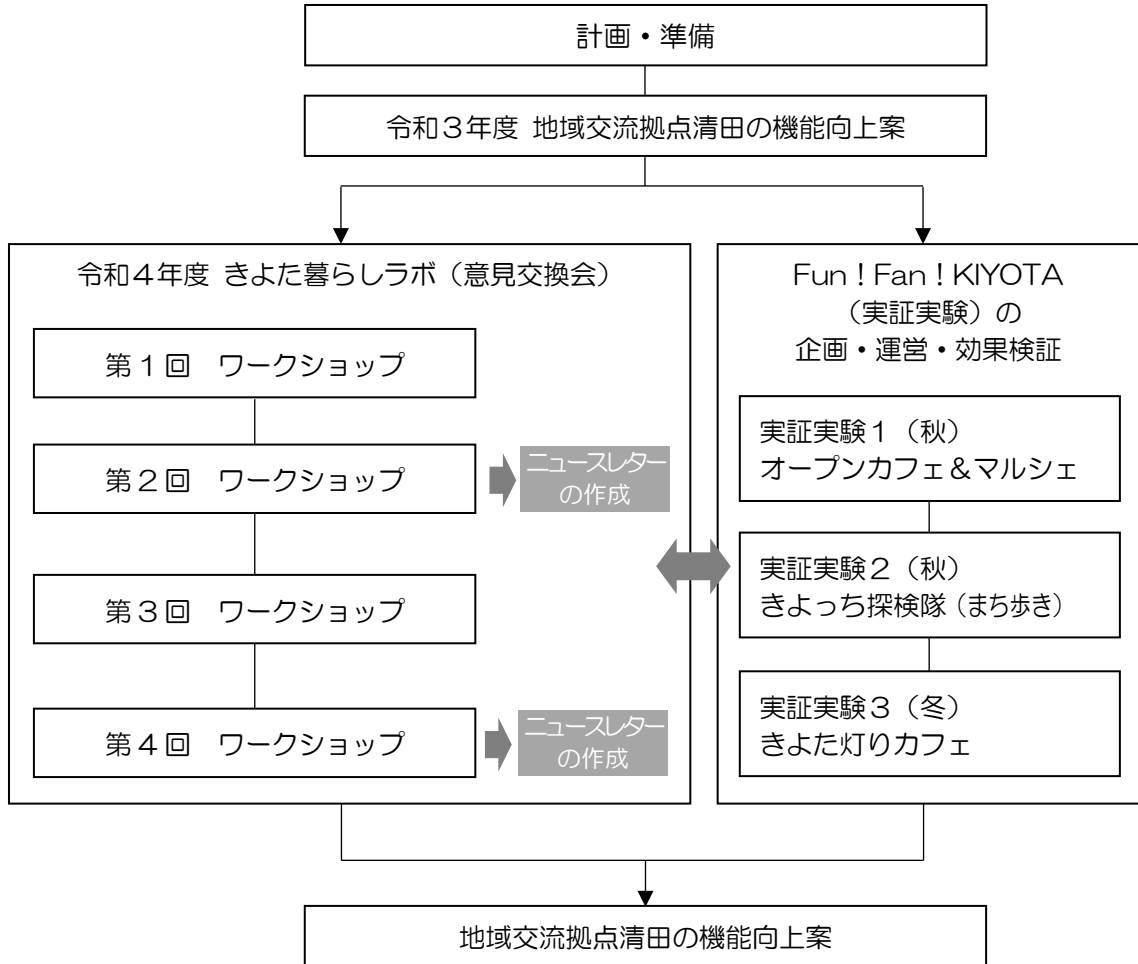
実証実験は秋に2回、冬に1回と全3回実施し、その検証結果を機能向上案へ反映した。

### (3) 地域交流拠点清田の機能向上案の検討

意見交換会における検討や実証実験による検証結果などを令和3年度に検討した地域交流拠点清田の機能向上案へ反映し、今後の方向性を整理した。

### 1-3 業務フロー

本業務の進め方は、以下のフローのとおりである。



## 2章 令和3年度における地域交流拠点清田の機能向上案の検討

### 2-1 機能向上案検討の考え方

「清田の中心としてまちの価値を高める交流拠点を形成」するために、きよた暮らしラボで意見交換を行いながら 地域交流拠点清田の将来イメージや必要な機能などを検討し、機能向上を進めるためにはハード・ソフト・マネジメントの3つの方針が必要と整理された。

#### 地域交流拠点清田の将来の姿

清田のまちの発展に深く関わる厚別川周辺と、人々の交流の核となる区役所周辺が一体となり、清田の中心（基点、基地）としてまちの価値を高める交流拠点を形成する

#### 各エリアの位置付け

- 人が集まる交流エリア（清田区役所、市民交流広場、各店舗など）
- まちの記憶をとどめるふるさとエリア（清田区民センター、あしりべつ郷土館、厚別川など）
- 買い物や飲食を楽しむ生活エリア（イオンモール札幌平岡、樹林地など）

#### 機能向上を進める3つの展開方針

- ハード面の向上（施設空間の改善・拡充に向けた整備等）
- ソフト面の向上（施設や公共空間等を活用した活動・取組）
- マネジメントの推進（活動・取組を実施・運営するための仕組み）



機能向上案のイメージ

## 2-2 令和3年度 地域交流拠点清田の機能向上案

令和3年度に検討された地域交流拠点清田の機能向上案は、以下のとおりである。

エリアの位置付け	ハード面の機能向上	ソフト面の機能向上	マネジメントの推進
人が集まる交流エリア	<p><b>【屋内】人が集まる交流機能</b></p> <p><b>交流・滞留機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェ</li> <li>・コワーキングスペース</li> <li>・学習スペース</li> <li>・図書スペース</li> <li>・キッチンスペース</li> <li>・Wi-Fi</li> </ul> <p><b>情報発信機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清田のまちの情報提供コーナー</li> <li>・デジタル技術活用</li> </ul> <p><b>子育て支援機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズルーム、遊戯施設</li> </ul> <p><b>飲食機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清田の食材を使った地産地消レストラン</li> </ul> <p><b>交通機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の待ち合い機能</li> <li>・交通ネットワークの形成</li> </ul> <p><b>【屋外】オープンスペース機能</b></p> <p><b>交流・滞留機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生広場</li> <li>・緑地帯</li> <li>・子どもが遊べるスペース</li> <li>・半屋外の屋根や庇</li> </ul> <p><b>休憩機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンチ、テーブル</li> </ul> <p><b>子育て支援機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊戯施設</li> </ul>	<p><b>にぎわいづくり</b></p> <p>○オープンカフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民交流広場等のオープンスペースを活用して実施</li> <li>・月に1回など定期的に実施可能な規模で試行</li> </ul> <p>○きよたミニ道の駅マルシェ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民交流広場等を活用して、清田の野菜などを販売し、日常的な利用を向上</li> </ul> <p>○冬のにぎわいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民交流広場等を活用して、多世代が冬を楽しめる雪遊びやスポーツなどを実施</li> </ul> <p><b>つながりづくり</b></p> <p>○道の愛称づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧道、清田6号線、厚別川などを活用し、歩くイベントと連携して実施</li> </ul> <p>○歩いて楽しくまちの記憶を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩くイベントを主催する既存の団体と連携しながら実施</li> <li>・移動可能なベンチやテーブルなどの休憩施設を設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清田にゆかりのある個人・団体との連携・協力体制の調整、運営コーディネート</li> <li>・分野を横断したプロジェクトメンバーで、主にソフトの活動・取組を試行(協議会や実行委員会)</li> </ul>
まちと人をつなげるエリア	<p><b>【屋外】歩いてつながる機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化された歩行空間</li> <li>・緑道・散策路</li> <li>・休憩施設(ベンチ等)</li> <li>・案内誘導サイン</li> </ul>		
まちの記憶をとどめるふるさとエリア	<p><b>【屋外】オープンスペース機能</b></p> <p><b>休憩機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンチ、テーブル(仮設を想定)</li> </ul>		
買い物や飲食を楽しむ生活エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各取組の情報発信等で連携</li> </ul>		

## 3章 きよた暮らしラボ（意見交換会）の企画・運営

### 3-1 きよた暮らしラボについて

きよた暮らしラボでは、地域交流拠点清田の機能強化について、令和3年度に引き続き地域住民と意見交換を行った。令和3年度は地域交流拠点清田の将来イメージや必要な機能・活動などについて意見交換を行っている。

令和4年度は実証実験の企画内容や機能向上案などについて意見交換を行った。

### 3-2 令和4年度きよた暮らしラボの流れ

令和4年度のきよた暮らしラボは以下のとおり、全4回実施した。

	開催日時	主な情報提供	主な議題
第1回	令和4年 7月3日	【恒常的なにぎわいに向けた実証実験について】 ・地域交流拠点清田の機能強化の趣旨 ・令和3年度のきよた暮らしラボの振り返り ・令和4年度の進め方、活動について紹介 ・秋の実証実験に向けた企画（たたき台）	・令和3年度の検討結果をもとにした「実証実験」の企画の検討 ・オープンカフェ、まち歩き のアイディア
第2回	令和4年 7月24日	【秋の実証実験の基本的な企画内容の確認と進め方】 ・令和3年度のきよた暮らしラボの振り返り ・前回の振り返り ・秋の実証実験の基本仕様・方向性	・オープンカフェ実験の基本コンテンツの確認、告知や案内誘導の仕方 ・まち歩き実験の企画、開催時期
第3回	令和4年 10月22日	【秋の実証実験の振り返り、冬の実証実験の内容検討】 ・地域交流拠点清田の取組についておさらい ・秋の実証実験の結果 ・オープンカフェ&マルシェ ・きよっち探検隊 in あしりべつ(まち歩き)	・オープンカフェ&マルシェ、まち歩きの今後の検討 ・冬の実証実験の企画・アイディア
第4回	令和5年 2月18日	【地域交流拠点清田の今後の方向性について】 ・きよた暮らしラボの活動の振り返り ・冬の実証実験の結果	・今後の方向性について検討 ・継続していくための手法や体制などを検討

### 3-3 令和4年度きよた暮らしラボの参加者

令和3年度に引き続き、きよたまちづくり区民会議の委員や地元事業者、大学関係者などが参加した。参加者は20代～70代と幅広く、学生や子育て世代、高齢者など様々な属性の区民が参加している。

また、広報さっぽろや札幌市公式ホームページに掲載した開催案内のほか、Fun! Fan! KIYOTA（実証実験）の企画運営会議からの参加など、今年度からの新規参加者もいた。

所属	人数	詳細
きよたまちづくり 区民会議	8名	議長、副議長、幹事長、幹事、委員
企業・大学	11名	<ul style="list-style-type: none"><li>・北海道中央バス</li><li>・JA さっぽろ東経済センター</li><li>・清田区内の農家（きよたマルシェ出店者）</li><li>・北海道コカ・コーラボトリング株式会社</li><li>・イオン北海道株式会社</li><li>・北星学園大学（教員と学生）</li><li>・札幌国際大学（教員と学生）◎</li><li>・北洋銀行清田区役所前支店◎</li></ul>
一般参加	21名	<ul style="list-style-type: none"><li>・20代～70代の参加者</li><li>・あしりべつ神社◎</li></ul>

◎：令和4年度からの参加者



### 3-4 令和4年度きよた暮らしラボの実施結果

#### (1) 第1回きよた暮らしラボ

##### 1) 開催概要

日 時：令和4年7月3日（日）13：30～15：30

場 所：清田区民センター集会室2・3

参加者：12名

事務局：札幌市政策推進課 4名

清田区 3名

株式会社グローバルデザイン 安達、酒本、松田、深津、白井



##### 2) プログラム

時間	内容	
13：30	開会	・開会、あいさつ
13：35	情報提供	・地域交流拠点清田の機能向上に向けた取組の趣旨 ・令和3年度のきよた暮らしラボの振り返り ・令和4年度の進め方、活動について紹介 ・秋の実証実験に向けた企画（たたき台）の情報提供
14：00	意見交換	テーマ：秋の実証実験に向けた企画を考えよう ①秋の実証実験の企画について意見交換 ・オープンカフェの企画のアイデア ・まち歩きの実証実験の企画のアイデア など ②実証実験の実施に向けた進め方について ・関わってもらえそうな人や団体 など
15：30	閉会	意見交換の振り返り

### 3) 説明資料

**秋の実証実験について考えよう！**  
**きよた暮らしラボ（意見交換会）**

第1回 ミーティング

2022（令和4）年1月3日

- 1.開会・あいさつ
- 2.情報提供  
 <令和4年度の実証実験に向けた検討>  
 令和3年度の振り返り  
 実施する実証実験の企画案
- 3.意見交換  
 秋の実証実験に向けた企画を考えよう
- 4.閉会

**情報提供**  
 （これまでの振り返りなど）

**地域交流拠点について**

札幌が誇る21世紀の拠点である「道庁北札管内都市計画マスタープラン」において、**地域の活性化を図るための地域交流拠点の創出**として市内各地を重点的な取組地域に計画されています。

札幌市都市計画部・都市計画課作成の都市計画マスタープラン

**これまでの取組**

**デジタル最先端のよきまちづくり委員会**

パネルの検討作業のサポート、市民参加型ワークショップの開催・実施など

**ふるさとササキのまちづくりフェスタ**

さまざまな交流が生まれる場を提供しながら、ふるさとササキのまちづくりを推進

**これまでの取組**

**地域に力を入れる地域振興策**

地域活性化の取組を支援する取組を開始

**防災拠点によるまちづくりの取組**

防災拠点の活用によるまちづくりの取組を推進

### きよラボの振り返り(令和3年度の活動)

地域交流拠点の活用(「遊び」)の推進とアートの推進を軸に、活動の中心として定立した。きよラボの活動の振り返り(令和3年度)を実施しました。

**「遊び」を中心とした暮らしの提案**

**「遊び」の推進**

**「暮らし」の提案**

**まちの価値を高める**

令和3年度は上記の提案を軸に活動を進め、市民交流の場として実践実験を実施

### 今後について

**「遊び」における検討**

遊びの場としての活用を推進し、市民交流の場として定立した。きよラボの活動の振り返り(令和3年度)を実施し、今後の活動の方向性を検討します。

**「遊び」における取組の方向性**

- 本邦産品に特化した取組
- アート・デザイン・デザイン
- アート・デザイン・デザイン
- アート・デザイン・デザイン

**駅前店における検討**

駅前の活用を推進し、市民交流の場として定立した。きよラボの活動の振り返り(令和3年度)を実施し、今後の活動の方向性を検討します。

**協力が続くおきたくなるまちづくりのガイドラインの策定**

まちづくりの推進を推進し、市民交流の場として定立した。きよラボの活動の振り返り(令和3年度)を実施し、今後の活動の方向性を検討します。

### きよラボの振り返り(令和3年度の活動)

**地域交流拠点の活用を軸とした活動**

**街路の中心としてまちの価値を高めるための取組**

まちづくりの推進を推進し、市民交流の場として定立した。きよラボの活動の振り返り(令和3年度)を実施し、今後の活動の方向性を検討します。

### きよラボの振り返り(令和3年度の活動)

**地域交流拠点に活用される取組**

まちづくりの推進を推進し、市民交流の場として定立した。きよラボの活動の振り返り(令和3年度)を実施し、今後の活動の方向性を検討します。



### きよラボの振り返り(令和3年度の活動)

**まちの価値を高める活動-取組の案**

**暮らしをつくる**

- オープンカフェ
- きよたえ工場の取組
- まちのイベント など

**つながりをつくる**

- 道の駅づくり
- 観光を学ぶワークショップ など

## 令和4年度のきよラボの活動

### きよラボの活動(令和4年度の活動)

**検討** 令和3年度 きよた暮らしラボ

地域交流拠点活用を中心とした暮らしの提案

「遊び」の推進を推進し、市民交流の場として定立した。きよラボの活動の振り返り(令和3年度)を実施し、今後の活動の方向性を検討します。

**実行** 令和4年度 きよた暮らしラボ

令和4年度に同じく「遊び」の推進を推進し、市民交流の場として定立した。きよラボの活動の振り返り(令和3年度)を実施し、今後の活動の方向性を検討します。



### 令和4年度 きよた暮らしラボ（ワークショップ）

令和4年度きよた暮らしラボの実施

第1回 7月2日（日）13:30～15:30（事前申込制）  
恒常的なにぎわいに向けた実証実験について

第2回 7月24日（日）13:30～15:30（事前申込制）  
秋の実証実験について

秋の実証実験（内容未定）

第3回 11月19日（土）13:30～15:30（事前申込制）  
冬の実証実験について

冬の実証実験（内容未定）

第4回 2月10日（日）13:30～15:30（事前申込制）  
実証実験を踏まえた今後の取組について

## 秋の実証実験の 企画（たたき台）について

### 実証実験の目的

清田区役所周辺における恒常的なにぎわいや交流の創出に向けた効果的な手法を検討します。

令和3年度のワークショップで出された意見を基に秋と冬の2回の実証実験を行います。

### 令和3年度のワークショップでの検討結果（再掲）

有効なアイデアは恒常的なにぎわいを実現する上で、エリアごとの機能について検討が必要と見込まれました。

エリアごとの機能について（リード）

人が集まる交流機能（即席型）

活動や取り組みについて（ソフト）

つながりをつくる

### 実証実験のタイトル（案）について

「清田区役所周辺」を「清田区役所周辺」から「Fun（楽しさ）」や、「遊」に結びつけることで、「子どもが楽しめる」から「Fun（楽しさ）」とした場合、「楽しむ（Fun）」が「楽しむ（Fun）」のキーワードになります。

「楽しむ」と「遊ぶ」というキーワードを、さらに「Fun（楽しさ）」と「Fun（遊ぶ）」の両方から「Fun! Fun! Kiyota」としていただきます。

清田の楽しみづくりで楽しめるキョーラーF  
楽しみ(Fun) 好きになる(Fun)

実証実験のタイトル(案)  
**Fun! Fun! KIYOTA**

### 実証実験の概要（企画のたたき台）

(1) 実証実験の基本的な考え方

(2) 実証実験の概要

① 区役所でのオープンカフェ

② 区民センター周辺でのまち歩き



(3) 区役所と区民センターをつなぐ実証実験

	9/28 土	9/29 日	9/30 月	10/1 火	10/2 水	10/3 木	10/4 金	10/5 土	10/6 日
オープンカフェ									
まち歩き									

賑わいをつくる

### ① 区役所でのオープンカフェ

**<アイデア>**

- 区役所にオープンカフェを設置することで区民に対して日常的に区役所を利用してもらう。



オープンカフェイメージ

**<おのアイデア>**

- 区民目土のコミュニティセンターを促す。
- コーポラにネットワーキングを促進して、ライブスペースでも利用できる。など

関わってもらえそうな人・団体(想定)

- ・ 若い世代(学生)
- ・ 実業関係(想定)
- ・ 区民センター、区民会館、コーポラなど

### ■オープンカフェのイメージ(区役所)





つながりをつくる

### ② 区民センター周辺でのまち歩き

●例) 歴史を感じるまち歩き 清田のルーツを探せ！ 清田用水路の跡

**<アイデア>**

- まち歩きつづき土曜の増巻などの清田区に詳しい方をガイドにして清田区役所や区民センター周辺でまち歩きを行う。
- 厚別神社や清田用水路跡などの清田区の歴史を知らりながらまち歩きを行う。

**<おのアイデア>**

- 神主から話を聞くことができる。
- 清田用水路跡が流れていた道を巡る。など



厚別神社



清田用水路跡

関わってもらえそうな人・団体(想定)

- ・ 区民センター周辺の職員、区民センターの神主、清田区内の歴史に詳しい方。など
- ・ 実業関係(想定)
- ・ 清田区民センター、区民センター周辺。など

つながりをつくる

### ●例) 子ども探検隊 木の合う仲間たち

**<アイデア>**

- 清田緑地を利用した小・中学生が対象の自然を体験したイベントの開催
- 運営やガイドを区内の大学生や高校生と協力する。

**<おのアイデア>**

- 清田緑地を利用したネイチャーゲーム
- 道の駅清田緑地でのイベント開催。など



清田緑地



ネイチャーゲームのイメージ

関わってもらえそうな人・団体(想定)

- ・ 札幌(自然体験)大学、清田区民センター。など
- ・ 実業関係(想定)
- ・ 清田区民センター、区民センター周辺。など

## 意見交換

### 意見交換

テーマ

## 秋の実証実験に向けた企画を考えよう

### 意見交換

① 秋の実証実験の企画について意見交換

- ・ オープンカフェの企画のアイデア
- ・ まち歩きの企画のアイデア。など

② 実証実験の実施に向けた進め方について

- ・ 関わってもらえそうな人や団体。など

#### 4) 会議結果

##### ①区役所でのオープンカフェ（にぎわいづくり）について

###### ●実証実験のタイトル

- ・「Fun！Fan！KIYOTA」とする。

###### ●オープンカフェの実施場所

- ・区役所ロータリー付近を基本に、消防署横のオープンスペースを活用することも考えられる。
- ・区役所の1階ロビーも使えるようにすると、天候に影響されない。
- ・市民交流広場で実施する場合は、テーブル・椅子の下に簡易な人工芝を敷く。
- ・宮田屋珈琲前のスペースを活用することも考えられる。

###### ●オープンカフェと合わせて利用を高める仕掛け

- ・オープンカフェ（テーブル・椅子・パラソル）の設置と合わせて、特に平日の利用を促進する「仕掛け」が必要ではないか。

###### 【利用を促す仕掛けのアイデア】

- ・キッチンカーの出店
- ・ちびマルシェの開催
- ・宮田屋珈琲やきのとやと連携
- ・あしりべつ神社とからめた展開
- ・フリーマーケットの開催
- ・クラフトビールの販売
- ・地元商店や商業施設（西友など）の出店 など
- ・オープンカフェ期間中にキッチンカーや販売事業者には、日替わりで出店してもらおうと良いのではないか。

###### ●運営や進行管理

- ・地元の商店や商業施設、農家など区内で活動している人や団体に関わってもらう。
- ・継続性を考えると、実施に向けたハードルを上げすぎないようにする。
- ・平日対応は難しいため、実施期間中のオペレーションはあまり大変にならないようにする。
- ・販売は各事業者に行ってもらう。
- ・販売事業者とも協力して、情報発信や告知を行う。

###### ●移動や交通の確保

- ・バスなどの交通手段があると参加しやすい。
- ・まちづくりセンターを巡って区役所に連絡するバスルートなどが考えられる。
- ・バスを走らせることで、移動や交通のニーズもわかるのではないか。

### ③区民センター周辺でのまち歩き（つながりづくり）について

#### ●歴史を巡るまち歩き（大人向け）

- ・歴史は大人向けとして、郷土館に主体で関わってもらおう。
- ・「ブラきよた」など清田の発展に関わる歴史を巡るプログラムが面白いのはいか。
- ・郷土館が主体となって実施すると良いのではないか。区民会議メンバーはサポートで関わる。

#### 【歴史巡りのアイデア】

- ・吉田用水跡地（清田の地名の由来）
- ・厚別川の前の形を知る
- ・水田の歴史
- ・りんご倉庫
- ・地名の歴史を学ぶ（三里塚ほか） など

#### ●清田を学ぶ・自然を体験するまち歩き（子ども向け）

- ・子ども向けは学生に企画段階から関わってもらおうと良い。
- ・学生に当日の運営やグループリーダーを務めてもらうと異年齢の交流にもなり、まちづくり活動への参加協力にもつながる。
- ・子ども向けは、清田について知ることや動植物を探すなど、「学びと遊び」が融合した企画が良いのではないか。

#### 【子どもまち歩きのアイデア】

- ・清田緑地、厚別川など自然の中でネイチャーゲーム
- ・清田クイズと関係させて学びも取り入れる
- ・いきものコレクションアプリ「バイオーム」を活用する など

#### ●実施時期

- ・9月10～12日は、神社のお祭りなどと重なっている。
- ・実施を早めるとすると、9月3日（土）～4日（日）などが考えられる。
- ・9月は地域の行事が集中しており、関係者も含めて一般参加を募ることが難しい。
- ・10月は紅葉が綺麗な時期であり、あしりべつ郷土館で子ども達とのイベント実施も考えているので、10月に行うことが考えられる。

#### ●移動や交通の確保

- ・オープンカフェと同様に、バスなどの交通手段があると参加しやすい。
- ・区内の遠方からでも参加しやすくなる。
- ・イオン北海道と連携して、バスルートができると良い。



意見をもとに、実証実験の企画を検討

## <グループごとの意見>

### Aグループ

#### ●オープンカフェ

##### <誰がやるかで変わる 販売は事業者>

- ・カフェは誰がやるかを考えなければいけない。
- ・団体の都合もあるのではないかな。
- ・誰がやるかが大切である。
- ・キッチンカーに出してもらおう。北野にあるお店から2台程度出店してもらおうことも考えられる。
- ・販売は事業者をお願いするのはどうか。
- ・ターゲットは女性と高齢者が考えられる。

##### <カフェだけでは利用されない カフェと何かが必要>

- ・平日の対応は難しいのではないかな。
- ・平日は利用されないのではないかな。
- ・カフェだけだと平日は難しいのではないかな。
- ・神社のお祭りと絡めてオープンカフェを実施してはどうか。
- ・商工会的には人が来ないと出店しない可能性がある。
- ・カフェが必要である。
- ・カフェとミニマルシェと組み合わせではどうか。
- ・ミニマルシェやフリーマーケット、物販パーゴラなども一緒に行ってはどうか。
- ・日替わりミニマルシェとカフェも開いてはどうか。
- ・クラフトビールもいいのではないかな。

##### <場所（カフェ×宮田屋×きのとや）>

- ・宮田屋さんの前のスペースで実施したらどうか。
- ・消防署の横のオープンスペースを活用してはどうか。
- ・宮田屋やきのとやとも連動させることも考えられる。
- ・区役所の中でやったら天候に影響されないのではないかな。

##### <告知>

- ・告知が大切である。

##### <清田では足の確保が必要>

- ・バスなど足の確保することが必要である。
- ・まちセンをまわってここに来るバスを走らせるといいのではないかな。
- ・バスのニーズも解るのではないかな。
- ・区民センターの移設後は駐車場が心配である。



## ●まち歩き

<時期は10月に！>

- ・10月の方がいいのではないかな。
- ・イチョウの時期に開催がいいのではないかな。
- ・関係者が集中してしまうと考えられる。
- ・秋に郷土資料館で子どもイベントの実施もいいのではないだろうか。
- ・子どもと大人の両方を実施したらどうか。

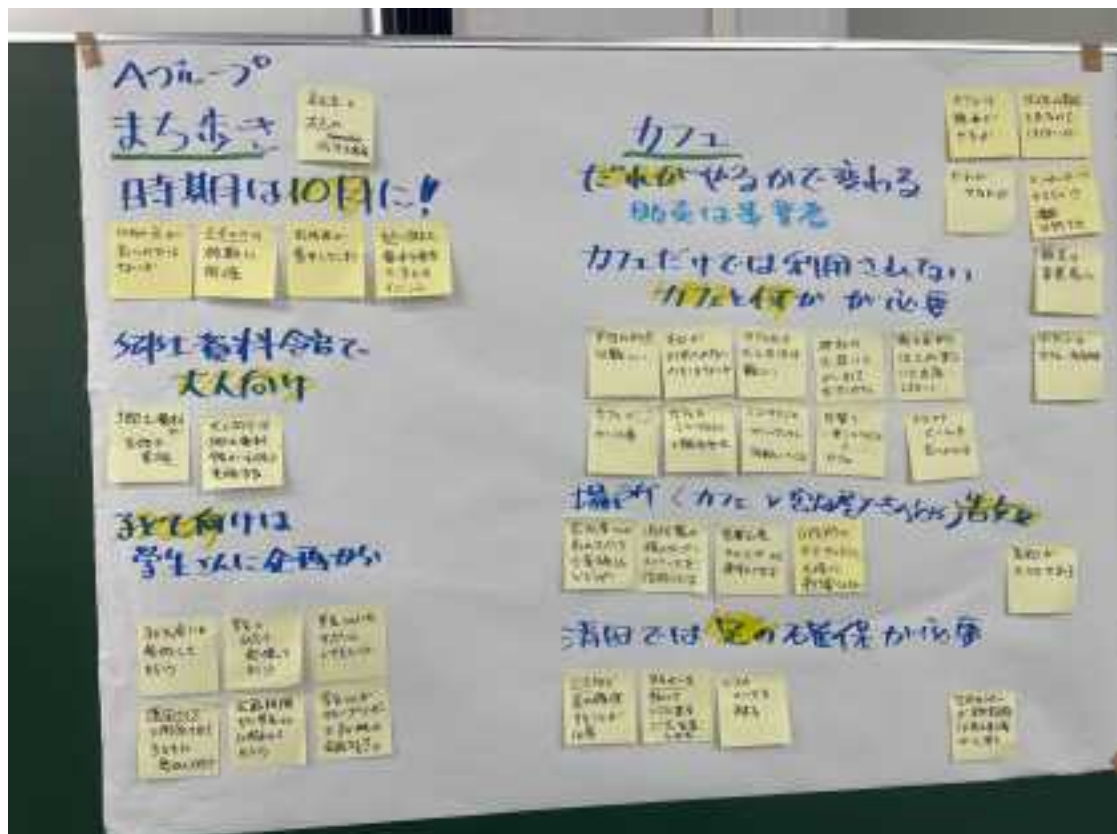
<大人向けは郷土資料館が主体で>

- ・大人向けは郷土資料館が主体で実施する。

<子ども向けは学生さんに企画から>

- ・子ども会にも参加してもらうのはどうか。
- ・学生にSNSで発信してもらおうといい。
- ・学生さんにもサポートしてもらおう。
- ・清田クイズと関係させて子どもに参加してもらおう。
- ・企画段階から学生さんに関わってもらうのはどうか。
- ・学生さんにグループリーダーとして子ども向けの企画をしてもらうことも考えられる。

## ■Aグループ模造紙



## Bグループ

### ●オープンカフェ

#### <来てもらうきっかけが必要>

- ・広場に出すならできるかもしれない(人工芝をひくか)。
- ・大道芸人など何か出し物があった方が人が来るのではないかな。

#### <西友にも協力してもらいたい>

- ・露店商の昭和マルシェは出るかもしれない。
- ・西友に参加してもらいテラスに店を出してもらえないかな。

### ●まちあるき

#### <郷土資料館とコラボして実施>

- ・郷土館で吉田用水を巡るツアーがあるので一緒にできるのではないかな。

#### <ブラきよた>

- ・ブラタモリ風にまち歩きするプログラムをつくるとおもしろいのではないかな。
- ・吉田用水は清田の地名の由来であり、清田らしさである。
- ・地名の由来を学ぶとおもしろい(“三里塚”など)。
- ・青田の水田が残されている。
- ・豊平町だったなごりのリンゴ倉庫(赤レンガ)がある。

#### <実施日>

- ・お祭りが9/10～12で重なっている(三里塚・厚別)。
- ・9/3～9/4の方がいいのではないかな。

#### <交通手段が必要>

- ・イベントをやるならバスを出して遠いところからも参加できるようにしたい(イオンなどと連携)。

■Bグループ模造紙



## C グループ

### ●オープンカフェ

- ・キッチンカーを呼ぶべきである。
- ・きよたスイーツはマルシェの野菜等を使っているものもあるので目玉にしたい。
- ・梅をイメージした和菓子をみつやさんが作っているのでそういったこの周辺をイメージしたスイーツを販売したい。
- ・自然満喫倶楽部さんではイチゴパフェがあるので声かけをしたい。
- ・カレー屋さんのコクドウカレーには声をかけてみてもいいのではないかな。
- ・ココテラスさんのシフォンケーキがあるといい。
- ・11、12日でお祭りがあるので、そこに合わせると集客できそうである。
- ・広場を使って体操といった健康づくりのイベントをやる。
- ・13、14、15日が何もないのでここでオープンカフェを開く。
- ・スイーツ以外を呼ぶことで全体的に飽きにくく、長い期間できるのではないかな。
- ・ドルチェヴィータさんに協力を頼んでみる。

### ●まち歩き

#### <大人向け>

- ・大人、子どもどちらも開催する方向でいいと考える。
- ・やるのであれば金土日にするべきである。
- ・まち歩き+写真のように複数のコンテンツを絡めたい。
- ・区民センター周辺にいる動物をあらかじめピックアップして、宝探しのような感じで撮影する。
- ・ホテルがいたはずなので夜の撮影会をしたい。
- ・9月は難しいので春夏秋に継続的にやっていくことで夏のメインにしたい。
- ・今回は秋なので紅葉がメインになりそうである。

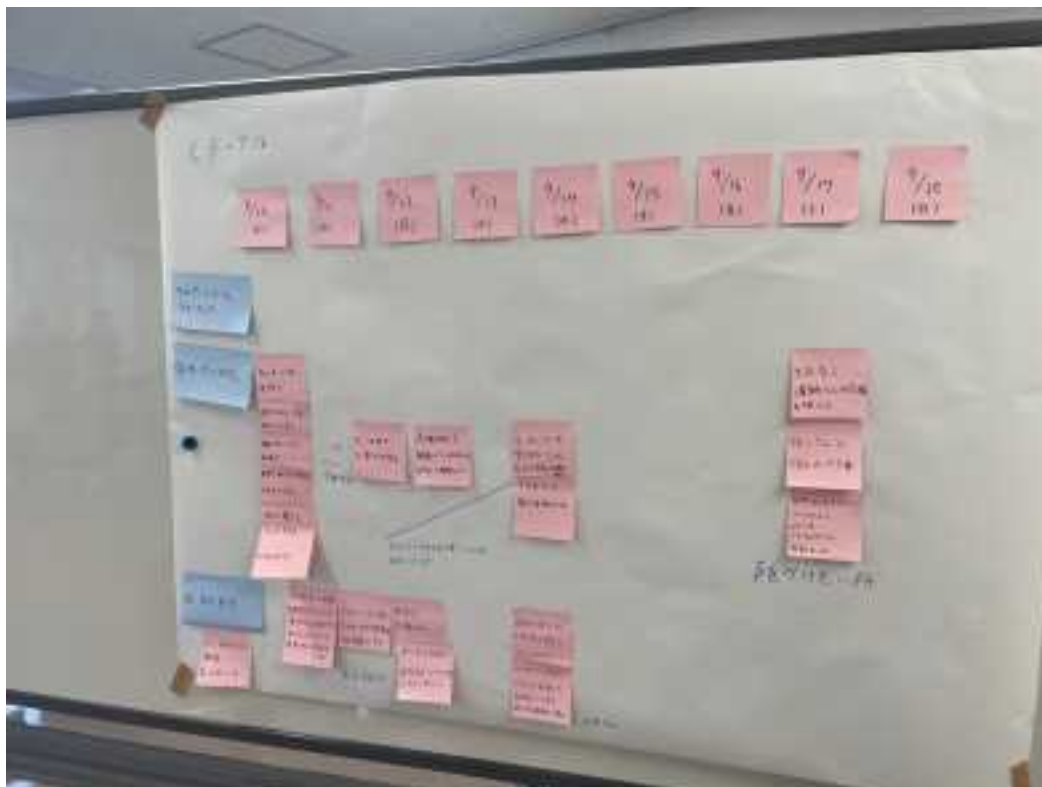
#### <子ども向け>

- ・自然の中で遊ぶことが減っているので自然を活用したい。
- ・活用するにあたって何をするのかのイメージを考える。
- ・実現が難しいと思うがバイオーム(図鑑アプリ)を使って勉強しつつ歩き、見つけた種類で特典といったものがいいのではないかな。

### ●声をかけたいところ

- ・土日なら道銀さんの広場も使える。
- ・イオンさんと協力が大事である。
- ・自然満喫倶楽部、ココテラス、みつや、ドルチェヴィータ、コクドウカレー、道銀さん

■Cグループ模造紙



## Dグループ（オンライングループ）

### ●オープンカフェ

#### <気軽に参加>

- ・少ない準備で出店できる用意が必要である。
- ・雨など急な対応するための設備が必要である。
- ・入れ替わりで出店を行うといいのではないか。
- ・道具が必要なく参加者にも負担が少ないイベントを開催したい。
- ・区役所の方が利用するのではなく区民の方が主体的に参加するようにしたい。

#### <その他>

- ・農産物が旬の時期になるため、ミニマルシェと協力することも考えられる。
- ・絵が得意な方と協力して野菜の絵を描いてもらうのはどうか。
- ・区役所と図書館の渡り廊下に張り出している絵をオープンカフェで紹介するのもいいのではないか。
- ・障がい者の方が作成した布製品などをフリーマーケットで販売するのはどうか。
- ・農家さんの野菜の人気投票を行ってみてはどうか。
- ・絵本の読み聞かせなどもいいのではないか。
- ・市民交流広場でパラスポーツができないか。

### ●まち歩き

#### <子ども>

- ・字が書ける葉っぱを見つけて内容を作成するのはどうか。
- ・安全面を考えるとあしりべつ川の川沿いが良いのではないか。

#### <歴史>

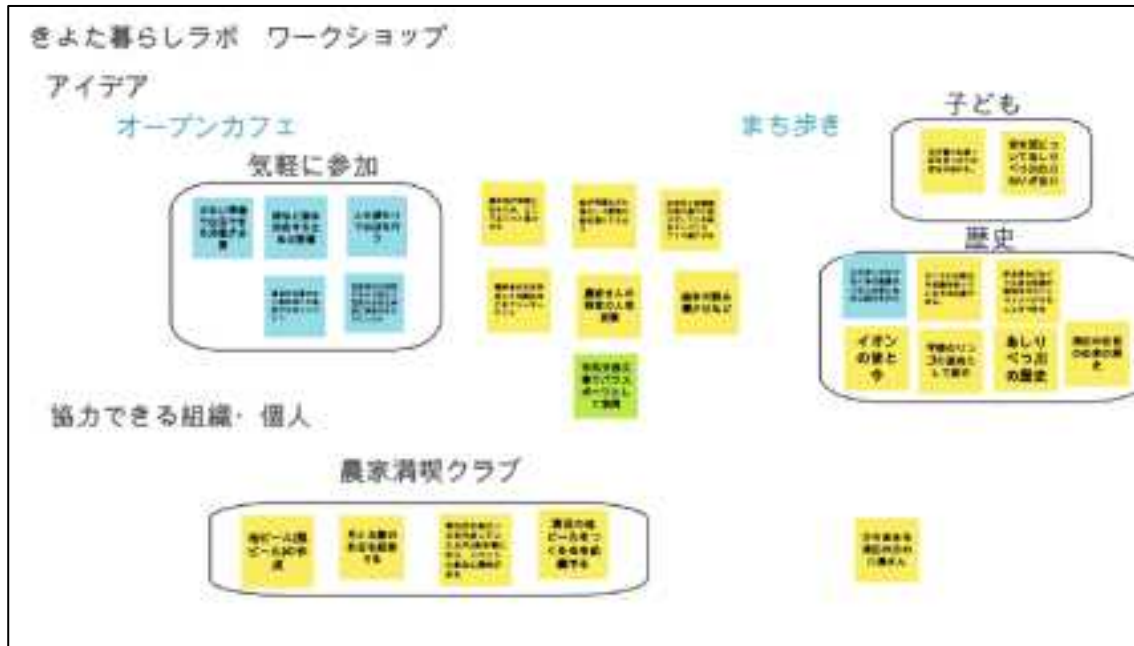
- ・ただ歩くだけでなく昔の風景のパネルを使いながら紹介を行うのはどうか。
- ・ガイドには歴史や知識を持っている方が必要である。
- ・記念碑などなくても昔の写真や説明を行うことでイメージすることができる。
- ・イオンの昔と今を比較してみてもどうか。
- ・平岡のリンゴの産地として紹介してはどうか。
- ・あしりべつ川の歴史を紹介するのも考えられる。
- ・清田の名前の由来の歴史を知るのもいいのではないか。

### ●協力できる組織・個人

#### <農家満喫クラブ>

- ・地ビール(瓶ビール)の作成も考えられる。
- ・清田区の地ビールを作成していた方(月と太陽)が2条市場におり、イベントの参加に興味があるので、協力してもらおう。
- ・清田の地ビールをつくる会を組織する。

■D グループ模造紙(オンライン参加者グループ)



## (2) 第2回きよた暮らしラボ

### 1) 開催概要

日 時：令和4年7月24日（日）13：30～15：30

場 所：清田区民センター集会室2・3

参加者：21名

事務局：札幌市政策推進課 4名

清田区 3名

株式会社グローカルデザイン 安達、高橋、白井



### 2) プログラム

時間	内容	
13：30	開会	・開会、あいさつ
13：35	情報提供	・令和3年度の振り返り ・前回の振り返り ・秋の実証実験の基本仕様・方向性 （1）オープンカフェ実験 （2）まち歩き実験（大人向け／子ども向け）
14：00	意見交換	テーマ：秋の実証実験の基本的な企画内容の確認と進め方 ①オープンカフェ実験について 基本コンテンツ（事務局が主で用意）の確認 告知や案内誘導の仕方では効果がありそうなこと など ②まち歩き実験について 「まち歩き実験の共通ポイント」を踏まえた進め方の確認 大人向け、子ども向けの企画・運営主体の確認 開催時期（10月開催） など
15：30	閉会	意見交換の振り返り



### 3) 説明資料

**秋の実証実験について考えよう！**  
**きよた暮らしラボ（意見交換会）**

第2回 ミーティング

2022(令和4)年7月24日(日)

- 1.開会・あいさつ
- 2.情報提供  
 <秋の実証実験に向けた確認・検討>  
 今年の年度の振り返り  
 商団の振り返り  
 秋の実証実験の基本仕様・方向性  
 (1) オープンカフェ実験  
 (2) まち歩き実験（大人向け/子ども向け）
- 3.意見交換  
 秋の実証実験の  
 基本的な企画内容の確認と進め方
- 4.閉会

**情報提供**  
 (あらためて、これまでの振り返りなど)

**地域交流拠点について**

札幌市東区千石の地盤である「まちづくり制のまちづくりセンター」において、**地域の魅力を伝えるための実践型交流拠点**として市内各地域を循環する拠点に活用されています。



札幌市東区千石千石町1丁目1番1号

**これまでの取組**

**デジタル観光拠点によるまち歩き実験**

ホテルの特別付添いとして、宮内省から「1泊2日のまち歩き実験」を実施



**ふるさと体験型まち歩き実験**

ふるさと体験型まち歩き実験を実施





**これまでの取組**

**地域交流拠点の活用促進事業**

地域交流拠点の活用促進事業を実施



**防災連携によるまち歩き実験**

防災連携によるまち歩き実験を実施





### きよラボの振り返り(令和3年度の活動)

地域と市民の両方から「自分」の得意な分野や得意な知識・技能を生かして、活動の輪を広げ、よりよいまちづくりを実現しようとする活動です。

**「地域」を中心とした暮らし改善アイデア**  
 地域生活改善活動の中心として、暮らし改善のアイデアを提案し、地域生活改善の推進を図ります。

**「暮らし」に必要な活動の提供**  
 地域生活改善活動の推進を図ります。

**「地域」の発展を促す活動の提供**  
 地域生活改善活動の推進を図ります。

**まちの価値を高める**  
 地域生活改善活動の推進を図ります。

### 今後について

「環境」における検討

「環境」における活動の方向性

- 本邦産品と一時的な販売
- 定量的な目標の設定
- 4K/5K/6Kの活用

「環境」における活動の方向性

「環境」における活動の方向性

### きよラボの振り返り(令和3年度の活動)

●地域生活改善活動の推進

「まちの価値を高める」ための活動

地域生活改善活動の推進

地域生活改善活動の推進

### きよラボの振り返り(令和3年度の活動)

●地域生活改善活動の推進

「まちの価値を高める」ための活動

地域生活改善活動の推進

地域生活改善活動の推進

「まちの価値を高める」ための活動

地域生活改善活動の推進

### きよラボの振り返り(令和3年度の活動)

●まちの価値を高める活動-地域の発展

「まちの価値を高める」ための活動

地域生活改善活動の推進

### きよラボの活動(令和4年度の活動)

令和3年度 きよた暮らしラボ

- 地域生活改善活動の推進
- 地域生活改善活動の推進

令和4年度 きよた暮らしラボ

- 地域生活改善活動の推進
- 地域生活改善活動の推進

### 令和4年度 きよた暮らしラボ (ワークショップ)

令和4年度きよた暮らしラボの開催

第1回 7月3日(日) 13:00～15:00 地域生活改善センター 市民会館  
 地域生活改善活動の推進について

第2回 7月24日(日) 13:00～15:00 地域生活改善センター 市民会館  
 地域生活改善活動の推進について

第3回 10月15日(土) 13:00～15:00 地域生活改善センター 市民会館  
 地域生活改善活動の推進について

第4回 2月12日(日) 13:00～15:00 地域生活改善センター 市民会館  
 地域生活改善活動の推進について

## 前回の振り返り (第1回きょうろ 7月3日(日))

### 第1回の振り返り

開催日時: 令和4年7月3日(日)13:30～15:30

開催場所: 清田区民センター集食堂2・3

テーマ: 秋の実証実験に向けた企画を考えよう

オープンカフェの企画、まち歩き企画



### 主な意見

#### (1) 区役所でのオープンカフェ(賑わいづくり)について

- 実証実験のタイトル → 「Fac1 Fac1 KYOTA」
- オープンカフェの実施場所
  - ・ 区役所コーポレーションと基本中の基本施設(区役所1階)に集まる(2階以上と、大層に騒がせたい)
- オープンカフェと合わせて利用を高める仕掛け
  - ・ ユーザーアンケート
  - ・ エビデンス(数値的検証)の確保
  - ・ フリーマーケットや商品販売の展開 など
- 運営や進行管理 → 地元商店、商家さん、市内の団体に譲ってもらい
  - ・ 誰がやるかを、最初に決めてハードルを上げずやる(ようにする)
  - ・ 物は平日の午前～正午はありたい(大人数が来ない)ようにする
  - ・ 参加は任意参加にしたい
- その他、移動や交通など
  - ・ バスなどの交通手段があることを確認し、やすい

### 主な意見

#### (2) 区民センター周辺でのまち歩き(つながりづくり)について

- ① 歴史を巡るまち歩き(大人向け)
  - ・ 歴史は大人向けとして、郷土館が主体となって実施すると良い。
  - ・ 「つづきよた」など、清田の発展に関わる歴史を巡るプログラムが面白い。
  - ・ 関係者(議員)とサポートで繋がる。
  - 【歴史巡りのアイデア】
    - ・ 清田町史館(清田の地名の由来)、郷土の歴史(3年編3冊)
    - ・ 郷土館の資料館から、
    - ・ 本町の歴史、まち歩き など
- ② 清田を学ぶ・自然を体験するまち歩き(子ども向け)
  - ・ 子ども向けは早急に企画案から譲ってもらいたい。
  - ・ 学生に当日の運営やグループリーダーを頼めよう。
  - ・ 子ども向けは、「学びと遊び」が融合した企画が良いのではないか。
  - 【子どもまち歩きのアイデア】
    - ・ 清田歴史、文化など学習のせてミニチャームゲーム
    - ・ 清田について探検させて学びも楽しめる
    - ・ コスプレのコンテストアプリやゲームも活用する など

### 主な意見

#### (2) 区民センター周辺でのまち歩き(つながりづくり)について

- 実施時期
  - ・ 8月10～12日は、神社のお祭りなど重なっていい。
  - ・ 5月は地域行事が集中しており、関係者や一般参加者も少ない。
  - ・ 10月には行事が集中しやすいため、10月に打ち上げがある。
- その他、移動や交通など
  - ・ バスなどの交通手段があることを確認し、やすい。
  - ・ 区内の道方々でも実施しやすい。
  - ・ 歴史した趣味的なプログラムができればいい。

意見をもとに、実証実験の企画を検討

## 前回の意見を踏まえた 秋の実証実験の基本仕様について

- (1) オープンカフェ実験
- (2) まち歩き実験

### 実証実験の目的(共通)

清田区役所周辺における恒常的なにぎわいや交流の創出に向けた効果的な手法を検討します。

令和3年度のワークショップで出された意見を基に秋と冬の2回の実証実験を行います。

賑わいをつくる

### (1) オープンカフェ実験について



### オープンカフェ実験の基本事項 -7月2日意見交換から

- 「清田の拠点」である区役所ロータリー、市民交流広場で開催
- 9月10日(土)～9月16日(日)の9日間が実験実験の期間  
(原簿中にあるマルチメディアボックス(9月17日(土))は開催予定)
- 基本的なコンテンツ
  - + オープンカフェ
  - + キャンペーンカー
  - + 農産物の販売(マルシェ)
  - + インフォメーションサイン
- 継続性を考慮して、当日の運営管理などはなるべく役割をしない

↓

今後は実施まで、関係者や各プレイヤーと調整していく流れの方

### オープンカフェ実験の基本仕様-スケジュール(案)

- 7月14日(水)～16日(金)の3日間実施
- 18日(日)～19日(月)は二日間実施する予定(要確認)
- 10月1日(土)～10月3日(日)は三日間実施する予定

実施期間	実施内容	実施場所
7月14日(水)～16日(金)	オープンカフェ マルシェ キャンペーンカー	区役所ロータリー
7月18日(日)～19日(月)	オープンカフェ マルシェ キャンペーンカー	区役所ロータリー
10月1日(土)～3日(日)	オープンカフェ マルシェ キャンペーンカー	区役所ロータリー



## つながりをつくる

### (2) まち歩き実験について

- ① 大人向け(清田の歴史)
- ② 子ども向け(清田の自然体験、冒険)

### まち歩き実験の共通ポイント -7月2日意見交換から

- 大人向け、子ども向けともに紅葉が綺麗な10月に行う
- 企画-運営主体は、清田に関係するプレイヤーに担ってもらう
  - 職士塾メンバー、学生メンバー
  - 各町や情報発信は本課等
- ガイド(ボランティア、解説する方、先導するリーダー)をつける
- 解説やまち歩きルートは、ストーリーを大切にする
- まち歩きには、清田住民に参加してもらう

### ① 大人向けのまち歩き -清田の歴史をテーマにした内容

※安全上全員のペース

●目的

- ・「まちの記憶」として(区民センター周辺)歴史を(重要-副都心)あると知る
- ・一歩には清田の歴史の場
- ・清田市の歴史、歩道跡などが残っていることで、将来的な開発計画へのヒントをつくる
- ・内容は各コースとして資料館にも設定

●時期

- ・紅葉が綺麗な10月の土日

●対象

- ・清田市民(歴史好きが中心の方、30~40代の方、家族など)
- ・事前申し込み制(一先着)清田駅前(区民センター)

●企画の方向性

- ・職士塾メンバーの方に企画-運営の主体になってもらう
- ・歴史を知って学ぶから、歴史に詳しくない方も楽しめる解説付きのまち歩き
- ・紅葉-歩道(一)職士塾一員(本課等)
- ・解説パンフレットを配布



## ②子ども向けのおもちゃ、自然体験、習字、ネイチャーゲーム

※下記は企画のイメージ

### 目的

- ・子ども達に植物の目・心で自然を感じてもらう
- ・暮らしの中で身近にある自然を楽しむ(体験することで、自然を好きになってもらう)など
- ・学生に企画してもらったことで責任感や交流、ふれあいの喜び

集・体験がっつかり  
集・人あつちがかり

### 時期

- ・秋葉祭期間(10月10日)

### 対象

- ・清田区民(小学生、中学生)・3年生は参加不可(家庭学習あり)
- ・事前申し込み制 → 告知・登録要は事務局

### 企画の方向性

- ・学生メンバー(北星学園+国府大学)の企画・運営の主体にしておく
- ・清田区民に親しみ
- ・イベント・ワークショップ・ライブ・パフォーマンスなど活用
- ・清田緑地を舞台にチーム運営で楽しむ内容
- ・認知イベントによる認知



## 意見交換

## 意見交換

### テーマ

秋の実証実験の基本的な  
企画内容の確認と進め方

## 意見交換

### ①オープンカフェ実験について

- ・基本コンセプト(事務局が主で用意)の確認
- ・今後、各関係者等と調整していく進め方で良いか
- ・オープンカフェのレイアウトの確認
- ・告知や案内誘導の仕方などで効果があがること など

### ②まち歩き実験について

- ・「まち歩き実験の共通ポイント(仮?)」を詰めた進め方で良いか
  - ・大人向けは課土館のローが主体で企画・運営
  - ・子ども向けは学生メンバー主体で企画・運営
- ・開催時期(10月が有力) など

#### 4) 会議結果

##### ①オープンカフェについて

###### ●実証実験の目的

- ・実証実験の主な目的は、清田区役所周辺における恒常的なにぎわいや交流の創出に向けた効果的な手法の検討である（秋・冬共通）。

###### ●実証実験の検証内容

- ・オープンカフェでは、清田区の拠点にある公共的な空間の日常利用を探るため、「オープンスペースの日常利用に必要な機能の展開による集いや憩いの創出可能性」、「一定期間のオープンカフェ実施による日常利用向上の可能性」を検証する。
- ・にぎわいの拠点に区民が日常的に足を運べるように、「交通機能の検証」を検証内容に加えてはどうか。

###### ●基本的なコンテンツ

- ・オープンカフェで展開する基本的なコンテンツは以下のとおり。
  - ・オープンカフェ（パラソル、イス、テーブル）
  - ・キッチンカー
  - ・農産物マルシェ
  - ・インフォメーションサイン

###### ●区民のニーズの把握

- ・実施中は来場者数の集計や来場者へのアンケートなどで区民のニーズを把握する。
- ・アンケートでは「日常的な利用の意向」「にぎわっている印象」などを聞く。

##### ②まち歩き（大人向け、子ども向け）について

###### ●郷土館や大学及び学生が主体となったまち歩き

- ・大人向けの方は清田の歴史をテーマとして、あしりべつ郷土館が主体となって進めてもらう。
- ・子ども向けの方は清田の自然をテーマに、大学（国際大学など）や学生が主体となって進めてもらう。
- ・どちらもあしりべつ郷土館や学生が連携して取り組めると良い。
- ・まち歩きなどの活動に取り組むために主体同士が連携する仕組みづくりの1回目と捉えてはどうか。
- ・実施期間は、10月を目処とする。



意見をもとに、実証実験の企画を検討

## <グループごとの意見>

### Aグループ

#### ●オープンカフェ

##### <検証内容と基本的なコンテンツ>

- ・オープンカフェの基本的なコンテンツは良い。
- ・既に区内にはにぎわいづくりのイベントがいくつもあるため、オープンカフェで展開するコンテンツはもっと少なくすることも考えられる。
- ・オープンカフェを行って恒常的なにぎわいの状況を検証するのであれば、来庁数のカウントが必要ではないか。普段より来庁者が増えれば、にぎわっているという指標になるのではないか。
- ・来場者アンケートで区民のニーズを把握する。
- ・アンケートでは、普段からのにぎわいに何が必要であるか、なども聞く必要がある。
- ・把握した区民のニーズは、市民交流広場や区民センター、区役所の将来的な機能拡充に活かせるようにする。屋外でも座って休める環境の必要性、飲食や物販機能の可能性などもアンケートで把握する。

##### <交通機能の検証>

- ・交通機能の検証は必要ではないか。
- ・移動手段がないため、居住地区から拠点に来ることができない人もいる。
- ・イオンとのバス連絡も考えられるが、利用者層に限られる。イオンと区役所の利用は運動性が少ない。
- ・高齢化している地区やまちづくりセンターを小型のマイクロバスで巡り、区役所に連絡させる。
- ・バスに限らず区内のタクシー会社との連携も考えられる。
- ・区役所までの交通機能があることで、どの程度利用するのか検証できるのではないか。
- ・将来的にコミュニティバス(きよバス)運営の可能性につながるかもしれない。
- ・地下鉄延伸や西友のバスセンター化などについて議論すると、今までと同じになってしまう。2カ年の意見交換で、恒常的なにぎわいづくりに向けてまずはできるところから試してみる、という事の結果としてオープンカフェを行ってみることになったのだと思う。
- ・ただし、区役所や市民交流広場に常に人がいる環境をつくるため、交通機能の検証も必要ではないか。

##### <実施期間>

- ・9月10日に平岡樹芸センターでひらおか庭園コンサートが3年ぶりに開催される。
- ・そこを外して、9月11日～18日までの期間にすることも考えられる。

#### ●まち歩き

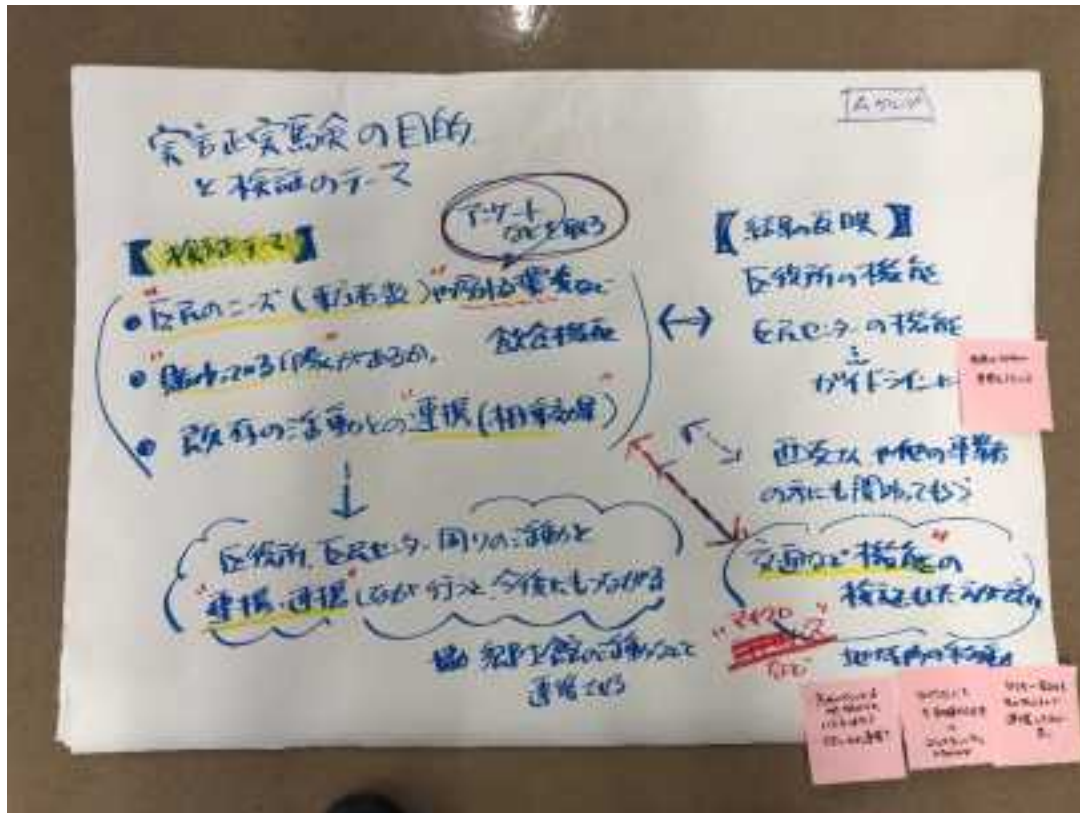
##### <実施時期>

- ・歴史をテーマにしたまち歩きを郷土館が行うことはできる。
- ・郷土館では春や夏にまち歩きのイベントを実施している。その企画や進行などを秋バージョンに組み替えることで、10月にできるのではないか。
- ・区内や清田区と関係している大学があるため、学生と郷土館が連携して取り組めると良い。

#### ●その他、各事業者等との連携の促進について

- ・地域交流拠点清田付近には西友が位置している。西友に声を掛けてまちづくりに協力・参加してもらうことが大切である。

■Aグループ模造紙





## B グループ

### ●オープンカフェ

#### <その他コンテンツ>

- ・その他コンテンツについては広さを提示する。
- ・ナイロンたわしなど、個人で出店する。
- ・スペースの内容や時間を明確に。
- ・フリーマーケットなど。
- ・事務局であらゆるメディアを通して呼びかける。
- ・子どもの服などを交換する場を子育て世代が探している。

#### <スペースの検討>

- ・マルシェのスペースが狭い。
- ・観るスペースの確保。
- ・座席スペースの想定は？(お年寄り向け)。
- ・飲食するスペース。
- ・MAXは2万人ということも想定する(10日間で100人)。

#### <あらゆる情報発信>

- ・Twitter やひろまる清田 HP で速効性のある情報発信。
- ・区内の施設に告知を協力してもらう。
- ・町連 HP での広告は可能か、回覧板？

#### <イベントの目的 実証結果をどう検証するか>

- ・移動手段の確保。
- ・区民と出店者の距離感が近い”にぎわい”とは？
- ・アンケートをとる→次の課題を把握。
- ・イベントのアーカイブをプロに発信してもらう、清田の取り組みを知ってもらうことも必要では？

#### <イベントを運営する人の確保>

- ・イベントの参加や企画を先生なども検討することで継続できる。
- ・清田高校さんに参加してもらう。
- ・小、中学生の参加も検討。

#### <平日の内容を検討し、継続>

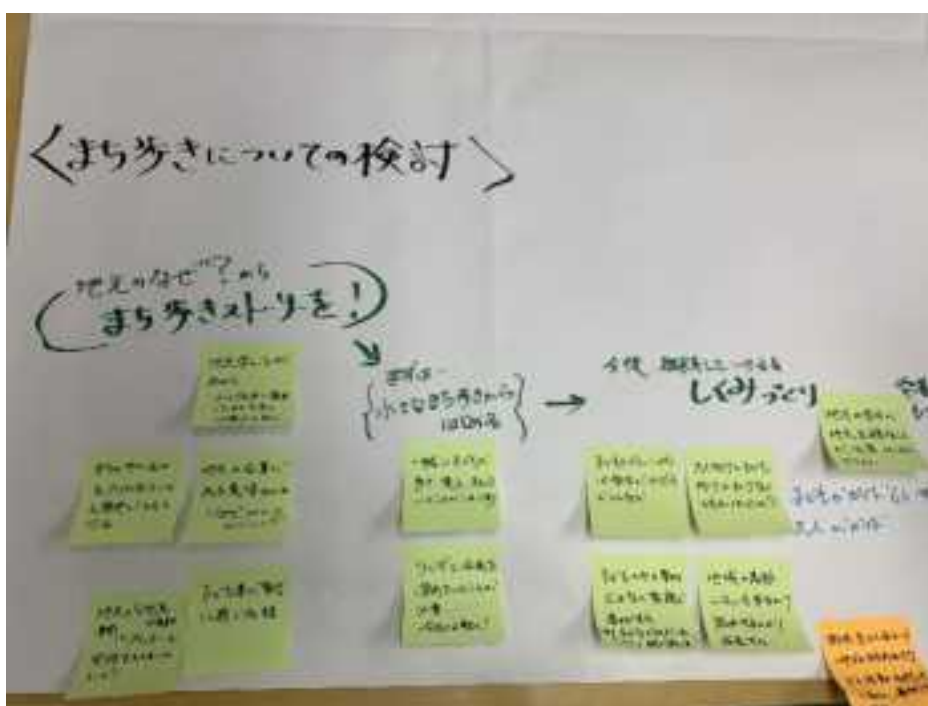
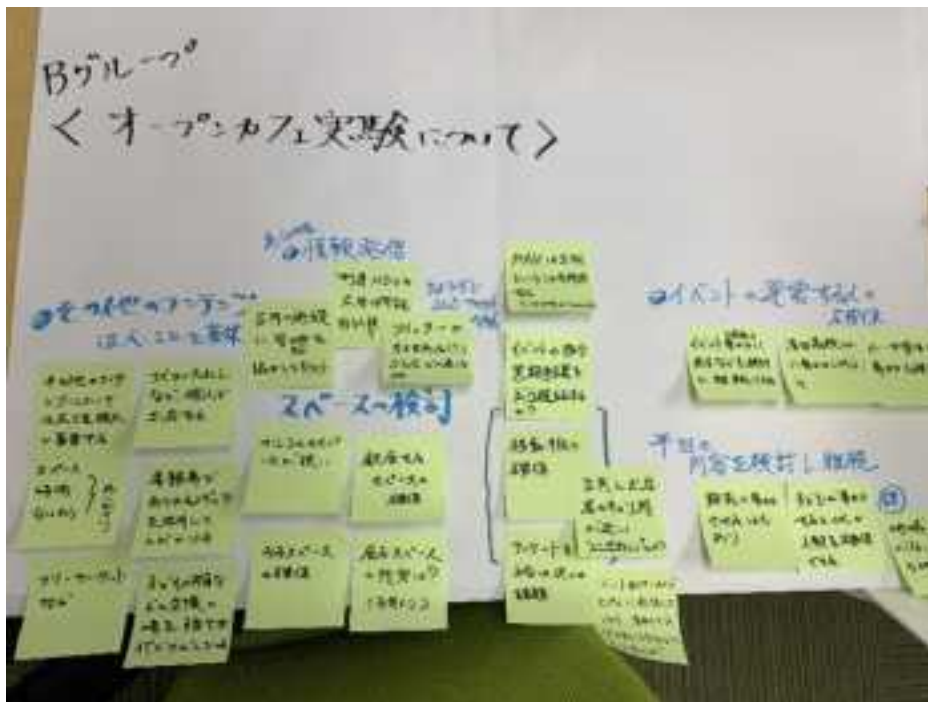
- ・販売に参加させることもあり。
- ・子どもが参加すると、+αの人数を確保できる。

### ●まち歩き実験

- ・地元学から始めよう、水の流れに着目して街を歩く人の営みを学ぶ。
- ・街の中の石碑を確かめていくと歴史が紐解ける。
- ・地元のなぜ？や魅力を事前に Twitter で発信すると良いのでは？
- ・地元の企業がある意味を探る”なぜ、コカ・コーラさんがここに？
- ・子ども達が身近に感じる話。
- ・一緒に子どもが歩き、覚え、知っていくことがはじまり。

- ・少しずつ企画を深めていくことが必要。今回は軽く！
- ・子どものグループには学生がサポートでつくなど。
- ・大人向けと子ども向けに分けなくてもよいのでは？
- ・子どものみの参加ではなく家族で参加する（例）子どもが問題を作り、親が答える。
- ・地域の高校など色々なところに声をかけ協力してもらえるとより成長する。

■Bグループ模造紙



## C グループ

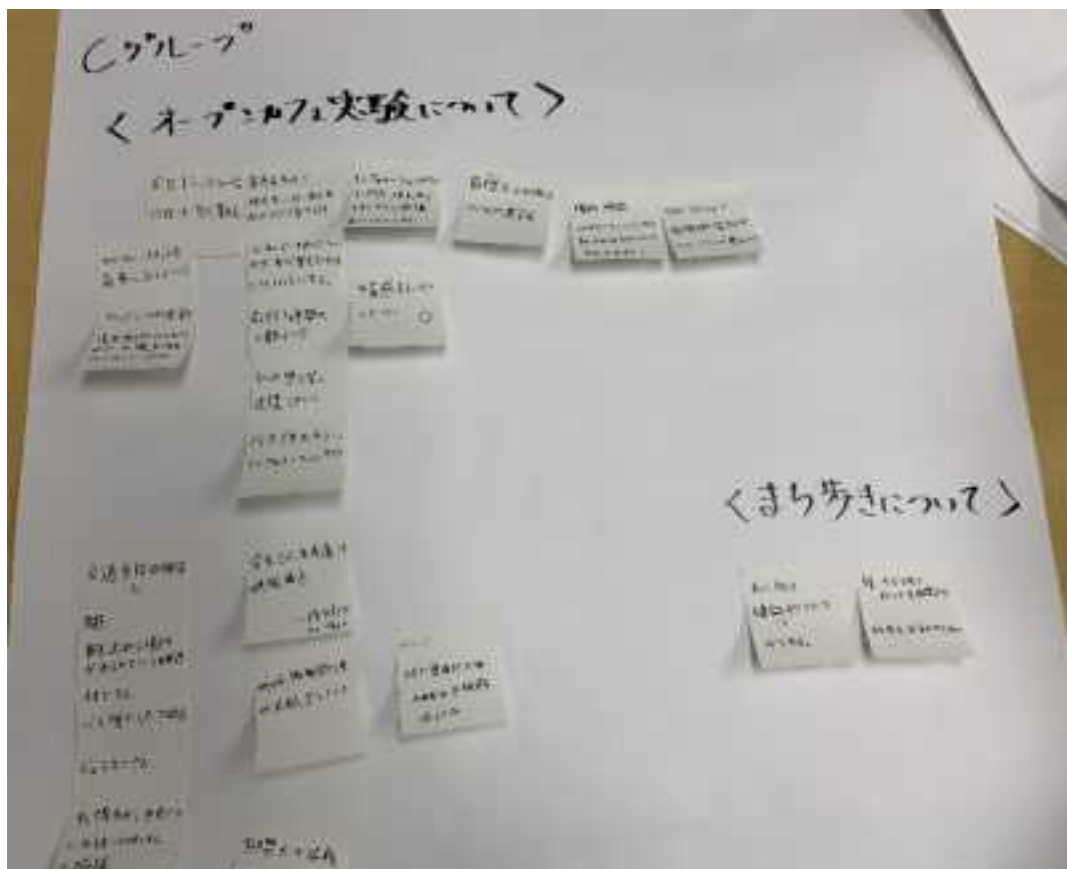
### ●オープンカフェ

- ・平日はトラック2～3台。17日(きよフェス開催)は多く集まる。
- ・マルシェのメリットを前面に出していく。
- ・清田をメインにしているのか、札幌全体をメインにしているのか。
- ・交通手段の確保。
- ・車を止める場所があるか確認。
- ・イオンさんがバスを増やしたことある。
- ・じょうてつさんなどが想定される。
- ・札幌市から中央バスにお話→イオンさんと協議。
- ・実験なので何もない日、ある日のメリハリをつける。
- ・どれくらい呼びたいのか、年代等をターゲットとしてはっきりさせる。
- ・前後一週間の人数のデータを把握。
- ・3つの祭り等と連携していく。
- ・バス停あたりにインフォメーションサインを設置。
- ・学生さんを考慮した時間帯(～19時、21時など)。
- ・地域振興課が広報を出していた。
- ・国際大から広報出せるかも(人集まるかは不明)。
- ・インフォメーションサインのサイズが決まったらイオンさんと協議→置けるかも。
- ・予算感をしっかりしていく。
- ・イオン専用バスはこの回だけ区役所通るとか。
- ・国際大との協力(マルシェの運営等)。
- ・場所や時間、プロモーションをしっかりすれば土日のイベントは学生が来そう。
- ・ちびマルシェに国際大の皆さんがスタッフとして関われそう。

### ●まち歩き

- ・8/6に子ども向けイベントを国際大で行うので、まち歩きは任せて欲しい。

■C グループ模造紙



### (3) 第3回きよた暮らしラボ

#### 1) 開催概要

日 時：令和4年10月22日（土）13：30～15：30

場 所：清田区役所3階大会議室

参加者：16名

事務局：札幌市政策推進課 2名

清田区 2名

株式会社グローカルデザイン 安達、高橋、荒谷、白井



#### 2) プログラム

時間	内容	
13：30	開会	・開会、あいさつ
13：35	情報提供	・地域交流拠点清田の取組についておさらい ・Fun! Fan! KIYOTA ～秋の実証実験の結果について （1）9月 オープンカフェ&マルシェ （2）10月 きよっち探検隊 in あしりべつ(まち歩き)
14：00	意見交換	テーマ：秋の実証実験の振り返り、冬の実証実験の内容検討 ①オープンカフェ&マルシェ、まち歩きの今後について ・当日の感想、アンケート結果の印象 ・継続的に行っていく場合のアイデア など など ②冬の実証実験の企画・アイデアについて ・検証内容 ・実施内容・体制 など
15：30	閉会	意見交換の振り返り

### 3) 説明資料

**秋の振り返り、  
冬の実証実験について考えよう！**

きよた暮らしラボ(意見交換会)  
第3回 ミーティング

2022(令和4)年10月22日(土)

- 1.開会・あいさつ
- 2.情報提供  
 <秋の実証実験の結果>  
 ・地域交流拠点『清田』の取組についておさらい  
 ・Fun! Fun! KIYOTA ー秋の実証実験  
 (1)9月 オープンカフェ&マルシェ  
 (2)10月 きよた探検隊inあしり<<つ(まち歩き)
- 3.意見交換  
 秋の実証実験の振り返り  
 冬の実証実験の企画内容を考える
- 4.閉会

**情報提供**  
(あらためて、地域交流拠点『清田』の取組について)

**きよらボの振り返り(令和3年度の活動)**

●令和3年度きよらボの概況結果(概観向上策)

「清田の中心としてまちの活性化を図る交流拠点を育成。そのために、運営委員会発行の『清田』の取組イメージや取組内容などを検討し、概観向上にはカード・マップ・下書きメントの活用が必要と判断されました。

**地域交流拠点『清田』の取組についておさらい**

『清田』における検討

『清田』における取組の方向性

- 市民交流広場の機能拡充  
 交流・交流機能、情報発信機能  
 子育て支援機能、教育機能など
- 定期的なイベントの開催  
 オープンカフェ、マルシェ、  
 まち歩き、冬を楽しくイベントなど
- 区民モニターや区役所ユースターの  
 特長的な活動

『清田』における検討

『清田』における取組の方向性

● 市民交流広場の機能拡充  
 交流・交流機能、情報発信機能  
 子育て支援機能、教育機能など
- 定期的なイベントの開催  
 オープンカフェ、マルシェ、  
 まち歩き、冬を楽しくイベントなど
- 区民モニターや区役所ユースターの  
 特長的な活動

**きよらボの活動(令和4年度の活動)**

検討 令和3年度 きよらボ

- 地域交流拠点清田を中心とした暮らし方セミナー
- 地域交流拠点清田に必要な検討を概観
- 地域交流拠点清田の市民主体となった街づくりを進める

検討 実施 令和4年度 きよらボ

- 令和3年度に話し合ったアイデアなどをまもると、実際に実施実験などを実施してみる
- 実施実験やワークショップ(きよら暮らしラボ)を重ねながら、検討を進めていく

**令和4年度 きよら暮らしラボ(ワークショップ)**

令和4年度きよら暮らしラボの概況

第1回 7月2日(日)13:30～15:00 地域交流センター(清田) 地域交流拠点『清田』について

第2回 7月24日(日)13:30～15:00 地域交流センター(清田) 秋の実証実験について

本日 秋の振り返り(10月)  
 秋の実証実験『オープンカフェ&マルシェ、まち歩き』

第3回 10月22日(土)13:30～15:00 地域交流センター(清田) 秋の実証実験振り返り、冬の実証実験について

冬の実証実験(11月)を予定

第4回 2月10日(日)13:30～15:00 地域交流センター(清田) 冬の実証実験振り返り、令和4年度の取組について

**実証実験 Fun! Fun! KIYOTA の概要**

運営していただく内容が町民のみなさまからご協力いただけること、実施実験を行うことに、清田で実施する方向にも協力していただくこと。

9月 オープンカフェ&マルシェ

10月 きよた探検隊(まち歩き)

11月 冬の実証実験(予定)

アンケートなどで区民の日常使いのニーズを把握し、『清田』の機能向上検討に活用



にぎわいをつくる

**Furi Furi Kiyota  
オープンカフェ&マルシェ**

- ① 実施概要
- ② 立ち回り
- ③ 実施内容
- ④ アンケート結果
- ⑤ キャンペーン・広告等の状況
- ⑥ 参加内容の評価

**「Furi Furi Kiyota オープンカフェ&マルシェ」の概要**

- 開催目的：
  - 街中のオープンスペースを有効活用し、オープンカフェやマルシェなどの新たな集客の場を創出し「にぎわいづくり」の可能性を模索します
- 実施時期：2022年9月10日(土)～18日(日) 10時～17時  
 (9月17日(土)は「いきよフェス」開催)
- 開催場所：清田駅前(ロータリー)、清田文化広場
- 実施内容と基本コンセプト
  - ① オープンスペースで自然的に集いや憩うなどの行動誘出の可能性
    - 利用者が自然と集い休憩として活用できるオープンカフェとマルシェの設置
    - プロフェッショナルラインの設置
  - ② 一定期間のオープンカフェ&マルシェ実施によるロケ利用向上の可能性
    - 日常的な集客が想定されるターゲティング
    - にぎわいづくり(集客効果の向上)



9/10～9/16・18(オープンカフェ&マルシェ)



オープンカフェ設置中

マルシェ設置中

9/10～9/16・18(オープンカフェ&マルシェ)



9/10～9/16・18(オープンカフェ&マルシェ)



オープンカフェ設置中、ネットカフェも自然と集客

9/10～9/16・18(オープンカフェ&マルシェ)



※ 日通しが多く、気温が高めの気象では、オープンカフェ(白いテーブルと椅子)の利用は少なく、市民文化広場の傘(ひざし)がある道路ベンチも利用する傾向

9/10～9/16・18(オープンカフェ&マルシェ)



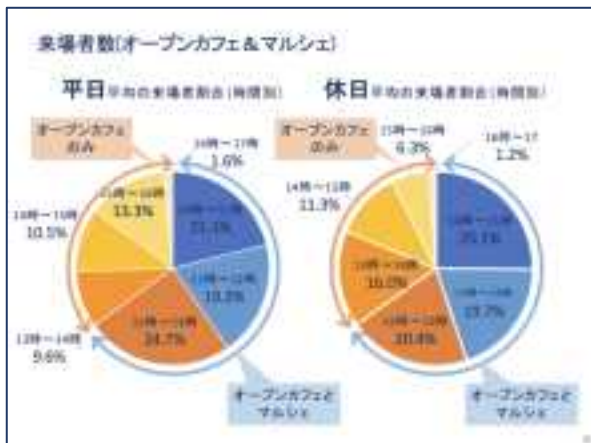
※ 日が当たってくる方々の休憩場や日陰しが少ない(日あたり)は、ネットカフェで買い物をオープンカフェセット(白いテーブルと椅子)を利用する人が多い

※ 自然的な集客効果には、共通をつくる施策等が必要



9/17いきよフェス&きたマルシェ





来場者へのアンケート調査

(1)実施概要

- 実施期間: 2022年9月10日~2022年9月18日
- 回収数: 総122, W35:43, あしこべつ神社会館:38, あしこべつ神社駅前会館でも調査を実施

(2)設問内容

オープンカフェとマルシェ	あしこべつ神社会館
問1.性別	問1.性別
問2.年齢	問2.年齢
問3.お住いの地域	問3.お住いの地域
問4.一緒に来た方	問4.「オープンカフェとマルシェ」の両方来た方
問5.本気でお参りしたか	問5.一緒に来たか
問6.アツクお参りしたか	問6.お参りしたいか
問7.アツクお参りできなかったか	問7.滞在時間、今後の滞在希望
問8.お参りしたい理由	問8.アツクお参りできなかった理由
問9.お参りできなかった理由	問9.お参りできなかった理由
問10.お参りできなかった理由	問10.お参りできなかった理由
問11.滞在時間、今後の滞在希望	問11.お参りできなかった理由
問12.お参りできなかった理由	問12.お参りできなかった理由

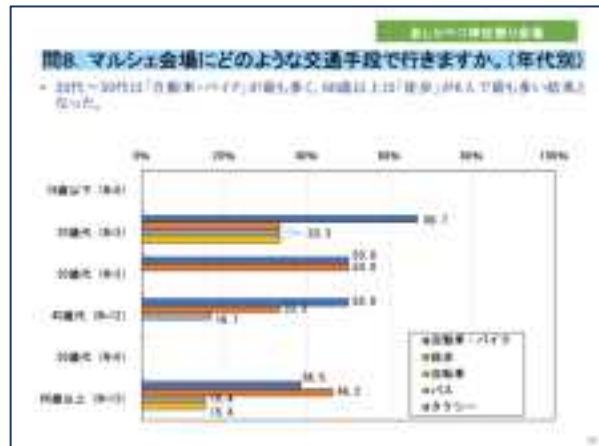
アンケート結果の概要

- オープンカフェ&マルシェの満足度は高い
  - オープンカフェ&マルシェの満足度は高い、特に女性・60代以上の世代の満足度は高い傾向である。
  - 今後も今年代を以て、今後も定期的に開催予定である。
- 広場には、心地よく滞在できる機能が必要
  - イベントの開催時間は12時~14時の間で、来場者にもより快適に過ごしていただくには、日陰がもっとある広場にしたいという声が多く聞かれた。
- コンテンツ(活動)や対象に応じた「相互」の情報発信を
  - イベントを知ったきっかけは、お友達からの情報が最も多かった。一方で「友達に知った」「近所から知った」が、お参りした回数が多い。お参りした回数が多いことから、お参りしたきっかけに応じた情報発信の必要性が改めて確認された。
- 「清田」の機能向上には交通機材の充実も必要
  - お参りした理由として「お参りしたい」という声が多く聞かれた。お参りした理由として「お参りしたい」という声が多く聞かれた。お参りした理由として「お参りしたい」という声が多く聞かれた。









**問12. 自由記載(一部抜粋)**

**イベントについて**

- ・マルシェや音楽イベントなど定期的に開催される事を希望
- ・飲食イベントが増えるとうれしいと思う
- ・子どもが遊べる場所や場所が増える
- ・フリーマーケットやイベントの開催

**子供について**

- ・安全で安心できる
- ・テラスなどで遊びが欲しい

**ゆっくりつづける空間**

- ・ゆっくり休んで飲食できるスペースがあると良い
- ・広場は芝生にしたい
- ・カフェなどがあがる
- ・イベントスペースを確保したり、日陰のベンチや椅子など

**交通手段**

- ・地下鉄が来て欲しい
- ・地下鉄があれば周辺の駅から人が来ると思う
- ・オートバイやシャトルバスの運行







### 生活に大変に詳しい道具はありますか?

道具	回答数
ブランコ	49
ジャングルジム	31
滑り台	34
シーソー	13
砂場	9
遊具	9

・その他の遊具として、ターザンコース、滑り台、噴水、トイド、公園全体を大きく歩いたり、足裏しーの間の階段を歩いてほしいといったものがありました。

- ### 引率者、保護者(一般参加)へのヒアリング 別途中経過
- ①バスが運行することによるイベントへの参加のしやすさ
    - ・参加しやすくなるという回答であった。
    - ・自家持参がある程度では「約46万円」という回答であった。
  - ②バスの有料化、および利用する際の価格帯
    - ・「有料でも利用したい」と回答する方が、高価格帯では「2000～3000円程度」であった。
  - ③今後のまち歩きイベントの開催ニーズ
    - ・開催してほしいという回答であった。
  - ④その他(自由記載)
    - ・思いやり、遊ぶことのできて楽しめていた。
    - ・自分の思っていた価格帯や運営を学ぶ事が出来、楽しかったという。
    - ・来年秋の小学校に通っているのでもう一度参加したいと聞かれて良かった。
    - ・また、来年も開催されたら子どもも参加させたい。



### 参考)きよっち探検隊 in あしりべつ 概算コスト

運営側のコスト	概算
①備品関係 →参加者用の紙幣一式、マント(イス等の運搬)・イス作成、参加費商品の用意、その他雑費	約5万円
②人件費(9日間の実施期間中) →受付、子ども連の引率、途中の安全監視 →機材搬入・体験、アンケート調査、遊びプログラム →炊事・撤去	約40万円
③バス →10人乗車2台(約11,000円)	約2万円
④施設利用料 →市民交流広場(約6,000円/日) →区民センター会議室(約6,000円/日)	約6万円
計	約50万円～

※その他、会場案内、プロジェクト企画会議(計9回)実施、各協力団体の企画費(外遊びプログラム、石臼海苔など)



にぎわいをつくる

Fun! Fun! KIYOTA  
冬の実証実験について

冬の実証実験について

前年度の意見交換後のアイデア

西尾東海北陸鉄道  
 ・ 雪で止まるキヤンパル、雪を楽しく遊ばせ、おもしろ、冬のお祭り など  
 関わってもらえる方々へ提供  
 ・ 民間企業を中心に、市内の各団体、町内会、学校、農業者 など

秋の「きよっち園精進おもしろイベント」の実施状況  
 ● 10月対象に子ども達  
 ● 11月で展開する団体の吉々が賛同・提供

冬の実証実験の例

検証内容  
 ・ 団体の連携、場の使いか  
 実施の体制や対象  
 ・ 各団体に協力いただき、子ども達に楽しんでもらう  
 内容(コンテンツ)の例  
 ・ 区役所広場で子ども達とスノーキヤンパルづくり  
 ・ 作ったスノーキヤンパルを歩道などに置く  
 ・ 1月のまちの夜物見湯よたに春かけて実施 など



意見交換

意見交換

①オープンカフェ、まち歩きの後について

- ・ 当日の感想、アンケート結果の印象
- ・ 継続的に行っていく場合のアイデア など

②冬の実証実験の企画・アイデア

- ・ 検証内容
- ・ 実施内容・体制
- ・ イベントがいろいろか

#### 4) 会議結果

##### ①オープンカフェ&マルシェ、きよっち探検隊（まち歩き）の振り返り

###### ●オープンカフェ&マルシェ

###### <恒常的なにぎわいに効果があった>

- ・キッチンカーとマルシェの出店は恒常的なにぎわいに効果があったため、今後も継続していくことが望ましい。
- ・清田区役所に200名ほどの来場者もあり、日常的に使われたといえる。
- ・人がいない時間は寂しい印象があったため、工夫が必要な点もある。

###### <滞在を促すハード面の整備も必要>

- ・日常的に滞在を促すハード面の整備も合わせて必要である。
- ・清田区の中心に「滞在」できるようにカフェや飲食機能、買い物機能、コワーキングスペース機能などの導入が必要である。

###### <継続していくための工夫>

- ・コンテンツの対象に合わせた情報発信を行い、来場者を増やしていく。
- ・地域の団体や個人などにも協力や参画してもらう。参画してもらうことで、地域の取り組みとして発展できるのではないか。
- ・区内の他のイベントなどと併催して、来場者を増やしていく。

###### ●きよっち探検隊（まち歩き）

###### <新たなコンテンツとして効果があった>

- ・市民交流広場から区民センターまでを歩くコンテンツは初めて行われた。子ども達も楽しめていたため、有効であった。

###### <継続していくための工夫>

- ・地域の団体や個人の協力・参画は欠かせない。
- ・今後は新たなルートを設定してまち歩きを行うことが考えられる。

###### ●共通する事項

###### <継続的な日常使いには仕組みが必要>

- ・公共空間を官民連携で日常的に活用することや利用してもらうためには、調整機能などの仕組みがあることが望ましい。
- ・行政や協議会形式（キッチンカーなど）、民間グループ（まちづくり会社）などが考えられる。



## ②冬の実証実験の企画・アイデアについて

### ●検証テーマ

#### <地域との連携、滞在や周遊>

- ・まち歩きの結果を踏まえると、地域の連携は必要ではないか。
- ・公共空間を活用して、冬の滞在や周遊を検証できると良いのではないか。

### ●主な対象

#### <子ども、親子が対象>

- ・将来の利用者を想定すると、子ども達や親子連れの方を対象に考えてはどうか。

### ●コンテンツ案

#### <屋内空間の活用>

- ・秋の実証実験で屋外空間を活用できたため、冬は区役所の屋内空間も活用できないか。
- ・区役所1階ロビーを活用して、カフェなどを展開する。地元の企業に協力してもらう。
- ・滞在を促す観点からは、コワーキング機能の仮設も考えられる。

#### <市民交流広場の活用>

- ・スノーキャンドルを作って設置する。
- ・キッチンカーでの販売を展開する。
- ・イグルーなどを設置して、冬の滞在を検証してみる。ただし、イグルーづくりは相当な労力が必要である。
- ・スノーシューを履いて、スノートレッキング体験も考えられる。



意見をもとに、実証実験の企画を検討

## <グループごとの意見>

### Aグループ

#### ●オープンカフェ&マルシェとまち歩きの振り返り

##### <検証内容と基本的なコンテンツ>

- ・続けていくことが大切である。
- ・キッチンカーは良いと思う。
- ・1回の取り組みでたくさんの方が集まる取り組みはできている。
- ・清田では、今までもにぎわいづくりをしてきた。ただ日常的ではなかった。
- ・区役所のところだけでなく、区民センターとのつながりも大切である。
- ・カフェやマルシェを継続的に続けていくにはどのようにしたらいいか。
- ・午前のマルシェが終わった後に立ち寄るキッチンカーがあると良いのではないか。

##### <市民交流広場を活用する手法>

- ・広場の利用料や仕様をオープンにする。
- ・まずは出店料とらない(将来的には取る)。
- ・借りたい人はたくさんいる。テント貸し出しなども行う。
- ・キッチンカーのグループが市民交流広場を使用する際にWEBで予約できるようにする。
- ・調整する係を設置するなどの仕組みづくりをする。
- ・清田のHPでもGoogleカレンダーなどを活用して広報する。
- ・区役所・図書館・区民センターの一体的な利用が必要である。
- ・区役所の1階を滞在できるように広げることにつなげる。
- ・オフィス機能を導入することが大切ではないか。

##### <交通機能の検証>

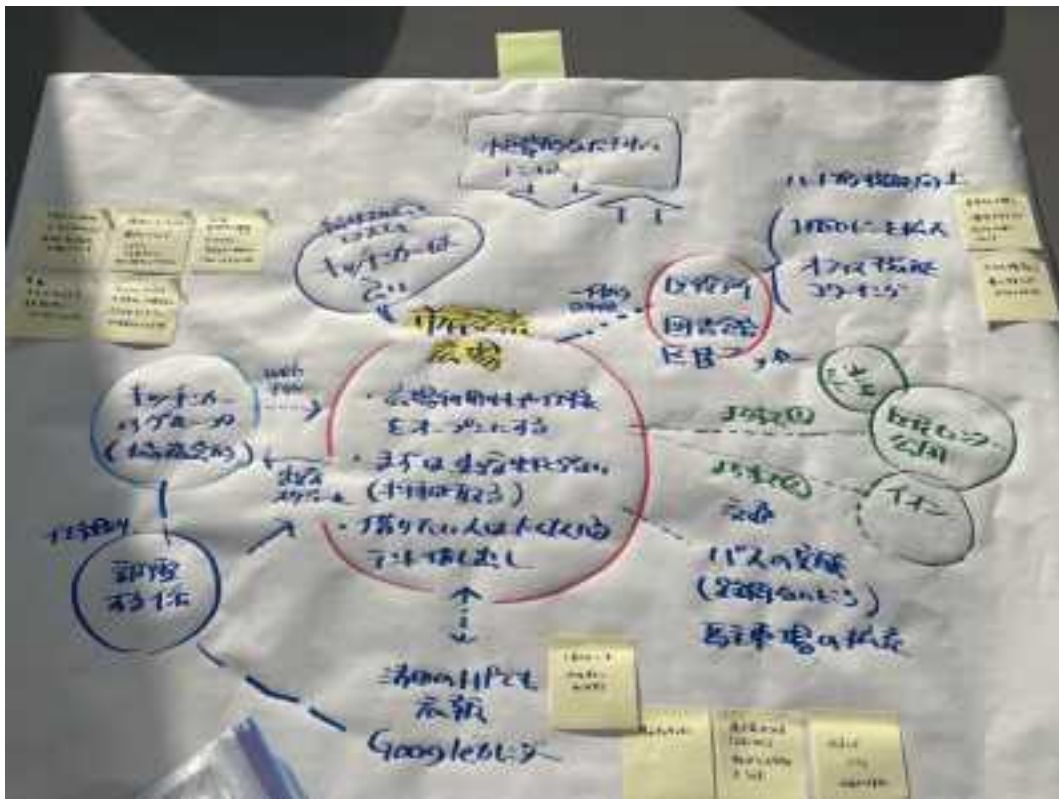
- ・現在路線がないバスの実験をする。
- ・駐車場の拡充をする。

#### ●冬の実証実験の企画について

##### <企画内容>

- ・1階ロビーをカフェ的に利用する。
- ・冬のキッチンカーはどうか。
- ・商工会がつくる。キャンドルと合わせてつくる。
- ・かまくらづくりをする。

■Aグループ模造紙



## B グループ

### ●オープンカフェ&マルシェとまち歩きの振り返り

#### <検証内容と基本的なコンテンツ>

- ・参加を高める工夫として、コンテストまでいなくても良いが、発表の場があると良いのではないかな。
- ・企画や運営は多様な方に参加してもらおう。
- ・清田区内の団体やキッチンカーの運営者などによる協議会をつくっていく。
- ・小中高大で情報を伝え、参加してもらおう。
- ・来てもらえるような仕掛けが必要である。
- ・企画の段階から参加してもらおう。
- ・子育て世代が参加できるにはどうしたらいいか(課題)。
- ・イベントは元気とやる気と天気である。

#### <今後のコンテンツの発掘>

- ・清田区はコンテンツが多い。
- ・マルシェは鮮度も良いし、味もよく人気である。
- ・農作物は安くおいしいと思う。
- ・キッチンカーや出店するお店を利用する。
- ・にぎわいをつくるには他の地区の人気店で始める。
- ・清田区のドルチェヴィータさんなどを次回から呼び込むこともありではないかな。
- ・価格帯にはそんなに気にせず設定しても良いのではないかな。
- ・これからは若い人や子どもが来る必要がある。

#### 飲食関連

- ・昔ながらの屋台もいいと思う。
- ・ラーメンやおでんなどもいいのではないかな。
- ・清田区でのおいしいものがテイクアウトできると良い。
- ・おいしいパン屋さんなども学生が発見している。
- ・日本酒やワインを教える、味わえる、体験できる店はどうか。
- ・お菓子屋さんもいいのではないかな。

#### 休憩できる場

- ・区役所の日除けにベンチや机を常設されると活用する。

#### <交通機能の検証>

- ・臨時バスや乗合タクシーなどの検証が必要である。

### <情報発信の強化>

- ・SNSなども活用し、楽しみやストーリーを伝えるのがいいのではないかな。
- ・情報発信の工夫をする。
- ・インスタグラムで地元のイベントの良さを発信していた。
- ・情報や来てもらえる仕掛け・工夫をインスタグラムで発信する。
- ・媒体や回数を増やす必要がある。
- ・テレビでの情報発信は影響力が大きいと感じる。
- ・発信の体制の必要性がある。
- ・もっと認知度を高めることが必要である。

### ●冬の実証実験の企画について

#### <企画内容>

- ・焚き火で楽しむだけでなく、防災にも活用する。
- ・アイスキャンドル。地元のなにかを埋めると特別になる。
- ・スノーキャンドルを行う。
- ・かんじきツアーや冬のまち歩き・歩くスキー＋あたたかい飲み物・食べ物で癒される(豚汁など)。

#### <運営・協力者>

- ・運営者で協議会などをつくるのがいいのではないかな。
- ・食生活改善組織にも協力してもらうのはどうか。
- ・学校や町内会、商工会が実施する。
- ・地域のお店にも協力してもらうのはどうか(宮田屋コーヒーなど)。
- ・樹芸センターもイベントを行っている。
- ・大学のボランティアやフェアトレードのサークルに協力してもらう(コーヒーなど)。

■Bグループ模造紙





## C グループ

### ●オープンカフェ&マルシェとまち歩きの振り返り

#### <検証内容と基本的なコンテンツ>

##### オープンカフェ&マルシェについて

- ・資料よりにぎわっていない印象である。
- ・市民交流広場が芝生になるといい。
- ・人が集まりやすいハード整備が必要である。
- ・グローバルがメインで開催していたため、地域連携が薄かった。
- ・さみしい印象が強い。
- ・広報の面で弱かったのではないかな。
- ・音楽を流したり、SNS の活用をするべきだった。
- ・にぎわいづくりとしてこのイベントをやったことはいい経験である。ただし、地域交流拠点という観点では、遠方から区役所まで来ている人が多いわけでもなく、そもそもにぎわっているように感じていないので、次年度以降の開催は無くてもいいのではないかな。
- ・アンケート内の地域が清田とひとまとめにされているので、清田と清田中央を分けてアンケートをとってほしかった。

##### まち歩きについて

- ・まち歩きはスタッフとの連携が取れていいイベントだった。
- ・一般だけだとどれだけ集まったのかは気になる。
- ・まち歩きは続けていくと子どもにはいいと思う。
- ・児童会館に頼りきりの体制を変えていったほうがいい。
- ・児童館との連携があったからこそ成功したイベントである。

#### <次年度の開催に向けて>

- ・オープンカフェ&キッチンカーのやり方を考え直したほうがいい。イベントと併催にするなど考えられる。
- ・路線バスの取り組みでイベントを開催していく。
- ・きよたまちづくり会社を立ち上げるのも方向性としてはある。

#### <交流拠点のあり方>

- ・イベントでにぎわいをつくれることは実証してきた。
- ・「イベントづくり」が先行してきたが、日常的なにぎわいのある「地域交流拠点」という部分から外れないことが大切である。
- ・日常的なにぎわいをつくるには、まずは地下鉄を延伸したうえで採算性があることを中央バスに判断させ、バス路線を増やすことが前提にあるのではないかな。

#### <交通機能の検証>

- ・まち歩きイベントで臨時バスを出したが、これに関しては、地域交流拠点のにぎわいとは関係性が薄いのではないかな。

- ・地下鉄といったハード整備がないとバスも連絡しない。交通面での地域交流拠点の機能充足が必要ではないか。
- ・にぎわいと交通を両方並行して進めるべきである。

### ●冬の実証実験の企画について

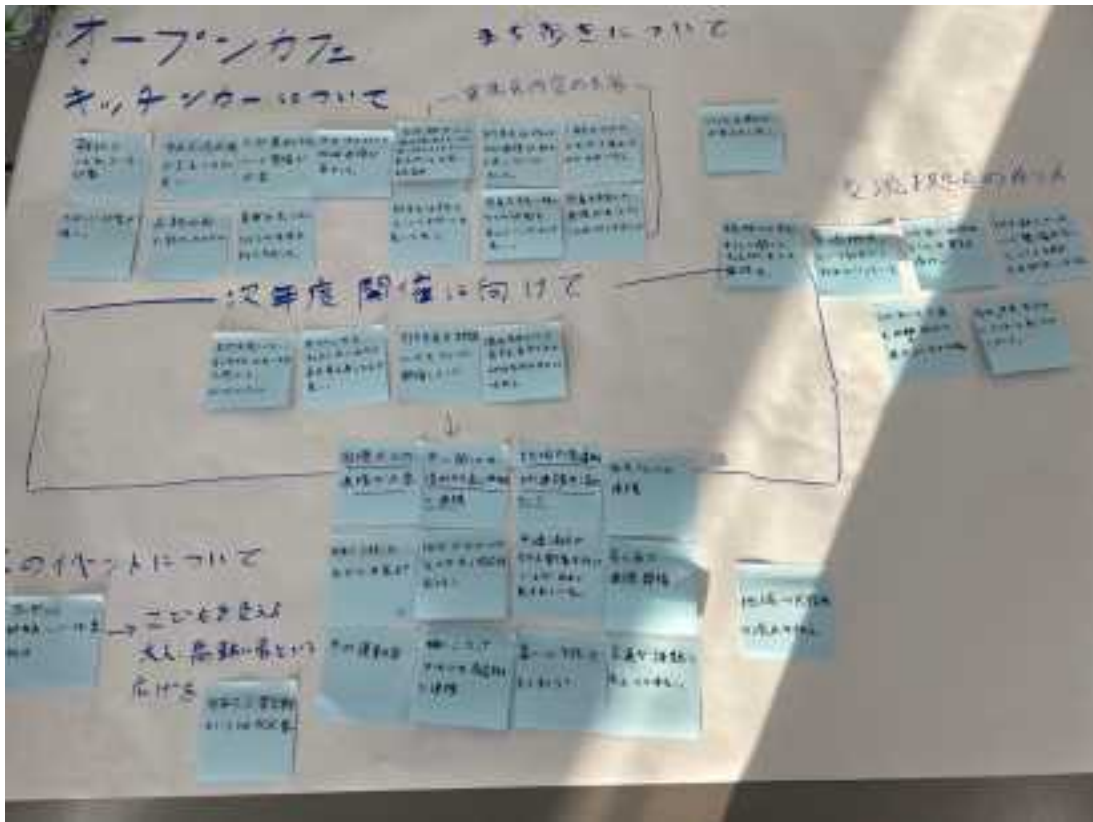
#### <イベントの内容>

- ・ターゲットは子ども(幼稚園年長～小学生)向けにする。
- ・かまくらや雪合戦という+  $\alpha$  が必要である。
- ・かまくらをらつくって、おでんを食す。
- ・1日だけのオープンカフェであれば可能性はありそうである。
- ・消防がきよっち雪像をつくっているがあまり見られていない
- ・昼と夜で開催してはどうか。
- ・冬の運動会を行う。
- ・豚汁サービスを商店街と連携する。
- ・高い山を作ってそりすべりをする。
- ・交通が課題になる。人が来ないのではないか。
- ・地域から区役所の流れをつくる。

#### <運営・協力者>

- ・国際大との連携が必要である。
- ・冬に関しては清田地区商工振興組合と連携する。
- ・地域の商店街との連携を深めていく。
- ・西友さんと連携する。

■Cグループ模造紙



## Dグループ

### ●オープンカフェ&マルシェとまち歩きの振り返り

#### <検証内容と基本的なコンテンツ>

- ・今回の結果から、日常的に人が来られる場だと思った。
- ・日常的に開催する、訪れる方の目的を想定した内容づくりを行う。
- ・毎週・毎月開催する上でのコスト見直しが必要である。
- ・子どもから高齢者まで全世代が来られる場にする。
- ・来てもらう工夫として、スタンプラリーなどの仕組みがあるのもいいのではないかな。

#### <広報の工夫>

- ・コストに対する広報を工夫するべきである。
- ・月の第4土曜など定期的に発信する。(イオンの火曜市のように)
- ・ラジオなどで発信する。
- ・区役所で大きく発信する。

#### <今後のコンテンツの展開>

- ・清田の野菜や食べ物を生かしていることをアピールする。
- ・「きよたスイーツ」らしさを感じるように、スイーツが一同に介するといいいのではないかな。
- ・カレーをテーマにするなどの発展も考えられる(1回目はスイーツ、2回目はカレーなど)。
- ・スタンプラリーで店をまわるというのもやっていたことがある。
- ・地元でキッチンカーを持っている方がいる(スープカレー屋さん、ジンギスカン屋さん)。
- ・テイクアウト用の商品を提供してくれるお店も多いかもしれない。
- ・ジェラート屋さん(トレーラーもある)もいいのではないかな。
- ・市民感・手作り感がなかったように感じる。
- ・キッチンカーとマルシェの客層が混ざるような雰囲気になるといいのではないかな。
- ・どんな清田の方が販売しているのかポップなどで発信する。
- ・子どもが参加できる要素があまりなかったかもしれない。
- ・子連れ世代が参加していた(子どもだけでは参加しづらそうだった)。

### ●冬の実証実験の企画について

#### <実施時期>

##### 夜に実施するイベント

- ・すでにアイスキャンドルの取り組みが清田小や中学校、まちセン、西友などである。
- ・風船を使ったスノーキャンドルづくりはどうか。
- ・竹を使ったスノーキャンドルの企画も良かった。
- ・夜のイベントは子どもの参加が少ないのではないかな。

##### 昼に実施するイベント

- ・カーリング！子どもも大人も参加できるのではないかな。

- ・雪の滑り台など広さを生かした遊びなどはどうか。
- ・雪上ボーリングはどうか。
- ・スノーシューのコースづくり(かんじきなど昔の道具も使用する)はどうか。
- ・ホットドリンクを出してくれるキッチンカーなどもあるといい。

### ＜参加を促す仕組み・連携＞

- ・地域に範囲を広げて実施する。
- ・参加してもらう仕組みづくりが課題である。
- ・参加してほしいとたくさんの方に呼びかける。
- ・町内会ごとにスペースを設けるなど協力団体との連携が必要である。

### ■D グループ模造紙



## (4) 第4回きよた暮らしラボ

### 1) 開催概要

日 時：令和5年2月18日（土）13：30～15：30

場 所：清田区役所3階大会議室

参加者：20名

事務局：札幌市政策推進課 4名

清田区 3名

株式会社グローバルデザイン 酒本、安達、白井、濱本



### 2) プログラム

時間	内容	
13：30	開会	・開会、あいさつ
13：35	情報提供	・きよた暮らしラボの活動について ・Fun! Fan! KIYOTA きよた灯りカフェ（冬の実証実験） ・これまでの取組を経て
14：00	意見交換	テーマ：今後の方向性について ①今後も継続していくには、どうしていくのが良いか？ ・体制のイメージ ・利用する時のルール など ②その他、「日常的なにぎわい」をつくるためのアイデア
15：30	閉会	意見交換の振り返り



3) 説明資料

## 冬の検証実験の振り返り、 今後の方向性について考えよう！

### きよた暮らしラボ(意見交換会) 第4回 ミーティング

2023(令和5)年2月18日(土)

- 1.開会・あいさつ
- 2.情報提供
  - ・きよた暮らしラボの活動について
  - ・Fuel Fun! KIYOTA きよた灯りカフェ(冬の実証実験)
  - ・これまでの取り組みを振り返る
- 3.意見交換
  - ・今後の方向性について
- 4.閉会

## きよた暮らしラボの 活動について

**きよた暮らしラボの活動(令和4年度の活動)**

**検討** **令和3年度 きよた暮らしラボ**

- ・地域交流拠点運営を中心とした暮らし方をイメージ
- ・地域交流拠点運営に必要な備物を検討
- ・地域交流拠点運営の意義と一体となった使いこなしを考える

**検討** **実施** **令和4年度 きよた暮らしラボ**

- ・令和3年度に話し合ったアイデアなどを生かして、実際に検証実験などを実施してみる
- ・検証実験やワークショップ(きよた暮らしラボ)をしながら、検証を繰り返していく

### 令和4年度 きよらボの流れ

第1回 1月20日(日) 13:30～地域交流センター・まち歩き  
場を納めこぞわいてに掛け合う意見交換について

↓

第2回 1月24日(木) 13:30～地域交流センター・まち歩き  
冬の検証実験について

↓

令和4年度は 12月  
冬の検証実験オープンカフェ＆マルシェ、まち歩き

↓

第3回 12月22日(土) 12:30～地域交流センター・まち歩き  
冬の検証実験振り返り、冬の検証実験について

↓

冬の検証実験振り返りきよた灯りカフェ

↓

第4回 2月18日(土) 13:30～地域交流センター・まち歩き  
検証実験を踏まえた今後の取組について

本日

にぎわいをつくる

Fuel Fun! KIYOTA

## きよた灯りカフェ (冬の実証実験)

### 検証実験 Fuel Fun! KIYOTA の概要

※キョトで実施した検証内容は「検証実験」の概要を参照してください。本日は「検証実験」の概要を参照してください。

**にぎわい** 1月 オープンカフェ&マルシェ

検証内容: ①オープンスペースでの行動動向 ②出発時間向上の可能性

**つながり** 10月 きよた探検隊(まち歩き)

検証内容: ①団体との連携と参加性 ②歩いてみたくなる要素 ③探検隊運営への参加手段

**にぎわい** 2月 きよた灯りカフェ

検証内容: ①地域の団体との連携 ②屋内活動の活用と参加の可能性

### きよた灯りカフェの概要

「地域交流拠点運営(仮称)運営」での標準的な備えづくり  
1月「検証実験」をキックオフ機により自律的に進められた  
10月 団体の協力でイベント的進められた

**運営きよらボの意見**

- ・公開イベントの開催
- ・公開イベントの開催

**検証内容**

- ①地域の団体との連携
- ②屋内活動の活用と参加の可能性
- ③探検隊運営への参加手段

アンケートなどで団体の意向を伺い、1月20日(日)の検証実験に活用

全体の配置



2/4(土)当日のプログラム

時間	内容	会場
10:00	スノーキャンドルづくり開始	屋外広場(1階、3階)
11:00	スノーキャンドルづくり終了	屋外広場(1階、3階)
12:00	スノーキャンドルづくり終了	屋外広場(1階、3階)
13:00	スノーキャンドルづくり終了	屋外広場(1階、3階)
14:00	スノーキャンドルづくり終了	屋外広場(1階、3階)
15:00	スノーキャンドルづくり終了	屋外広場(1階、3階)
16:00	スノーキャンドルづくり終了	屋外広場(1階、3階)
17:00	スノーキャンドルづくり終了	屋外広場(1階、3階)
18:00	スノーキャンドルづくり終了	屋外広場(1階、3階)

2/4(土) きよた灯りカフェ当日の様子



来場者 一時間帯平均の人数(全地点)





### 来場者 ～7地点別の人数

・7つの地点ごとに1日約1,500人の人数が来場するのを見込みに合わせて行いました。



### 来場者アンケート

#### (1)実施概要

- ・実施期間:2023年2月4日(土)
- ・回収数:紙質、WEB

#### (2)設問内容

設1:性別
設2:年齢
設3:居住地
設4:来場したきっかけ
設5:来場したきっかけ
設6:来場した目的
設7:来場手段
設8:来場時間(来場目的に合わせた時間)
設9:来場手段
設10:来場手段、来場時間(来場目的に合わせた時間)
設11:来場手段



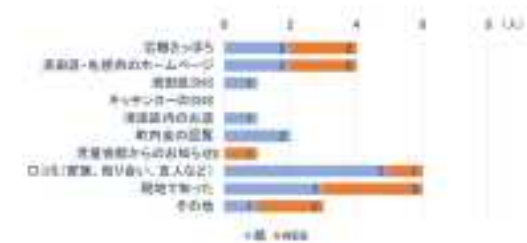
#### (3)回答者属性



#### (4)回答結果

##### ①各イベントを何で知りましたか?

- ・「ロビー」が最も多く(回答が多かった)。
- ・他の回答者は「ロビー」が最も多く、WEB(回答者が「来場」が多かった)が最も多かった。



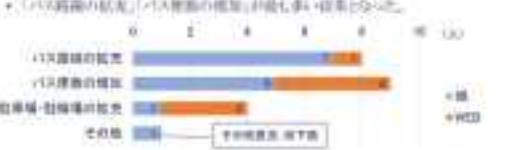
##### ②どの交通手段でお越しになりましたか?

・「自転車・バイク」が最も多い結果となった。



##### ③青田区役所周辺へ来るためにどのような機能があるといいですか? (複数回答可)

・「バス路線の拡充」「バス停留所の増加」が最も多い結果となった。



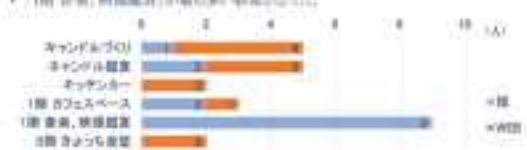
##### ④来場した打ちカフェの満足度

・満足度は高い結果となった。



##### ⑤どのような利用をされましたか? (複数回答可)

・「1階 広場、祭会場」が最も多い結果となった。



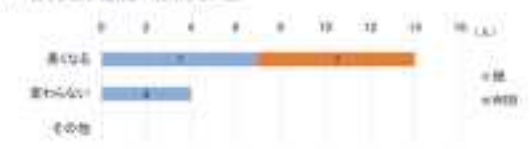
##### ⑥来場した打ちカフェにどのくらい滞在していましたか?

・7分～10分が最も多い結果となった。



##### ⑦このようなイベントがあると、滞在時間は変化すると思いますか?

・「長くなる」が最も多い結果となった。



##### ⑧青田区役所周辺にぜひほしいために、屋内や屋外でどのような機能や取り組みがあればいいと思いますか?

- 屋内
  - ・昼食のため、子供教育はもう少し増やして欲しい。
  - ・カフェなどで飲食ができる。
  - ・子供や子どもが楽しめるイベント。
  - ・スタッフのヘルプがある。
  - ・子どもが楽しめるスペース、乳幼児向けのイベント開催の場。
- 屋外
  - ・飲食店やカフェができること。
  - ・広場のイベント。
  - ・お祭り、マッチング、マラソン。
  - ・テラス。
  - ・乳幼児の安全に配慮するスペースがある、お祭り。



### アンケート結果

・主催者とキャンドルづくり参加した子ども達に対してアンケートを行いました。

主催者	キャンドルづくり参加の子ども達
<b>アンケート結果の概要</b>	
<p>●きよた灯りカフェの満足度は高い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者の準備が非常に丁寧で丁寧な説明が丁寧である。</li> <li>・遠慮願いのことがすきになった。また遠慮願いのことがすきになった。</li> </ul>	
<p>●カフェスペース(飲食や休憩)があると滞在につながる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・またきよた灯りカフェの滞在時間は1時間〜2時間ほどが長く、遠慮願いのことがすきになった。</li> <li>・遠慮願いのことがすきになった。</li> <li>・遠慮願いのことがすきになった。</li> </ul>	
<p>●広場には、心地よく過ごすことができる空間整備が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広場に自然の音が入り、心地よく過ごすことができる空間整備が必要。</li> <li>・遠慮願いのことがすきになった。</li> <li>・遠慮願いのことがすきになった。</li> </ul>	
<p>●清田の機能向上には交通機能の充実も必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠慮願いのことがすきになった。</li> <li>・遠慮願いのことがすきになった。</li> </ul>	

### 出店者からの聞き取り情報

・まずまずの売れ行きだった

・コーヒー(100円)、サンドイッチ(200円)を販売できた

**雷田屋珈琲**

- ・コーヒー:300円
- ・サンドイッチ:200円

・平日と同じくらいの売れ行きだった

・また機会があったら声を掛けてほしい

**きよたち食堂**

- ・定食:650円
- ・惣菜:600円〜

・以前から近所でも出店したいと思っていました

・平日に出店したい

**キッチンカー(2台)**

- ・キッチンカー:1000円
- ・キッチンカー:1000円

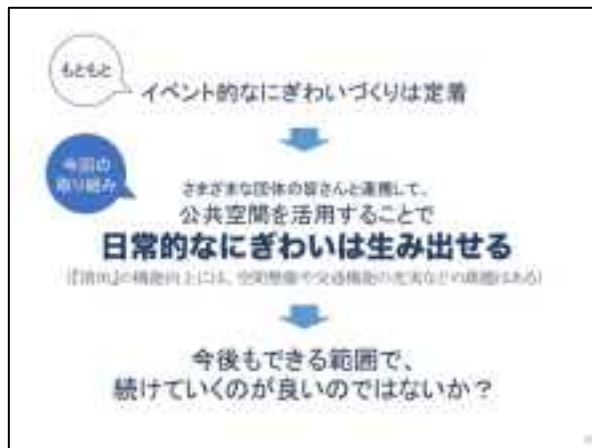
### 参考)きよた灯りカフェ 概算コスト

項目	概算コスト
①商品開発	約10万円
②人件費(約40名)	約40万円
③施設利用料	約2万円
<b>計</b>	<b>約50万円〜</b>

※その他、企画費、プロダクト開発(1〜2回の実施) 各都道府県の企画費(企画費、開発、企画者等) 1〜2回程度、カンプ制作、その他(清掃、食事、水、トイレ) 1〜2回程度



### これまでの取り組みを経て...



2023年～

続けていく時の体制は…

意見交換

～今後の方向性について～

意見交換

今後の方向性について

体制、期間、ルールなど

- ・ 継続していくには、どうしていくのが良いのでしょうか？
  - ・ 体制のイメージ
  - ・ いつ頃行ってみるか
  - ・ 利用する時のルール など
- ・ その他、もっと「日常的なにぎわい」をつくるためのアイデアがあれば意見を伺いましょう。

## 4) 会議結果

### ①今後の方向性について

#### ●次年度以降も継続するための手法や体制

##### <地域と行政が連携して公共空間を活用した取組を継続>

- ・区役所と市民交流広場を活用したコンテンツを展開することで、常に人がいる・滞在できる状況をつくり出せるため、次年度以降も続けていく。
- ・区役所付近へ来れば「いつも何かをやっている」状況を、数年かけてつくるのが良い。

##### <官民が連携した実行委員会形式の体制での実施>

- ・様々な主体が連携した実行委員会（プロジェクトチーム）形式で行う。
- ・地域の各種団体や飲食店、企業、学生などがコンテンツに合わせてプロジェクトチームを組めると良い。札幌市・清田区が調整担当で関わる。
- ・若い世代がプロジェクトチームに加わることで、柔軟なアイデアが生まれる。
- ・「きよたまちづくり区民会議」を母体としたプロジェクトチームの組成も考えられる。区民会議を将来的にNPO法人化するなど、にぎわいづくりを進める役割を担うことも考えられる。

##### <日常使いを高めるコンテンツの展開>

- ・区役所や市民交流広場では、キッチンカーの出店など「いつも何かをやっている」という日常使いを高めるコンテンツを展開していく。

##### <取組を実施するための資金調達>

- ・取組実施の資金は、団体からの協賛金や企業などからのスポンサー料、クラウドファンディング、行政からの助成などを活用する。
- ・出店者からは出店料をもらい、得られた収益は公共空間を活用した取組の資金とする。

##### <情報発信（公共空間の使用方法、実施時期など）>

- ・区役所屋内や市民交流広場を使用できる時期や方法を周知していく。
- ・公共空間の活用方法などを、各団体や企業にも広報・周知することで利用者が広がる。

#### ●恒常的なにぎわいのイメージの共有

- ・恒常的なにぎわいのイメージについて共通認識を持つ必要がある。
- ・区役所や市民交流広場で「いつも何かをやっている」「いつも人がいる」ことが、恒常的なにぎわいではないか。



## ②区役所や市民交流広場を活用したコンテンツ案について

### ●イベント的要素と日常使用的要素を分けて整理

- ・「きよた灯りカフェ」はイベント的な要素が大きい印象があった。
- ・公共空間を活用した恒常的なにぎわいの創出には、イベント的要素と日常使用的要素を分けながら整理していく必要がある。

### ●コンテンツ案

#### <イベント的要素>

- ・きよフェスやビアガーデン、スノーキャンドル、よさこいなどが考えられる。

#### <日常使用的要素>

- ・キッチンカーやフリーマーケット、カフェ、カルチャースクール、アウトドア（キャンプ、テントサウナなど）などが考えられる。

## ③きよた灯りカフェの感想

- ・今後も継続していくと良い。
- ・イベント的な取組であったため、日常使用を高める取組も必要である。
- ・参加対象の年代を広げること考えられる。
- ・SNS（インスタグラムなど）を活用して情報発信していく。
- ・若い世代に企画へ参画してもらうことで、新しいアイデアが生まれる。

## ④区役所周辺に来るための交通について

- ・バス路線の拡充だけで、区役所への来訪を増加させることは難しい。
- ・高齢者が多いエリアを巡回するデマンドバスやライドシェアなど、新たな交通体系を検証することも必要ではないか。



意見をもとに、機能向上案を検討

## <グループごとの意見>

### Aグループ

#### ●今後の方向性について

##### <実行委員会（プロジェクトチーム）形式での展開>

- ・次年度以降は、実行委員会や協議会形式で行っていくことが考えられる。
- ・区民会議から派生した実行委員会（プロジェクトチーム）が、企画を立てていくと良い。
- ・キッチンカーやキャンドル、カフェ・物販など、コンテンツに合わせてチーム編成していく。
- ・（一社）札幌観光協会は、関連する団体や企業と連携した組織体制になっていると聞いたことがある。にぎわいづくりを進める体制の参考になるのではないか。
- ・区民会議を将来的にNPO法人化して、にぎわいづくりを進める役割を担うことも考えられる。
- ・区民会議とプロジェクトチームとの調整には、清田区に入ってもらう方が良い。
- ・企画や実施計画の調整は地域振興課に、区役所や市民交流広場の使用調整は総務企画課に担ってもらう。
- ・公共空間を活用したコンテンツの展開について、区内の企業から募集しても良いのではないか。
- ・区内の企業の中にも、地域貢献やにぎわいづくりを名目に社会活動を行っている企業がある。こうした企業が主体となるコンテンツの展開も考えられる。

##### <コンテンツ実施の資金調達>

- ・コンテンツ実施の資金は協賛金や企業スポンサー、クラウドファンディングなどを活用する。
- ・例えばスノーキャンドルについて、企業からネーミングライツ（命名権）の協賛による収入を得て、実施することも考えられる。企業の宣伝にもなるのではないか。
- ・区民会議へ行政からにぎわいづくりの予算を助成してもらおう。

##### <区役所や市民交流広場の使用方法などの広報・周知>

- ・区役所や市民交流広場の使える時期・方法、コンテンツの展開を募集していることなどを広報・周知することが必要である。

#### ●交通機能について

- ・区役所と福住駅など拠点となる地下鉄駅と連絡するバスを走らせる。
- ・AI技術を活用したライドシェアなど実証実験を行って区役所周辺に適切な交通体系を検証する。

■Aグループ模造紙



## B グループ

### ●今後の方向性について

<恒常的にぎわいのイメージを共有することが大切>

- ・実験的な取組には、意味があったと思う。
- ・ただし、恒常的にぎわいのイメージやゴールが解らない。
- ・イベント的な取組を実施することが目的になっていないか。
- ・人が気軽に集まるような、おしゃべりをするなどの場が必要とされているのではないか。
- ・ターゲットを絞り込んで取組を行う必要があるのではないか。
- ・区役所と区民センターの間の 500m 区間でぎわいづくりが考えられる。

<イベント的要素と日常使用的要素を分けて整理>

- ・イベント的要素と日常使用的要素を分けて整理していく必要がある。
- ・おしゃべりができる場やキッチンカーの出店、カフェなどは日常使用的要素ではないか。
- ・「きよた灯りカフェ」自体は良かったと思うが、イベント的な取組に感じた。
- ・日常的にぎわいを定着させていくことを、少しずつ行っていくことが必要である。

<収益性の検討>

- ・公共空間を活用したぎわいづくりを継続するためには、収益も必要である。

<若い世代の参画>

- ・若い世代の感覚でコンテンツを企画してもらいたい。
- ・学生の方にも参加してもらって、新しい企画を考えてもらいたい。

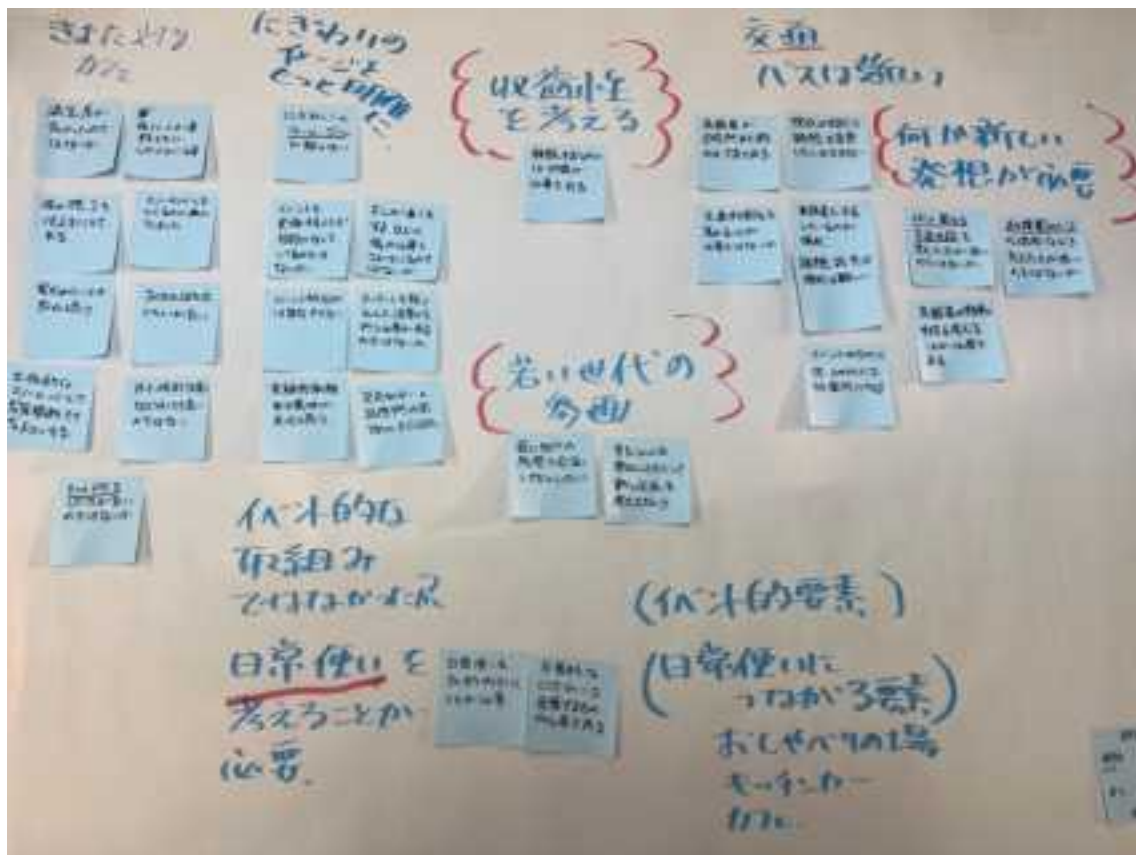
### ●きよた灯りカフェについて

- ・来場者の満足度が高かったのではないか。
- ・区役所屋内の音楽コンサートも良かった。
- ・子どもは2時間くらいが滞在の限界である。
- ・夜間に人が集まる時の仕掛けが必要ではないか。
- ・夜のキャンドルが点灯している様子を伝えた方が良い。
- ・雪像などがあると撮影スポットになる。
- ・北見市のように、外で焼肉などを行ってもおもしろいのではないか。
- ・もっと告知や PR をした方が良い。

●交通機能について

- ・高齢者が区役所まで来るのは大変である。
- ・高齢者の移動手段を確保し、交通利便性を高める必要がある。
- ・現状のバス路線を変更することはできない。
- ・バスの乗務員も不足している。バス路線拡充は、困難である。
- ・これまでとは異なる交通手段を考えた方が良い。
- ・幼稚園のバスの活用なども考えた方が良いのではないか。

■Bグループ模造紙



## C グループ

### ●今後の方向性について

#### <多様な主体と連携してにぎわいづくりに取り組む>

- ・恒常的なにぎわい創出のため、キッチンカー出店やイベントなど様々な活動を行っていく。
- ・毎週「何かやっている」状況をつくりだせると、恒常的なにぎわいになる。
- ・そのためには、周辺の飲食店や地域の人々、子ども会、児童会館、大学生、行政と連携する。
- ・大学生に参加してもらうため、学校のカリキュラムに組み入れる。
- ・日常的に人が集まるように、にぎわいづくりのコンテンツは年齢層を意識する。
- ・幅広い年代向けに市民交流広場や区役所、区民センターを活用して、いろいろなコンテンツを仕掛ける。
- ・20代～40代の区民に向けたコンテンツも大切ではないか。

#### <公共空間を利用する際のルール>

- ・市民交流広場や区役所、区民センターを利用しやすくなると良い。
- ・午前と午後で分けて借りることができる方が良いのではないか。

#### <コンテンツ案>

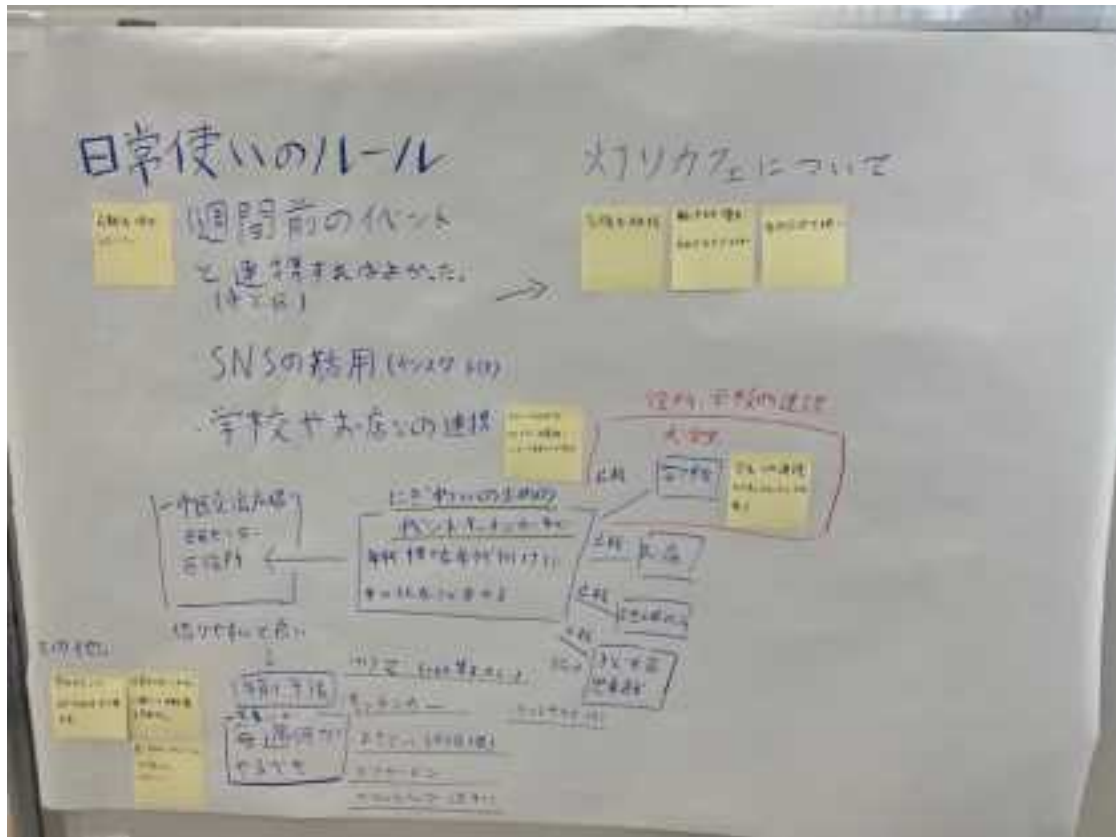
- ・フリーマーケットやキッチンカー、テントサウナ、ビアガーデン、グランピング、よさこいなどが考えられる。
- ・フリーマーケットは出店者が10人集まったら実施できるなどの仕組みがある良い。出店料も折半できる。
- ・よさこいは別会場で行う。
- ・グランピングは市民交流広場が芝生になると開催しやすい。
- ・冬のイベントや子ども向けの活動を増やしていく。

### ●きよた灯りカフェについて

- ・今後も継続できると良い。
- ・子どものスノーキャンドルづくりへの参加は事前予約が優先だったが、当日参加もできると良い。
- ・スノーキャンドルづくりの参加対象の年代の幅を広げても良い。
- ・実施の1週間前に「まちの灯り in きよた」が行われていた。そのイベントと連携することも考えられる。
- ・SNS(インスタグラムなど)やホームページを活用して広報を強化していく。
- ・区役所周辺のお店や学校と連携を図っていくと良い。



■Cグループ模造紙



## Dグループ

### ●今後の方向性について

#### <次年度以降の体制>

- ・実行委員会を組成して企画やコンテンツの実施を行う。
- ・メンバーはコンテンツに合わせて様々な主体から集める。
- ・区内のサークル(カルチャースクール)や連合町内会、あしりべつ神社・神輿隊、小中学校、有志団体、一般の区民などがメンバーとして考えられる。
- ・季節ごとの取組に応じて、メンバーが変わっても良い。
- ・公共空間で何かやりたい人や団体をつなぐコーディネート役として、清田区に入ってもらおう。
- ・コンテンツの広報や周知には、イオン札幌平岡店にも協力してもらおう。
- ・何かやりたい人が参加しやすい環境づくりを行う。
- ・公共空間を使ったコンテンツの年間スケジュールを立てる。

#### <公共空間を利用する際のルール>

- ・清田区民や区内の事業者、団体などが利用する際は、特別価格で利用できるようにする。
- ・特別価格は必要経費のみの持ち出しとすると、利用率が高まるのではないかな。

#### <恒常的なにぎわいづくりの展開>

- ・区役所付近へ来れば「いつも何かをやっている」状況を数年かけてつくるのが良い。
- ・例えば、令和5年度は4月・7月・10月・1月にコンテンツを実施する。令和6年度は、4～5月、7～8月、10～11月、1～2月でコンテンツを実施する。
- ・このように、徐々に公共空間を使ったコンテンツを実施する期間を延ばしていくと、利用者への周知がしやすくなる。

■D グループ模造紙



### 3-5 ニュースレターの作成

令和4年度のきよた暮らしラボにおける意見交換の結果などを周知するために、第1回・第2回の意見交換会終了後と第3回・第4回の意見交換会終了後にニュースレターを作成した。

#### ■ニュースレター令和4年8月号 (表面)

令和4年  
8月号

# きよた暮らしラボ ニュースレター



## 地域交流拠点清田の機能向上を考える 意見交換会「きよた暮らしラボ」を実施しました！

地域交流拠点清田（以下、「清田」と表記します）である清田区役所周辺の将来イメージや必要な機能・活動などについて意見交換を行う「きよた暮らしラボ（きよらぼ）」が令和4年度もスタートしました！

### ●令和3年度きよた暮らしラボの検討結果（機能向上案）

「清田の中心としてまちの価値を高める交流拠点を形成」するために、意見交換会を行いながら「清田」の将来イメージや必要な機能などを検討し、機能向上にはハード・ソフト・マネジメントの3つが必要と整理されました。

**●人が集まる交流エリア**  
人が集まる交流拠点（交流広場）

- 交流・交流広場（駅前）
- 体験型交流広場
- 子育て交流広場
- 駅前広場
- 交流広場

**●オープンスペース機能（交流広場）**

- 交流・交流広場（駅前）
- 体験型
- 子育て交流広場

● ハード  
○ ソフト  
● マネジメント

**●まちの記憶をとどめるふるさとエリア**  
オープンスペース機能（交流センター・駅前広場・駅前広場など）

**●まちと人をつなげるエリア**  
歩いて歩けるエリア（駅前広場）

**●まちと人をつなげるエリア**  
歩いて歩けるエリア（駅前広場）

**●にぎわいをつくる**  
交流広場（駅前）

**●にぎわいをつくる**  
交流広場（駅前）

日常的な賑わいやイベント開催にはソフトの活用・効果が期待。体験や仕組み（マネジメント）の検討が必要と整理されました。

区内の他地域  
イオンモール札幌平岡

今年度は、小さなアクションから賑わいづくりとマネジメントのあり方を検討

### ●令和4年度きよた暮らしラボの流れ

第1回（7月30日） ・ 恒常的なにぎわいに向けた実証実験について 開催結果は裏面をご覧ください

第2回（7月24日） ・ 秋の実証実験の企画内容と進め方について

令和4年9～10月 秋の実証実験（オープンカフェ&マルシェ、まち歩き）

第3回（10月22日） ・ 冬の実証実験の企画内容と進め方について

冬の実証実験実施

第4回（2月12日） ・ 実証実験を踏まえた今後の取組について

(裏面)

### ●令和4年度 第1・2回きよラボまとめ

「まちの価値を高める活動や取組案について、その効果を検証する実証実験の具体的な内容を検討しました。実証実験は下記の内容で行います。※今後の検討の中で内容を変更する可能性がありますので、ご了承ください。



## 実証実験「Fun!Fan!KIYOTA」

### 実証実験① オープンカフェ&マルシェ

2022年9月10日(土)～18日(日)

清田区役所ロータリー、市民交流広場

本実験では、スーパーカレーや焼きそばなどの食事系からスイーツなどを楽しめる人気のキッチンカーが集結！さらに、地元で採れた新鮮な農産物を販売するマルシェも開催します。

期間中はパラソルやイス、テーブルもあり、オープンカフェとしてもお寛ぎいただけますので、ぜひ気軽にお立ち寄りください。

#### ●開催の目的

既存のオープンスペースを活用して、オープンカフェやマルシェなどの新たな機能の創出による「にぎわいづくり」の可能性を検証します。



イメージ図

### 実証実験② まち歩き

2022年10月頃

清田区役所・区民センター周辺

本実験では、大人と子どもでそれぞれテーマを設定したまち歩きイベントを実施します。

- 大人向け：テーマ「清田の歴史」 主体は、あしりべつ郷土館
  - 子ども向け：テーマ「清田の自然」 主体は、大学（国際大学など）や学生
- ※日時や参加方法などの詳細は後日ホームページなどでご案内します。

#### ●開催の目的

「清田区役所と周辺エリアの一体性を創出する「つながりづくり」の可能性を検証します。また、まち歩きなど様々な活動に取り組み主体同士が連携する体制や仕組みづくりの「目玉」として実施します。



イメージ図

問い合わせ先  
札幌市 まちづくり政策局 政策企画部 政策推進課  
電話：011-211-2139 FAX：011-218-5109

実証実験の詳細や今後の取組については広報さっぽろ9月号清田区版（予定）やホームページでご案内します。





令和5年  
3月号

# きよた暮らしラボ ニュースレター



---

## 地域交流拠点清田の機能向上に向けた取組は2年間を経て、次のステップへ！

地域交流拠点清田(以下、「清田」と表記します)である清田区役所周辺の将来イメージや必要な機能・活動などについて意見交換を行う「きよた暮らしラボ(きよラボ)」を2年間実施してきました。

これまできよラボで出されたアイデアを「清田」の恒常的なにぎわいづくりへどのように活用できるか検証するため、きよラボ参加者や地域の皆さんにご協力をいただきながら、実証実験「FunFariKIYOTA」を3回実施しました。

実証実験の結果を踏まえ、今後もこのような取組を継続するための方向性をまとめました。



### ●令和4年度 きよた暮らしラボの流れ

**第1回 (7月3日)** ・恒常的なにぎわいに向けた実証実験について

**第2回 (7月24日)** ・秋の実証実験の企画内容と進め方について



詳細内容はニュースレター  
令和5年3月号を  
ご覧ください。

**実証実験1** オープンカフェ&マルシェ

2022年9月10日(土)~18日(日) 清田区役所ロータリー・市民交流広場  
1日あたり150~360名が来場(雨天時を除く)  
※きよフェスと同時開催の日は1,560名

**検証内容** ①オープンスペースでの行動創出  
②日常利用向上の可能性



日常的に  
使われた！

**実証実験2** きよっち探検隊(まち歩き)

2022年10月15日(土) 清田区役所・区民センター周辺  
歴史や自然を学ぶまち歩きに子ども約90名が参加

**検証内容** ①地域の団体との連携の可能性  
②歩いてみたくなる要素の抽出  
③区役所周辺への移動手段



地域団体間の  
連携を  
確認できた！

**第3回 (10月22日)** ・秋の実証実験の振り返りと冬の実証実験の企画内容を考える

**実証実験3** きよた灯りカフェ

2023年2月4日(土)  
清田区役所・市民交流広場・おしりべつ神社



詳細は  
裏面を  
ご覧ください。

**第4回 (2月18日)** ・地域交流拠点清田の今後の方向性を考える



(裏面)

### 実践実験3 きよた灯りカフェ

2023年2月4日(土)  
清田区役所・市民交流広場・あしりべつ神社

約50名のお子さんがスノーキャンドルづくりに参加し、市民交流広場とあしりべつ神社で1,000個以上のスノーキャンドルが点灯されました。区役所内ではカフェスペースの利用や音楽コンサートを楽しむ姿があり、屋内外あわせて常時40〜70名の来場者がありました。

検証 ①地域の団体との連携の可能性  
内容 ②屋内・屋外空間の活用と茶任の可能性



地域の皆さんの協力のもと冬期に屋内外で人々が集う場づくりを実現!

### 第4回 きよた暮らしラボ 2023年2月18日(土)13時30分〜15時30分

実践実験の結果を踏まえ、「にぎわいづくり」を継続するために必要な体制や時期、ルールなどについて、意見交換を行いました。



地域と行政が協力しながら、「にぎわいづくり」を継続していく方向性が確認されました。

## ●今後の方向性

<b>ハード</b>	将来的な区民センターの移転に合わせて整備 ・屋内で滞在・交流できる機能 ・屋外における休憩機能 ・交通機関 など	市で推進
<b>ソフト</b>	清田区役所屋内、市民交流広場などを活用した日常使いを継続 (例) キッチンカー、カフェ、フリーマーケット、 農産物直売、カルチャースクール、アウトドア など	地域から市と連携
<b>マネジメント</b>	日常使いの取組を継続できる体制づくり	

『清田』の恒常的なにぎわいづくりに向けて、ハード・ソフト・マネジメントの3つの視点で検討してきました。これまでの取組も踏まえて、今後も公共空間を活用したにぎわいづくりを続けていく予定なので、引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします!

問い合わせ先  
札幌市 まちづくり政策局 政策企画部 政策推進課  
電話：011-211-2139 FAX：011-218-5109

きよた暮らしラボのこれまでの取組についてはホームページをご覧ください。



## 4章 Fun! Fan! KIYOTA（実証実験）の企画・運営・効果検証

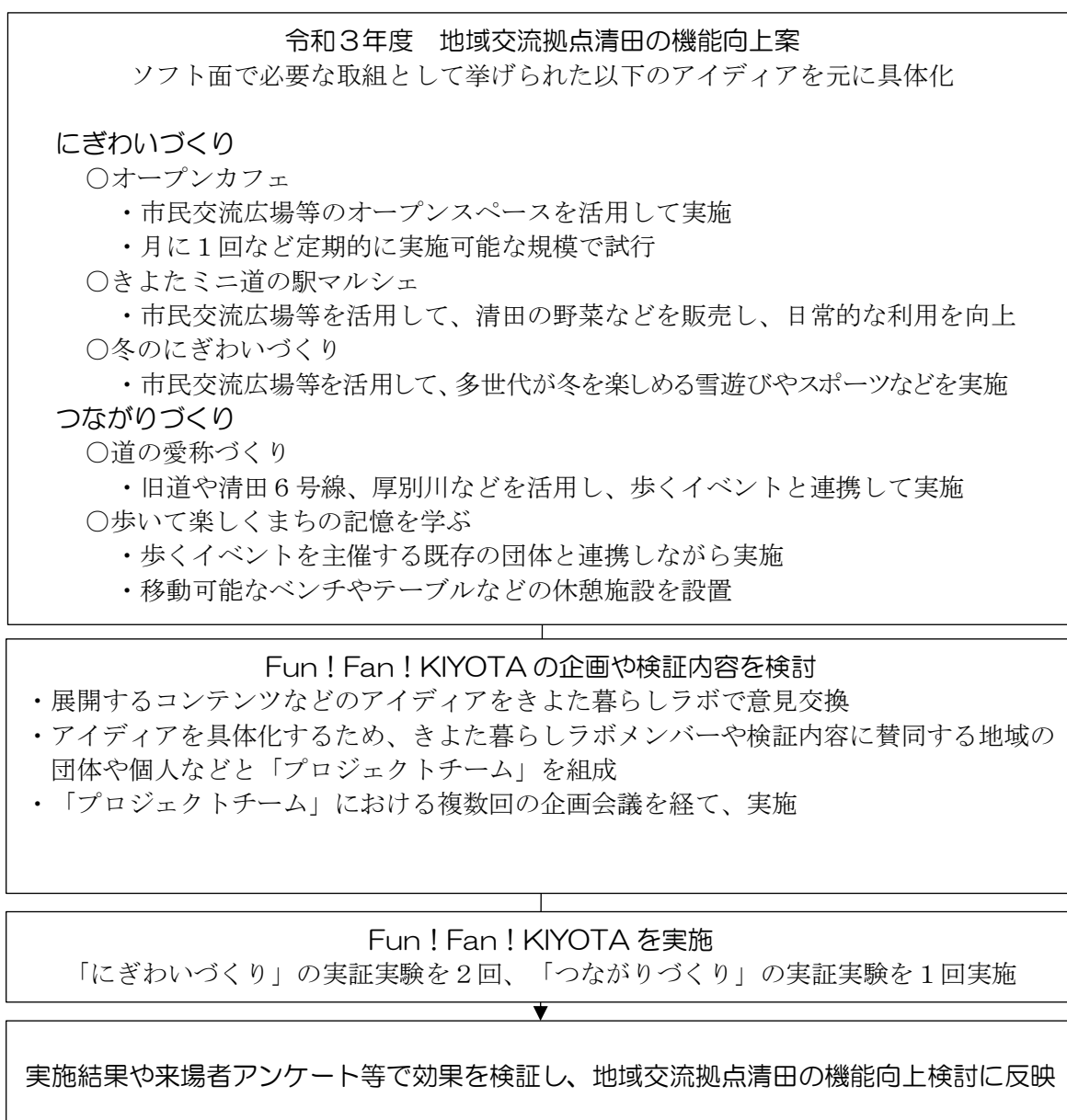
### 4-1 Fun! Fan! KIYOTA について

きよた暮らしラボで意見交換してきた内容が地域交流拠点清田における恒常的なにぎわいや交流の創出に効果的であるかを検証するために実証実験を行った。

きよた暮らしラボで実証実験の名称を検討し「Fun! Fan! KIYOTA」として実施した。

### 4-2 Fun! Fan! KIYOTA の流れ

Fun! Fan! KIYOTA はきよた暮らしラボで意見交換してきた内容を踏まえ、以下の流れで企画・運営を行った。



### 4-3 Fun! Fan! KIYOTAの実施結果

Fun! Fan! KIYOTAは地域の団体などと連携しながら秋に2回、冬に1回の全3回実施した。

いずれも地域交流拠点清田の中心である清田区役所と市民交流広場を舞台とした。また、地域交流拠点清田の「にぎわい」と「つながり」創出に関連性の高い区民センター周辺や、清田区役所と市民交流広場をつなぐ歩行空間・河川空間・公園などの公共空間でも実施した。

現地での来場者の行動観測や来場者のカウント、来場者へのアンケート、出店者の意向調査(アンケートやヒアリング)により、効果を検証した。

Fun! Fan! KIYOTAの概要は、以下のとおりである。

実証実験	開催日等	検証内容とコンテンツ	実施結果
オープン カフェ& マルシェ	令和4年9月 10日(土)~18 日(日)の10日 間  清田区役所ロ ータリー・市民 交流広場	<b>にぎわいづくりの実験</b> ①オープンスペースでの行動創出の可能性 →オープンカフェの設置 →インフォメーションサインの設置 ②日常利用向上の可能性 →キッチンカーの出店 →マルシェ(地元農家の軽トラ市)の開催	●屋外の公共空間を活用した定期的なコンテンツの展開により「恒常的なにぎわい」が創出 ●利用者の滞在延長を促す心地よい空間づくりや交通機能などの充足が必要 ●公共空間を官民連携で日常的に活用するためのルールや仕組みが必要
きよっち 探検隊 (まち歩 き)	令和4年10 月15日(土)  清田区役所・ 区民センター 周辺	<b>つながりづくりの実験</b> ①地域の団体との連携の可能性 →区内で活躍する団体や個人と連携した企画・実施 ②歩いてみたくなる要素の抽出 →区役所~区民センターまでのまち歩き →清田区ゆかりの地を巡るコース設定 ③区役所周辺への移動手段 →子ども達の帰宅送迎用バス	●初のコンテンツにより団体相互が連携 ●連携して企画・運営を行なったプロジェクトメンバーや参加した子ども達ともに継続の意向あり ●地域の団体との連携のもと、新たなルート設定しながらまち歩きコンテンツを継続
きよた灯 りカフェ	令和5年2月 4日(土)  清田区役所・ 市民交流広 場・あしりべ つ神社	<b>冬のにぎわいづくりの実験</b> ①地域の団体との連携の可能性 →市民交流広場とあしりべつ神社でのキャンドルづくり体験・点灯 →地域の各団体などと協力して実施 ②屋内・屋外空間の活用と滞在の可能性 →区役所内でのカフェ・物販&休憩コーナーの仮設置、コンサートの実施 →ロータリーでのキッチンカー出店	●冬期の屋内外公共空間におけるコンテンツの展開で「人が集える場」を創出 ●屋内外公共空間の活用は、体制や制度を整えつつ今後も継続 ●公共空間を官民連携で日常的に活用するためのルールや仕組みが必要

## (1) オープンカフェ&マルシェ

### 1) 実施概要

#### ●開催目的：

既存のオープンスペースを活用して、オープンカフェやマルシェなどの新たな機能の展開による「にぎわいづくり」の可能性を検証する

#### ●実施時期：2022年9月10日(土)～18日(日) 10時～17時

※9月17日(土)は「きよフェス」開催

#### ●開催場所：清田区役所（ロータリー）、市民交流広場

#### ●検証内容と基本コンテンツ：

##### ①オープンスペースで日常的な集いや休憩などの行動創出の可能性

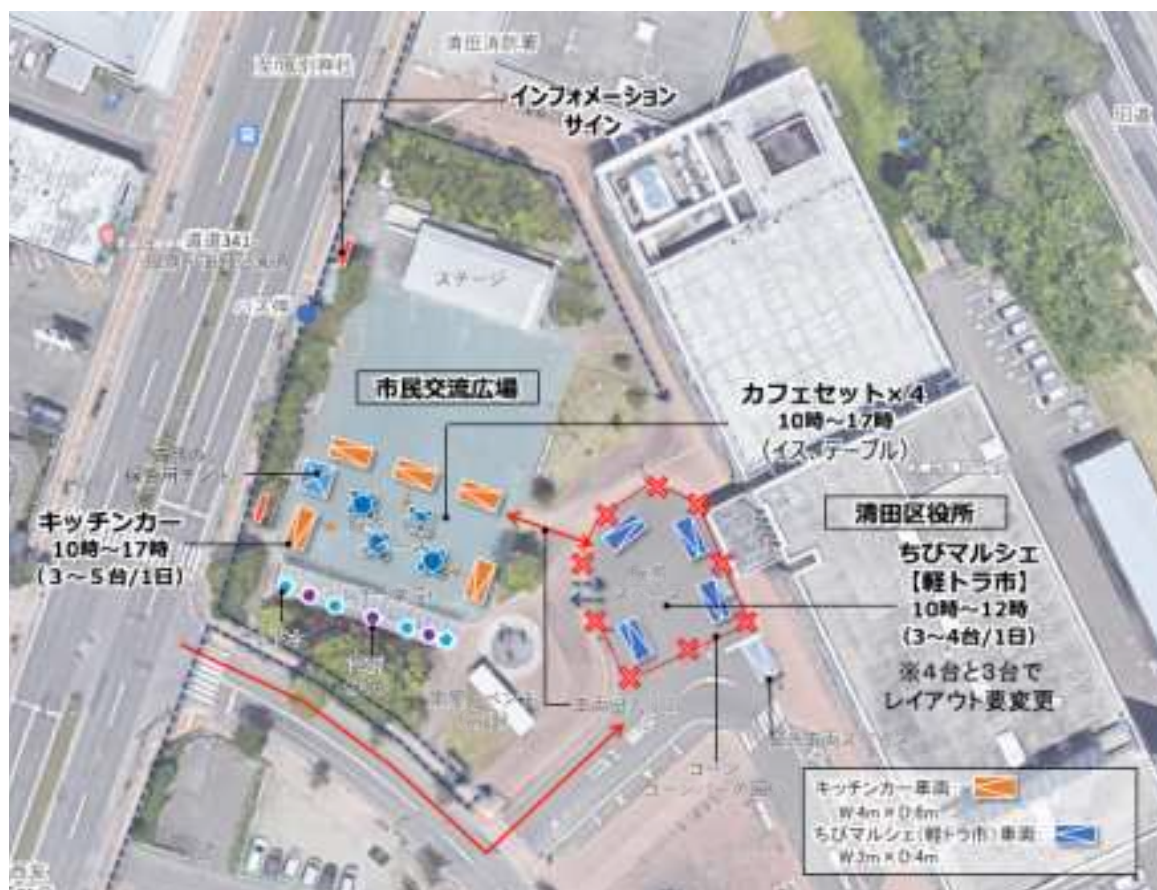
→休憩や憩いの場として活用できるオープンカフェ（イスやテーブル）の設置

→インフォメーションサインの設置

##### ②一定期間のオープンカフェ&マルシェ実施による日常利用向上の可能性

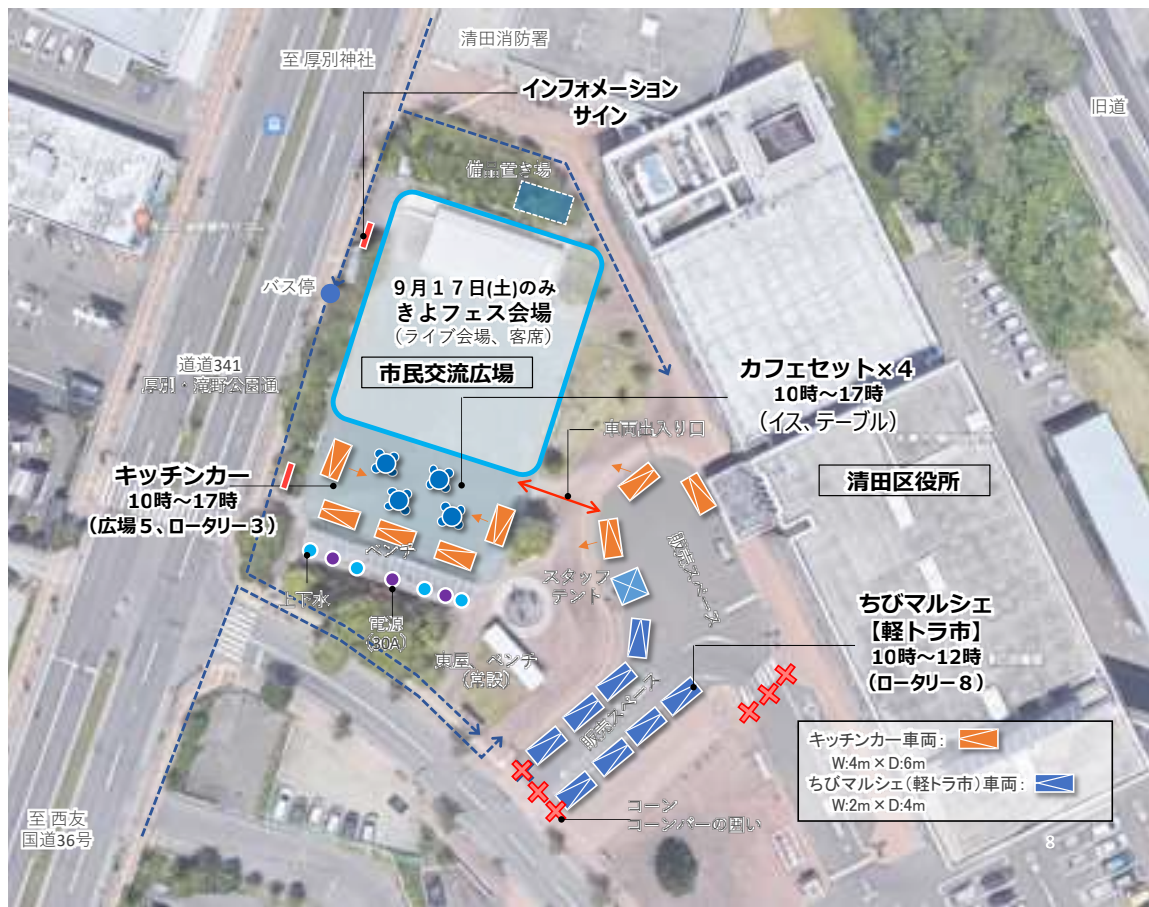
→日常的な展開が想定されるキッチンカーの出店

→マルシェ（地元農家の軽トラ市）の開催



配置図





配置図 (9月17日(土) きよフェス開催時)

2) 当日の様子

① 9月10日(土)～16日(金)、18日(日)



インフォメーションサイン (広場入口付近)



マルシェ



オープンカフェ



アンケート調査



キッチンカー



キッチンカー



オープンカフェ (キッチンカー5台出店のお昼時)



キッチンカー



日差しがあり、気温が高めの気候では、オープンカフェセットの利用は少なく、市民交流広場の庇（ひさし）がある常設ベンチの利用が多かった。



日差しがあり、気温が高い日中の様子

日が陰ってくる夕方の時間帯や日差しが少ない日などは、キッチンカーで買い物した後にオープンカフェセットを利用する人が多かった。

日常的な市民交流広場の利用には、日陰をつくる装置等が必要と考えられる。



夕方や日差しが少ない時間帯の様子

②9月17日(土)きよフェスと同時開催



キッチンカー（ロータリー）



オープンカフェ



マルシェ



マルシェ



マルシェ

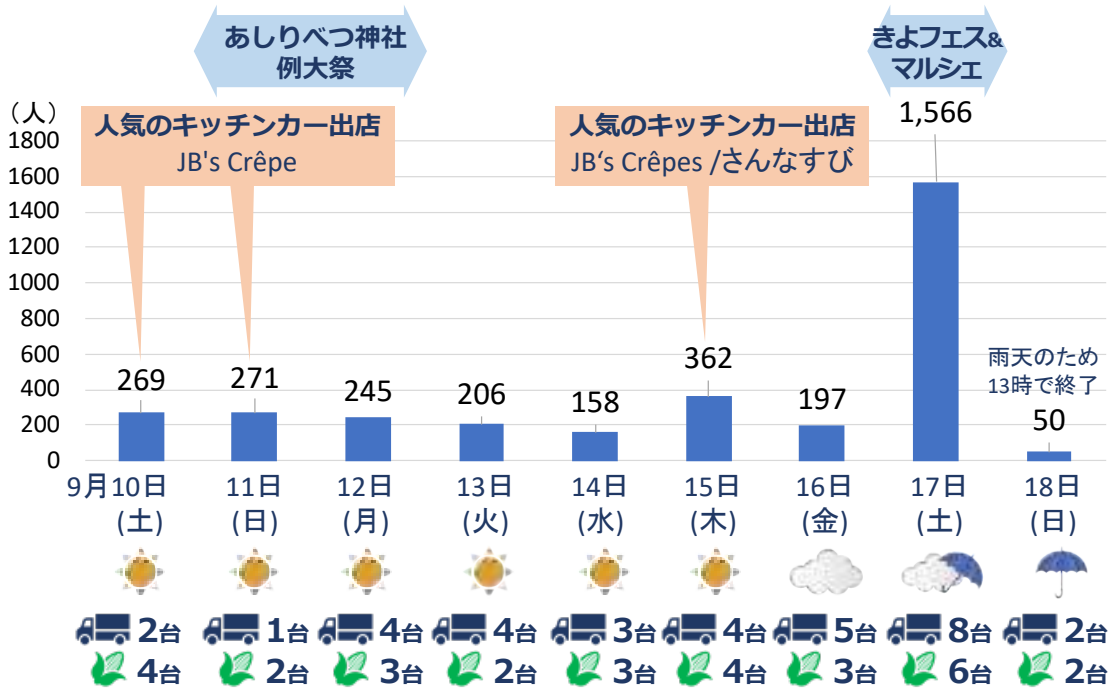


オープンカフェとステージでのきよフェス演奏

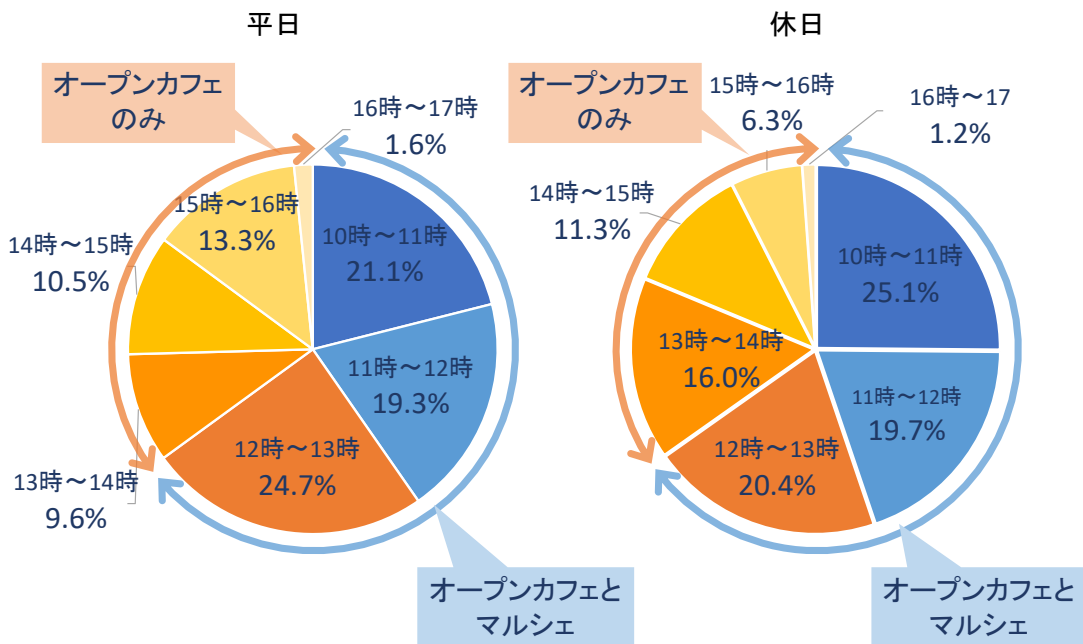
### 3) 来場者数

1日あたり100～300人の来場があり、天候が晴れて人気のキッチンカーが出店した日や清田区役所周辺で実施された地域のイベントと重なる日などは来場者が多かった。

平日及び休日の時間別の来場者割合に大きな差は見られなかった。



1日あたりの来場者数



時間別の平均来場者割合



#### 4) アンケート調査

来場者を対象とした紙とWEBによるアンケート調査を行った。また、9月11日と12日には祭りが行われていたあしりべつ神社でアンケート調査を実施した。

##### ①実施概要

###### 【オープンカフェ&マルシェ会場】

期間：2022年9月10日（土）～2022年9月18日（日）

回収数：紙132、WEB49、

###### 【あしりべつ神社会場】

期間：2022年9月11日（日）～2022年9月12日（月）

回収数：38



アンケート調査の様子









問5. どなたと一緒にいきますか。(複数回答可)

- |        |            |
|--------|------------|
| 1. 友人  | 2. 職場の同僚   |
| 3. 家族  | 4. 恋人      |
| 5. ひとり | 6. その他 ( ) |

問6. 何を利用したいですか。(複数回答可)

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1. オープンカフェ | 2. キッチンカー |
| 3. マルシェ    | 4. わからない  |

問7. どのくらい滞在したいですか。また、このようなイベントがあると滞在時間は変化すると思いますか。

滞在時間 ( 時間 分)

- |         |          |            |
|---------|----------|------------|
| 1. 長くなる | 2. 変わらない | 3. その他 ( ) |
|---------|----------|------------|

問8. どのような交通手段で行きますか。

- |            |       |         |
|------------|-------|---------|
| 1. 自動車・バイク | 2. バス | 3. タクシー |
| 4. 自転車     | 5. 徒歩 |         |

問9. 清田区役所へ行くためにはどのような機能があるといいですか。(複数回答可)

- |               |            |
|---------------|------------|
| 1. バス路線の拡充    | 2. バス便数の増加 |
| 3. 駐車場・駐輪場の拡充 | 4. その他 ( ) |

問10. 清田区役所周辺のにぎわいのためには、どのような機能や取組があればいいと思いますか。下記枠内にご記入ください。(自由記載)

例：芝生の広場がある。キッチンカーやカフェなどで飲食ができる。  
音楽やマルシェなどのイベントが定期的に開催されている。

ご協力ありがとうございました。

### ③結果の概要

#### ●オープンカフェ&マルシェの満足度は高い

オープンカフェ&マルシェの満足度は高く、特に10代~20代など若い世代の満足度が高い傾向である。

全年代を通じて、今後も定期的な開催を望む声がある。

#### ●広場には、心地よく滞在できる機能が必要

イベントの滞在時間は16分~31分ほどが多く、来訪者に長く過ごしてもらうためには、日除けをつくるなど心地いい空間づくりが望ましいと考えられる。

#### ●コンテンツ（活動）や対象に応じた「相互」の情報発信を

イベントを知ったきっかけについて、60歳以上の回答が多い紙の回答では「現地で知った」や「広報さっぽろ」が多く、30~40代の回答が多いWEBの回答では「各キッチンカーのSNS」が多いことから、ターゲット層に合わせた広報や告知の方法などを検討する必要がある。

#### ●地域交流拠点清田の機能向上には交通機能の充実も必要

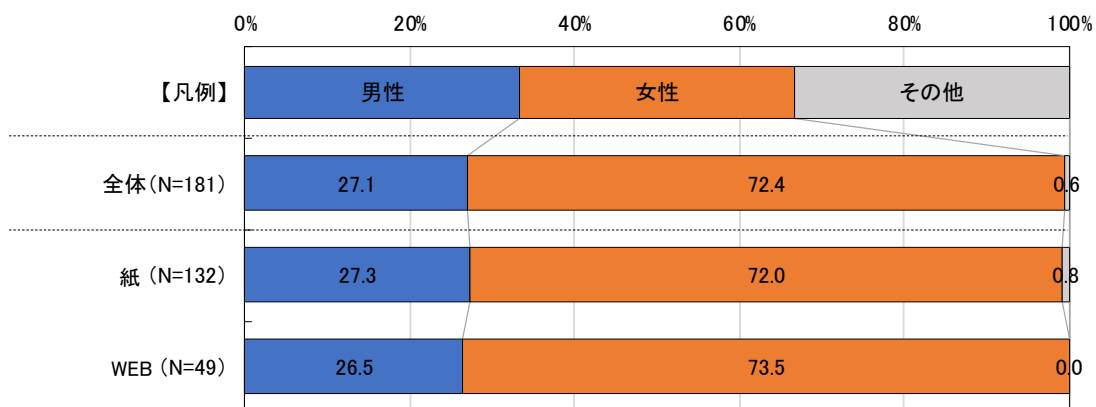
清田区役所周辺へ行くために「バス路線の拡充」や「便数の増加」「駐車場・駐輪場の拡充」がほぼ同じ割合の回答となった。

その他には地下鉄や信号の設置などの意見があった。

④設問ごとの回答結果

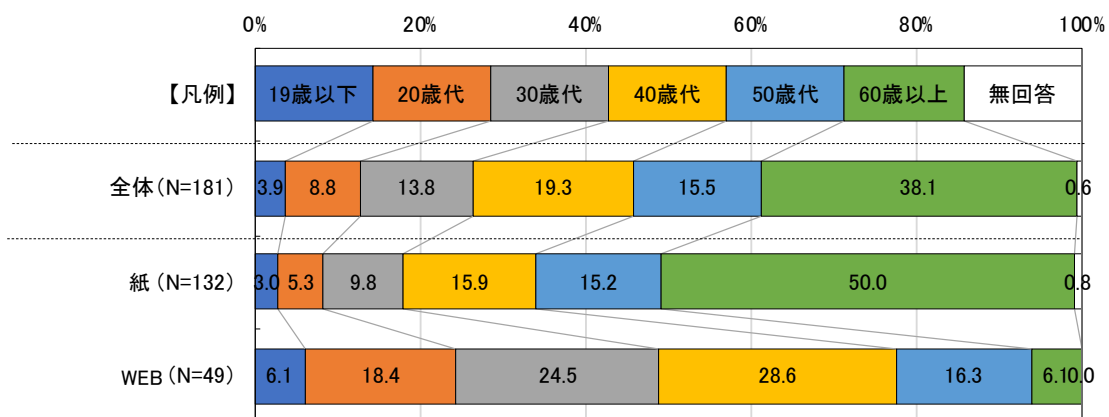
【オープンカフェ&マルシェ会場】

問1：あなたの性別をお答えください。



「男性」が約3割、「女性」が約7割という結果だった。

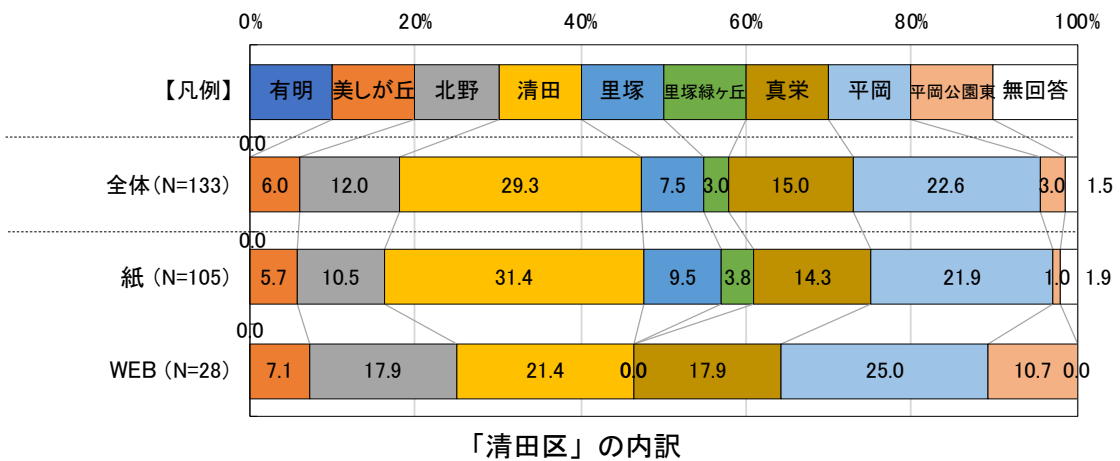
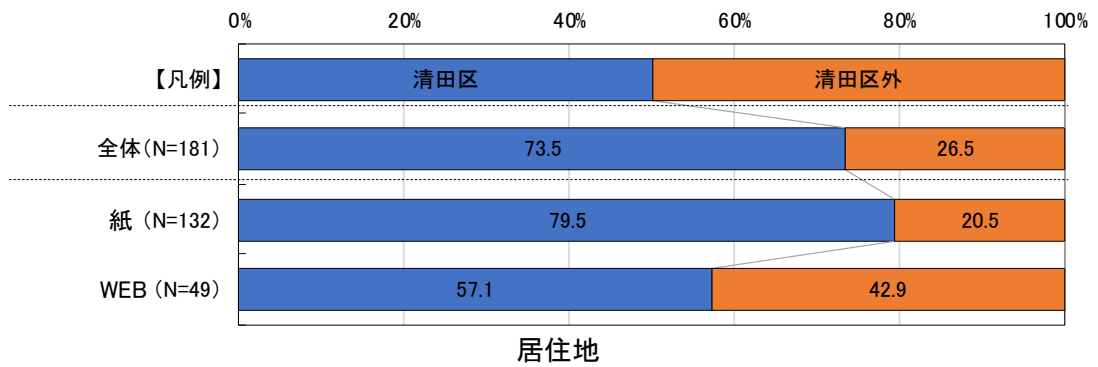
問2：あなたの年齢をお答えください。



全体では「60歳以上」が約4割と最も多く、その次は「40歳代」と「50歳代」が多かった。

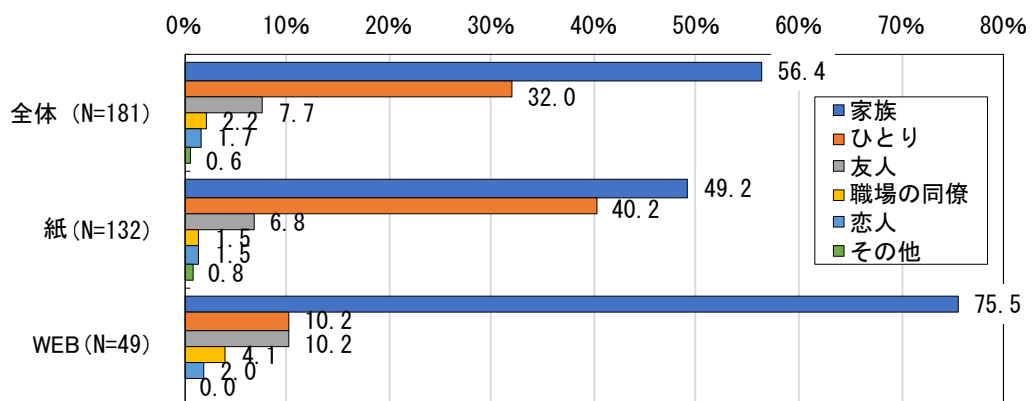
紙の回答では「60歳以上」が5割と最も多いが、WEBの回答では「30歳代」と「40歳代」が多かった。

問3：あなたのお住まいの地域をお答えください。



「清田区」が約7割、「清田区以外」が約3割という結果だった。  
 「清田区」のうち「清田」「平岡」「真栄」からの来場が多かった。

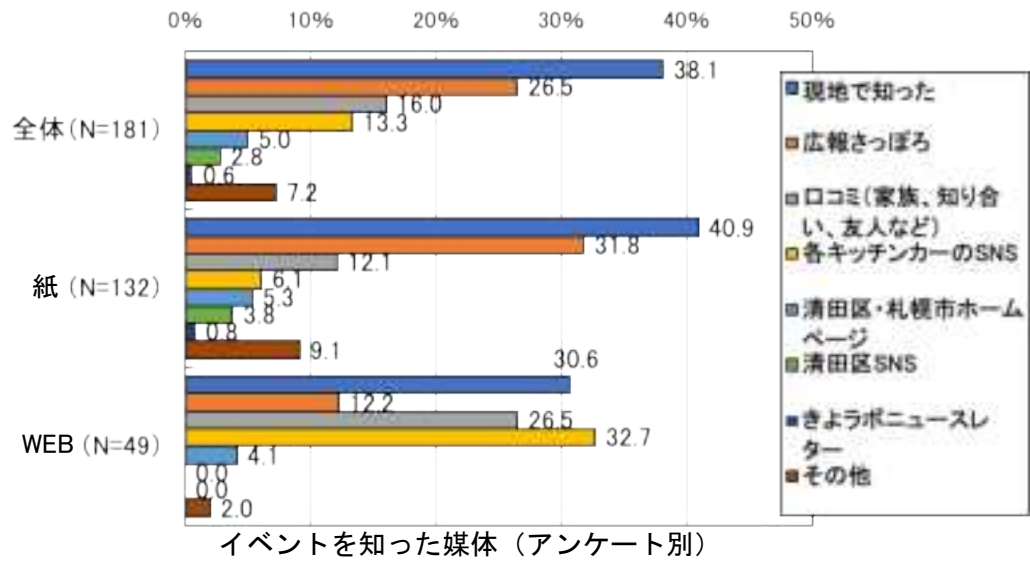
問4：どなたと一緒に過ごされましたか。（複数回答可）



「家族」が約5割と最も多く、その次は「ひとり」が約4割という結果だった。

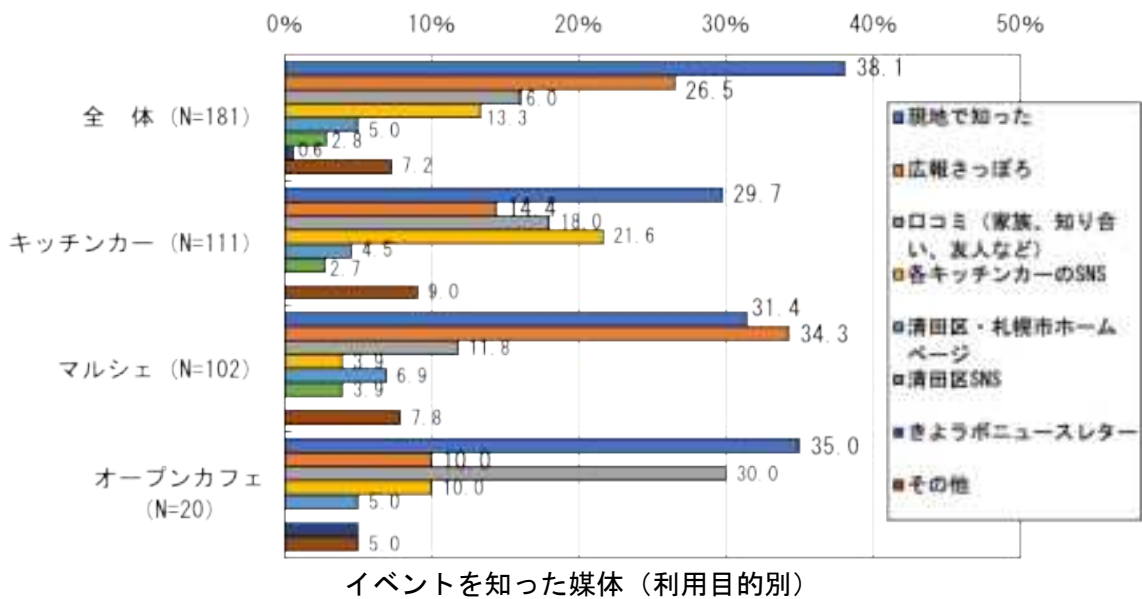


問5：当イベントを何で知りましたか（複数回答可）



紙の回答では「現地を知った」が約4割と最も多く、その次は「広報さっぽろ」が約3割という結果だった。

WEBの回答では「各キッチンカーのSNS」が最も多かったが、「現地を知った」も僅差であった。

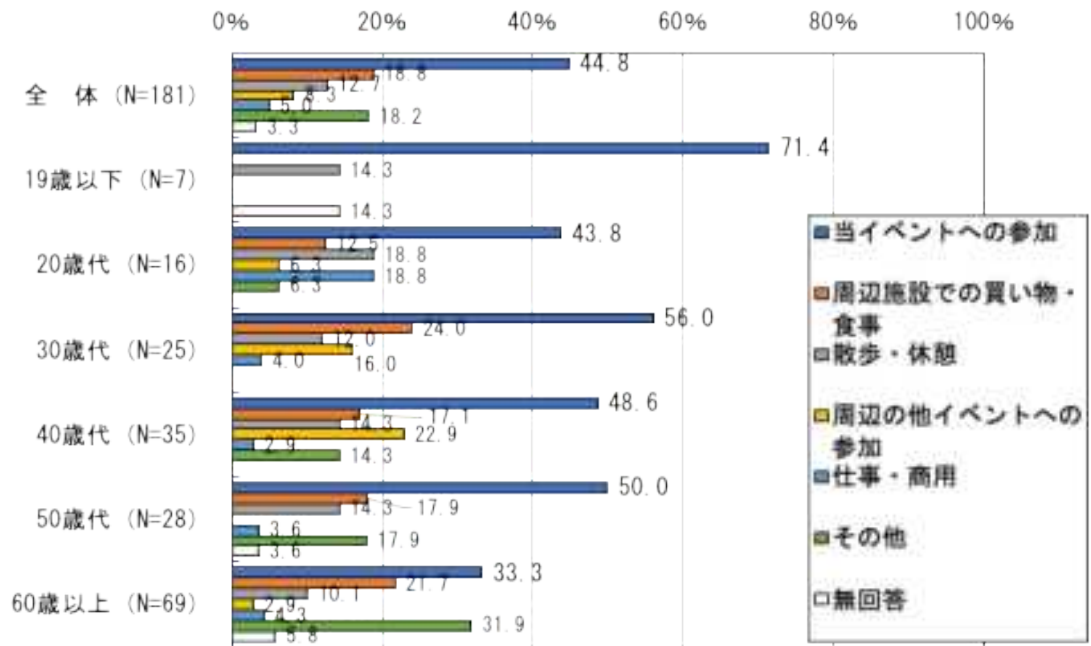


キッチンカー利用者は「現地を知った」が約3割と最も多く、その次は「各キッチンカーのSNS」が約2割という結果だった。

マルシェ利用者は「広報さっぽろ」が約3割と最も多く、その次は僅差で「現地を知った」という結果だった。

オープンカフェ利用者は「現地を知った」が約3割と最も多く、その次は僅差で「口コミ」であった。

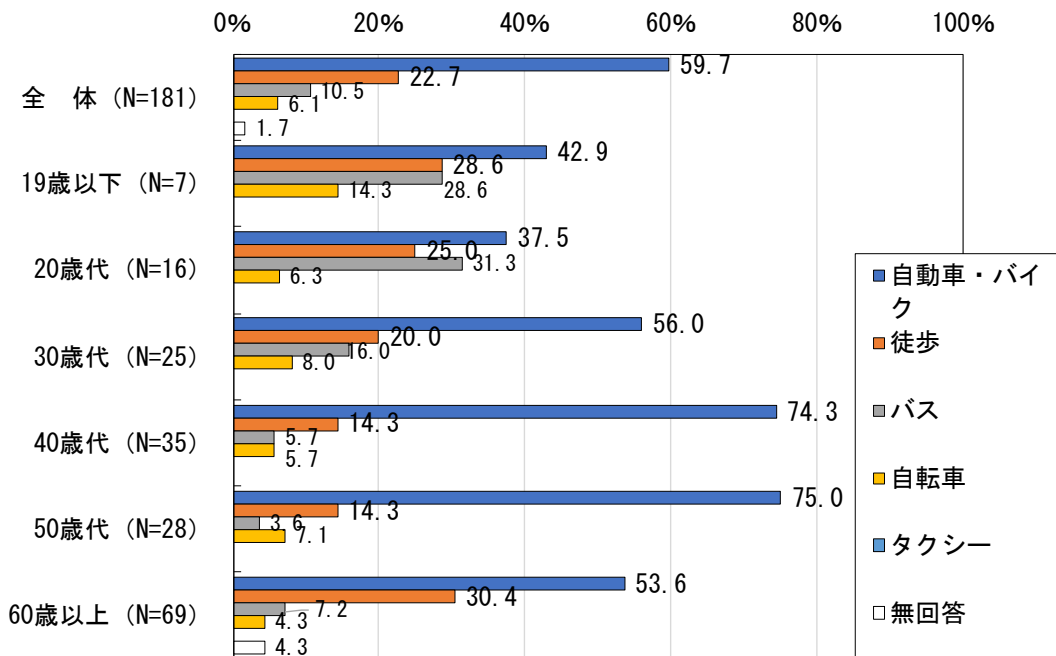
問6：どのような目的でお越しになりましたか？（複数回答可）



全年代で「当イベントへの参加」が最も多かった。

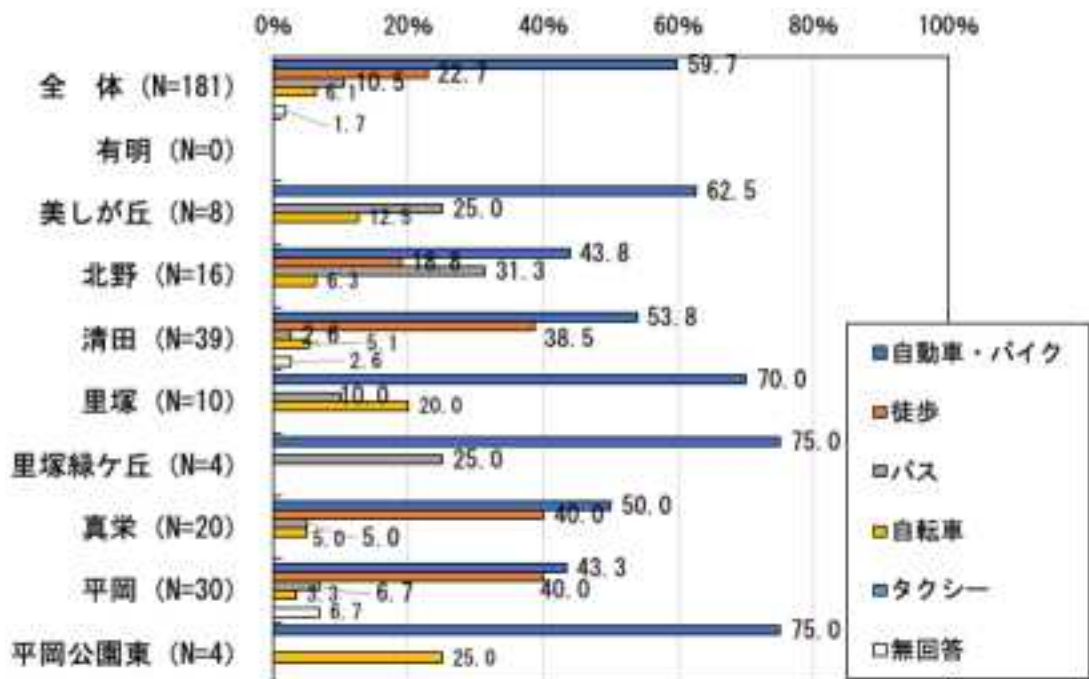
「その他」の回答としては「区役所」や「図書館」などがあつた。

問7：どの交通手段でお越しになりましたか？



来場のための交通手段（年代別）

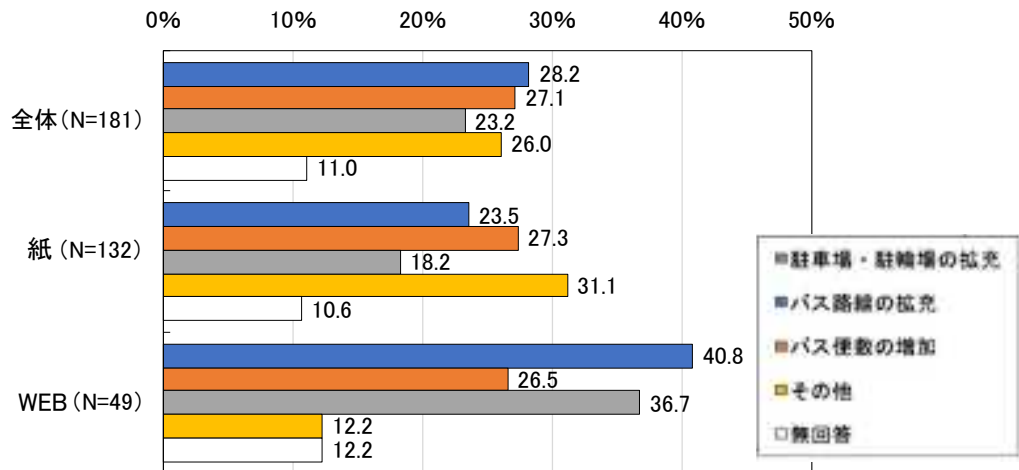
全年代で「自動車・バイク」が最も多く、その次は「徒歩」「バス」が多かった。



来場のための交通手段（地域別）

全地域で「自動車・バイク」が最も多かったが、美しが丘や北野、里塚緑ヶ丘では約2～3割が「バス」で来場している。

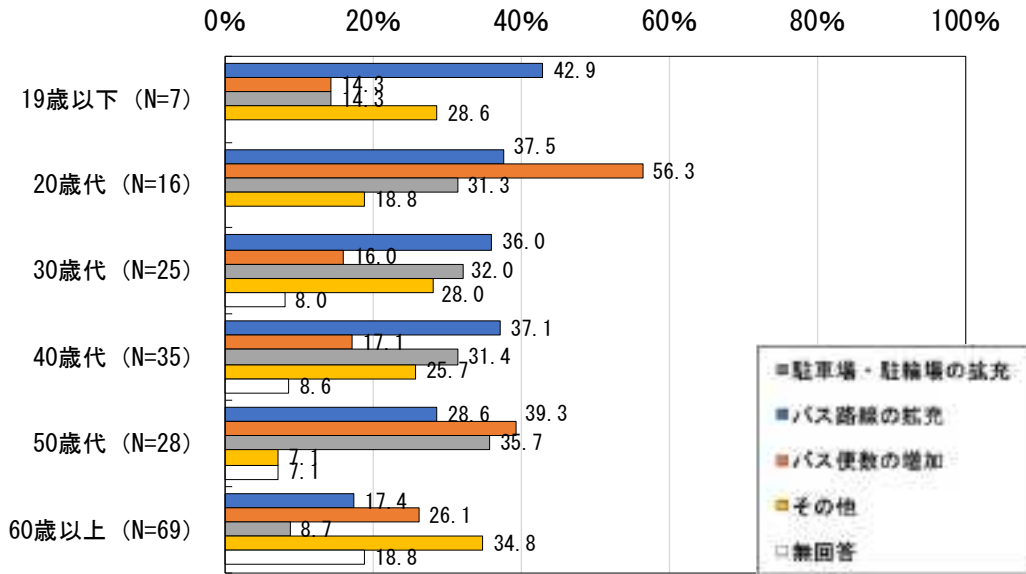
問8：清田区役所周辺へ来るためにどのような機能があるといいですか。（複数回答可）



清田区役所周辺へ来るために必要な機能（アンケート別）

紙の回答では「バス便数の増加」が3割強、「バス路線の拡充」が3割弱であり、WEBの回答では「バス路線の拡充」が約4割、「駐車場・駐輪場の拡充」が4割弱という結果だった。

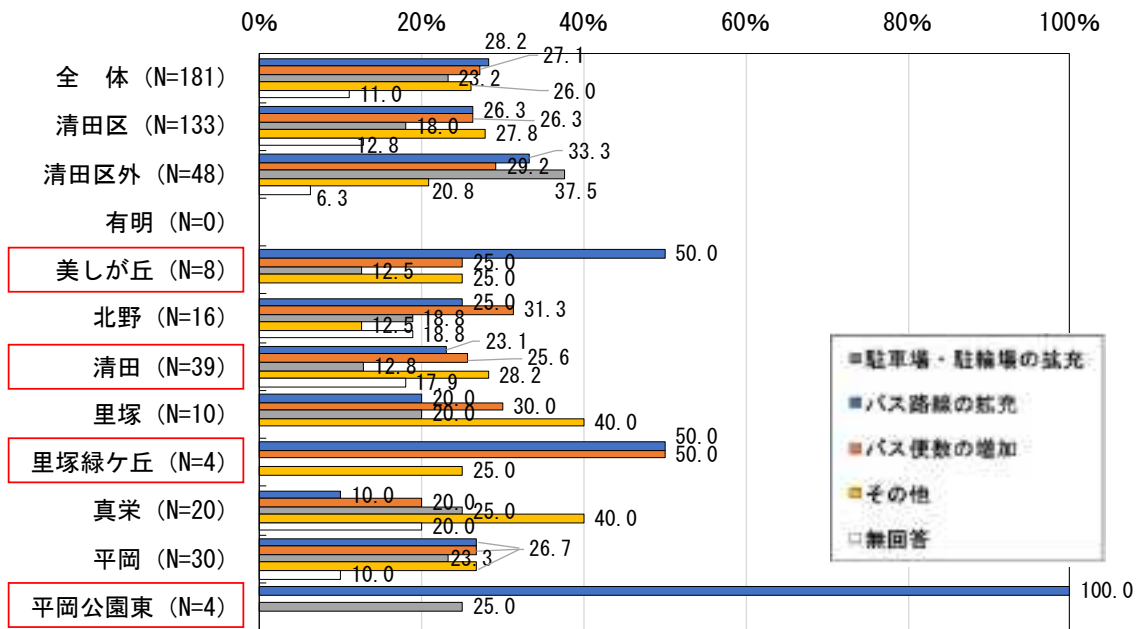
「その他」の回答としては地下鉄や信号の設置、今のままで良いなどがあった。



清田区役所周辺へ来るために必要な機能（年代別）

19歳以下では約4割、30歳代と40歳代では4割弱と「バス路線の拡充」が最も多かった。

20歳代では約6割、50歳代では約4割、60歳以上では3割弱と「バス便数の増加」が最も多かった。

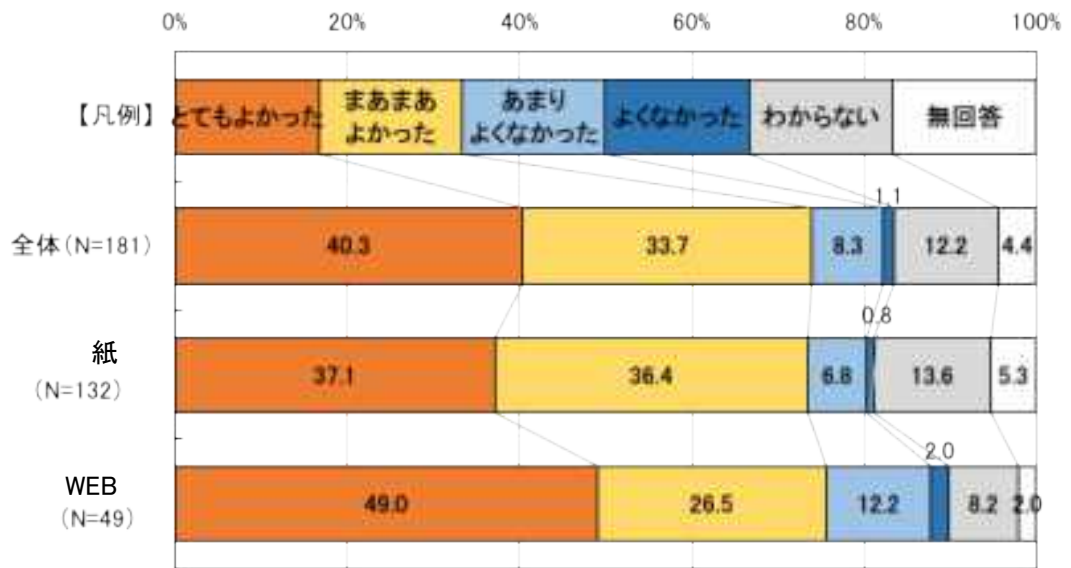


□：区役所までのバス路線がない地域

清田区役所周辺へ来るために必要な機能（地域別）

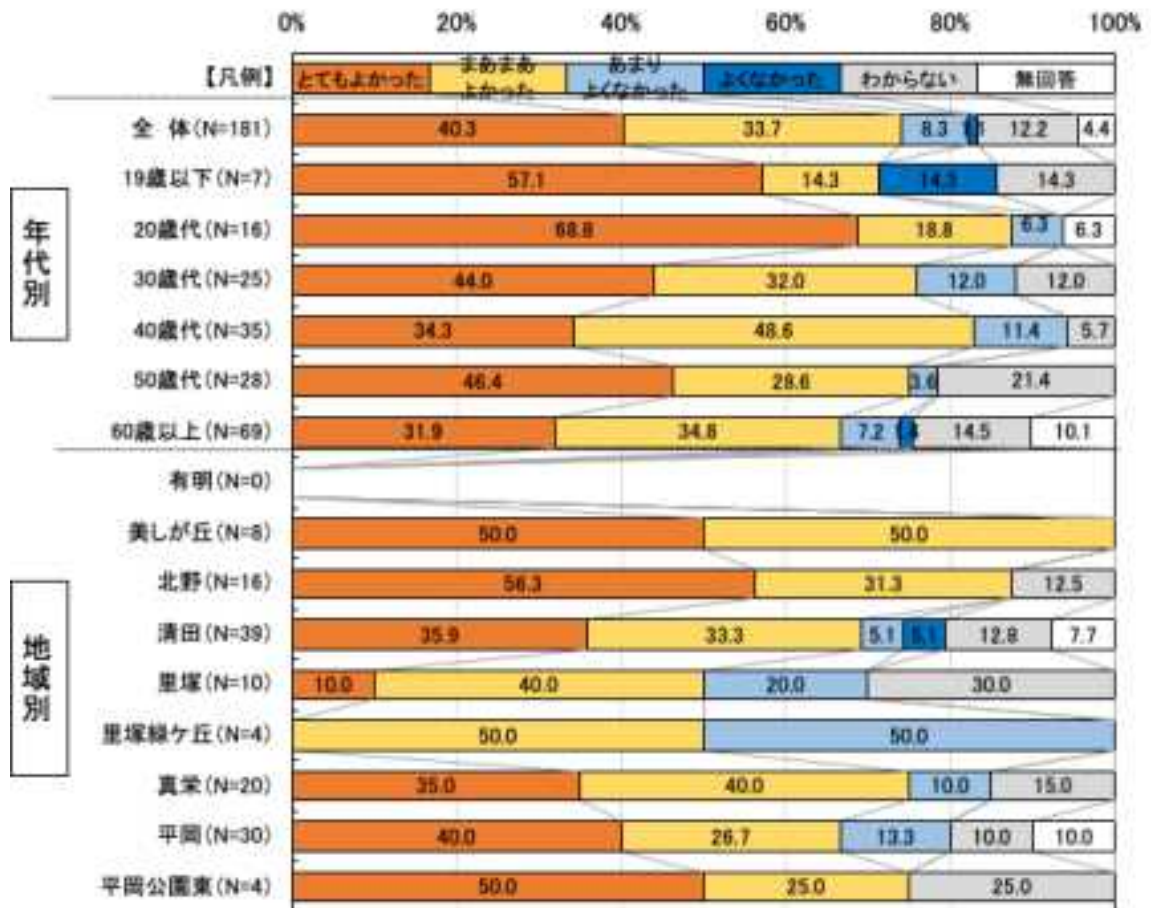
一部において区役所までのバス路線がない地域では「バス路線の拡充」や「バス便数の増加」が多かった。

問9：「オープンカフェ&マルシェ」の満足度を教えてください。



満足度（アンケート別）

「とてもよかった」と「まあまあよかった」が約7～8割という結果だった。

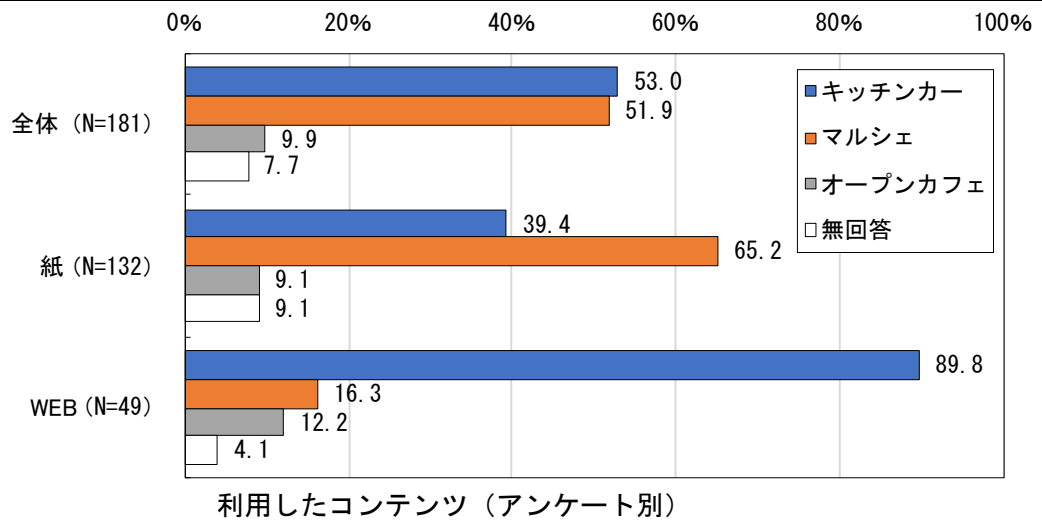


満足度（年代別・地域別）

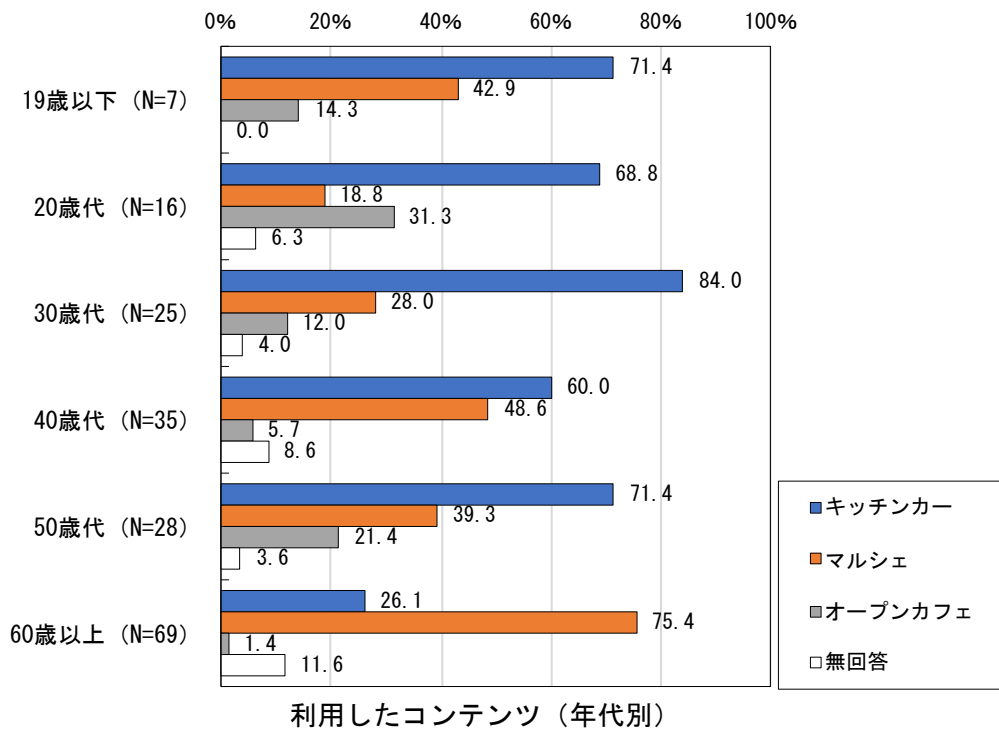
年代別では10歳代と20歳代の満足度が高く、地域別では北野の満足度が高かった。



問 10：どのような利用をされましたか。（複数回答可）

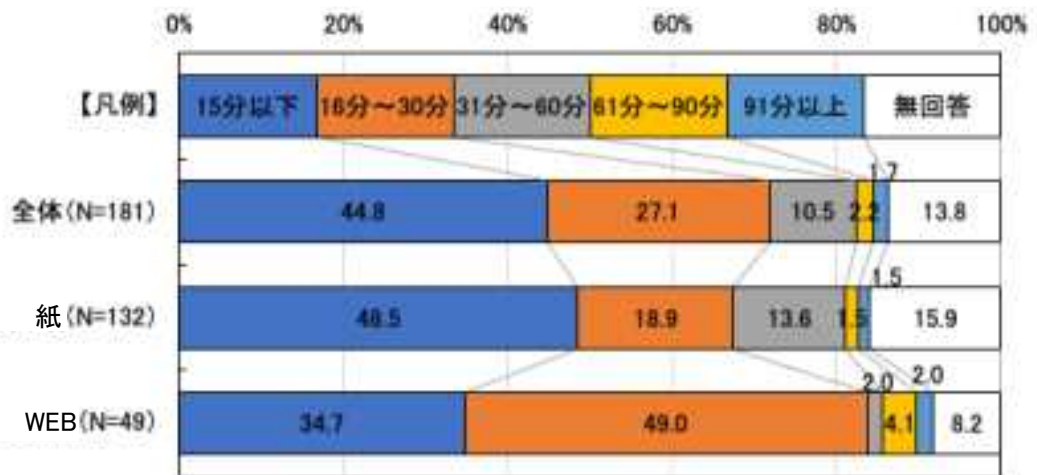


紙の回答では「マルシェ」、WEBの回答では「キッチンカー」の利用が多かった。



10歳代から50歳代までは「キッチンカー」の利用が多く、特に30歳代では8割以上となった。60歳代は「マルシェ」の利用が多かった。

問 11：「オープンカフェ&マルシェ」にどのくらい滞在しましたか。このようなイベントがあると滞在期間は変化すると思いますか。

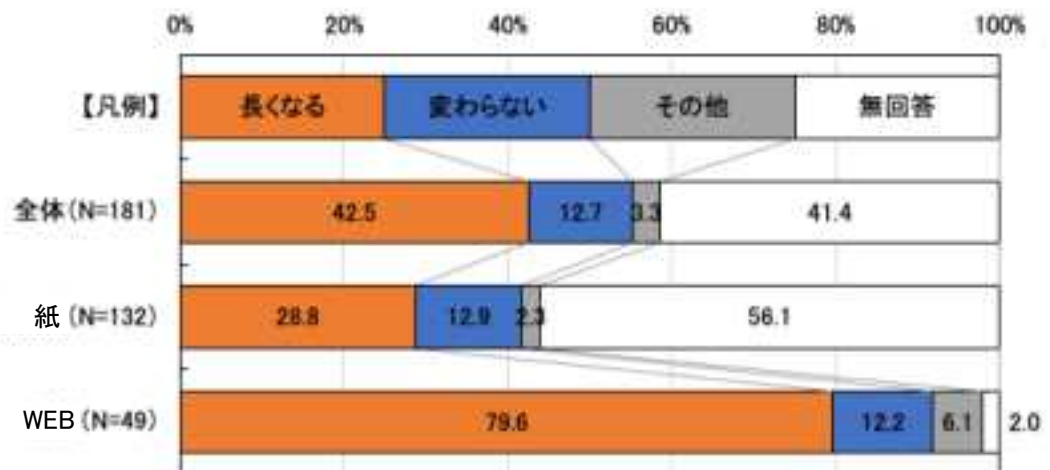


当日の滞在時間（アンケート別）

紙の回答では「15分以下」が5割弱、WEBの回答では「16～30分」が約5割と最も多かった。

紙のアンケートでは60歳以上の回答が多く、その7割弱がマルシェを利用していることから「15分以下」の滞在が最も多かった。

WEBのアンケートでは30～40代の回答が多く、その約9割がキッチンカーを利用していることから「16～30分」最も多かった。

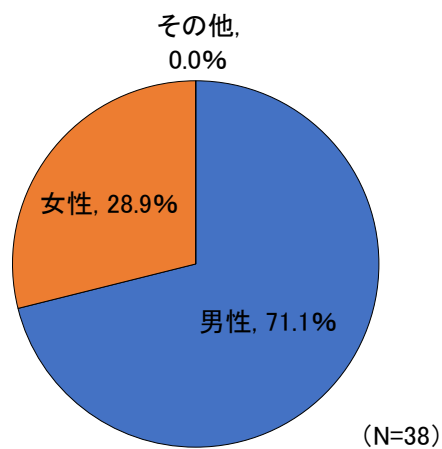


滞在時間の変化度合い

紙の回答では約3割、WEBの回答では約8割が「長くなる」と回答した。

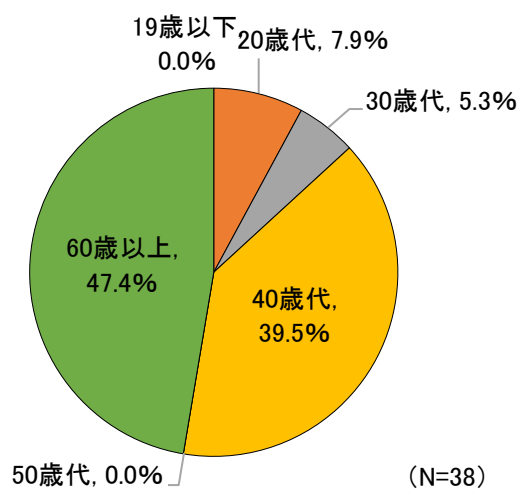
【あしりべつ神社祭り会場】

問1：あなたの性別をお答えください。



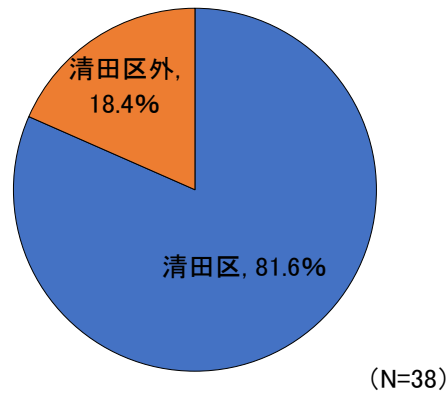
「男性」が約7割、「女性」が約3割という結果だった。

問2：あなたの年齢をお答えください。

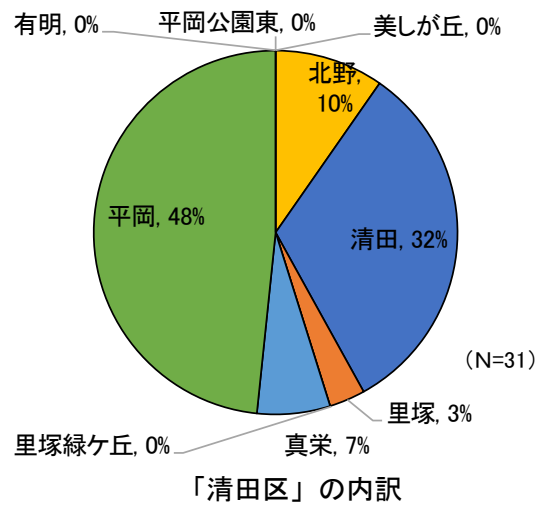


「60歳以上」が約5割と最も多く、次いで「40歳代」の約4割という結果だった。

問3：あなたのお住まいの地域をお答えください。



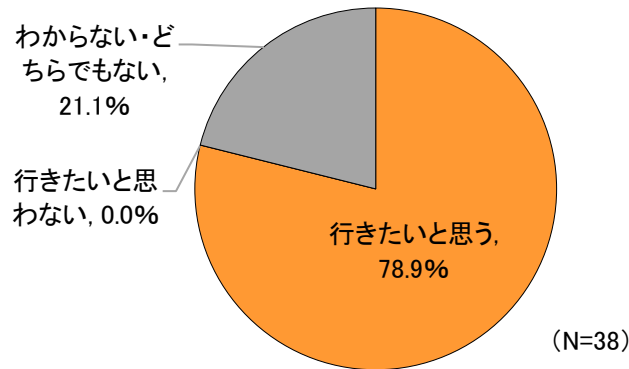
居住地



「清田区」の内訳

「清田区」が約8割、「清田区以外」が約2割という結果だった。「清田区」のうち「平岡」「清田」「北野」からの来場が多かった。

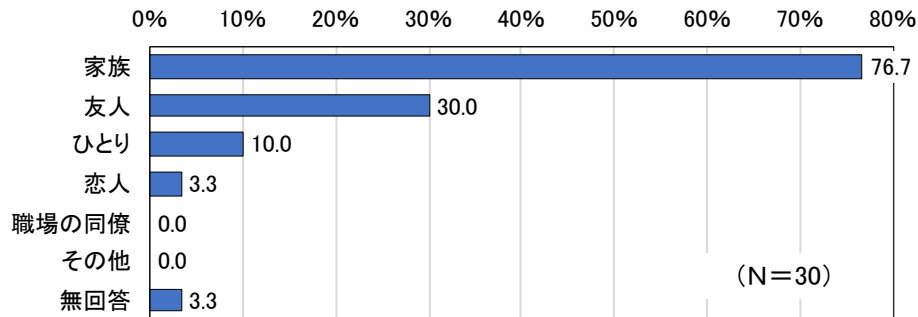
問4：「オープンカフェ&マルシェ」に行きたいと思いますか。



「行きたいと思う」が約8割と最も多かった。

問5：どなたと一緒にいきますか。（複数回答可）

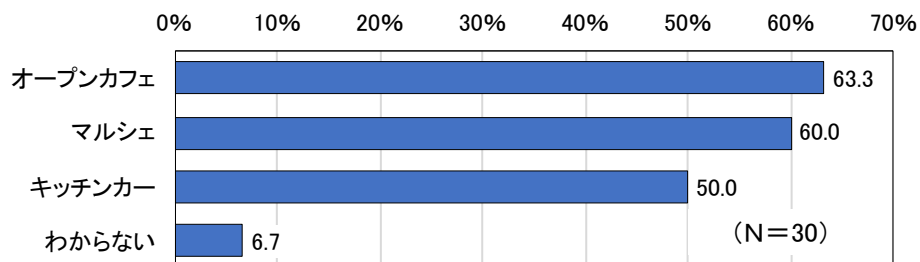
※問4で「行きたいと思う」と回答した場合のみ回答する設問



「家族」が約8割と最も多く、次いで「友人」「ひとり」が多かった。

問6：何を利用したいですか。（複数回答可）

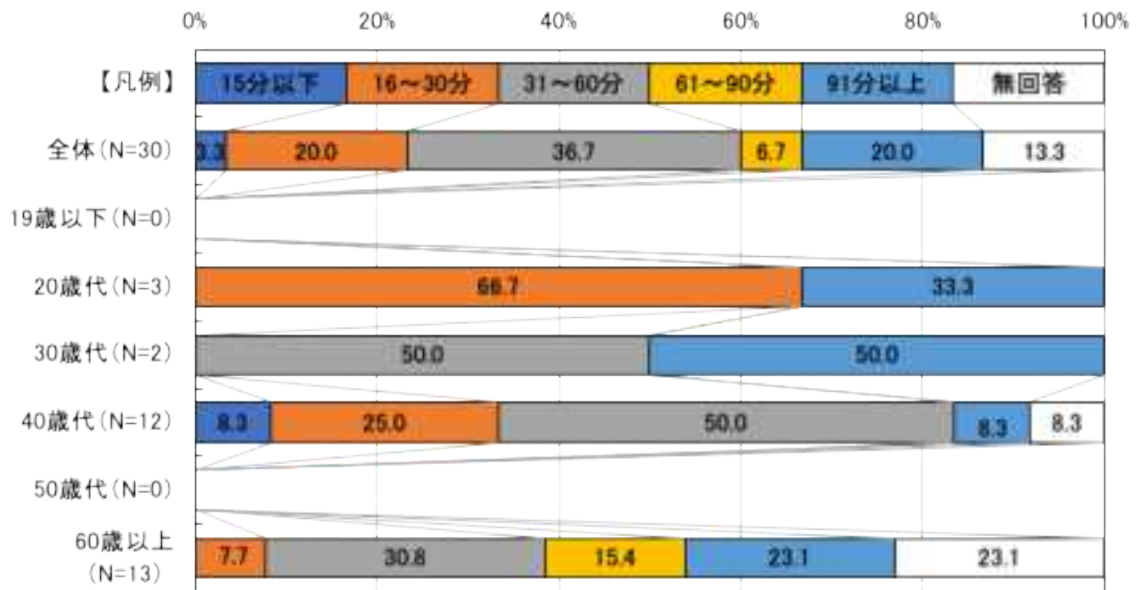
※問4で「行きたいと思う」と回答した場合のみ回答する設問



僅差だが「オープンカフェ」「マルシェ」「キッチンカー」の順で多かった。

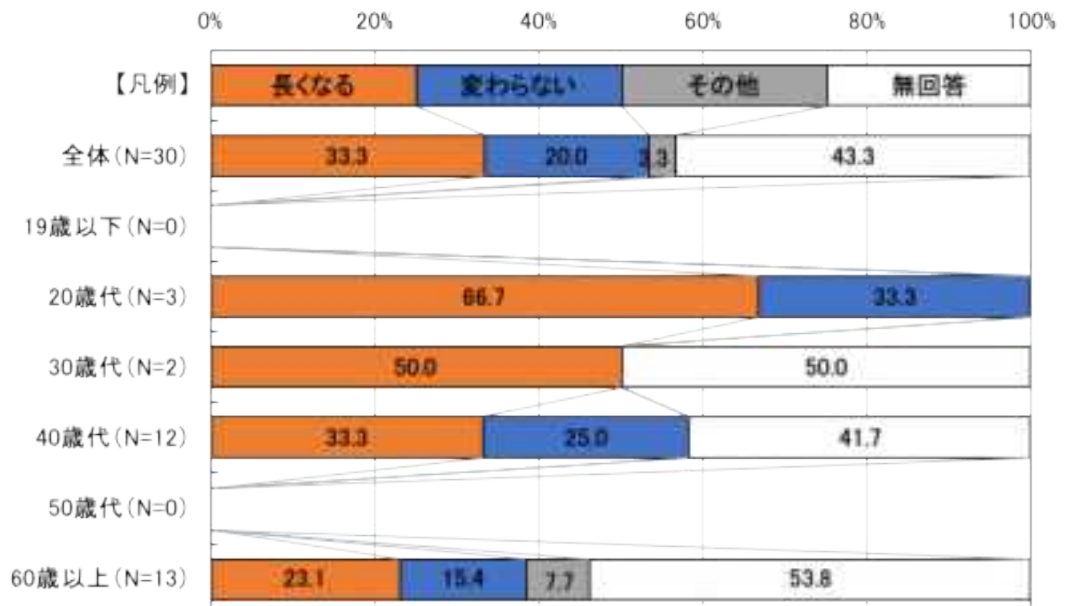


問7：どのくらい滞在したいですか。また、このようなイベントがあると滞在時間は変化すると思いますか。※問4で「行きたいと思う」と回答した場合のみ回答する設問



滞在したいと思う時間（年代別）

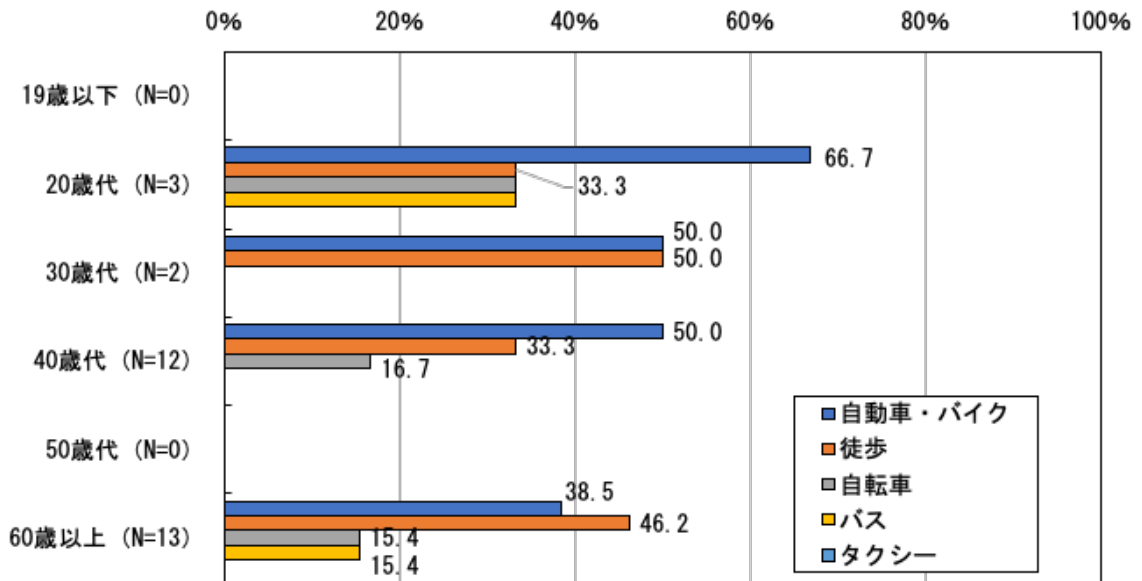
20歳代は「16~30分」、30歳代は「31~60分」と「91分以上」、40歳代は「31~60分」、60歳以上は「31~60分」が最も多かった。



滞在時間の変化度合い（年代別）

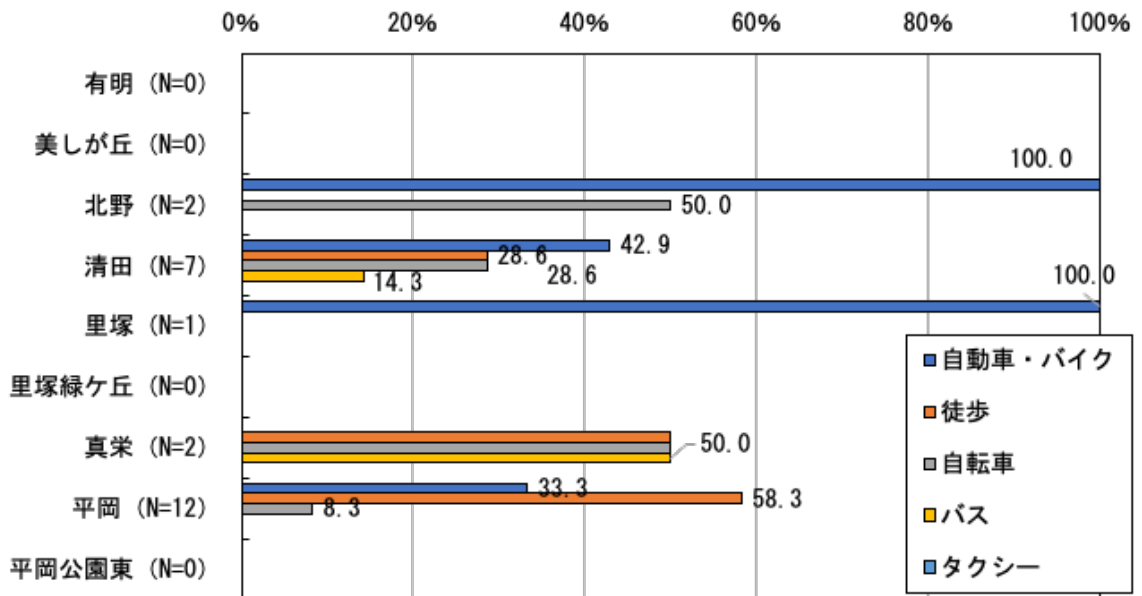
すべての年代で「長くなる」が最も多かった。

問8：マルシェ会場にどのような交通手段で行きますか。  
 ※問4で「行きたいと思う」と回答した場合のみ回答する設問



会場への交通手段（年代別）

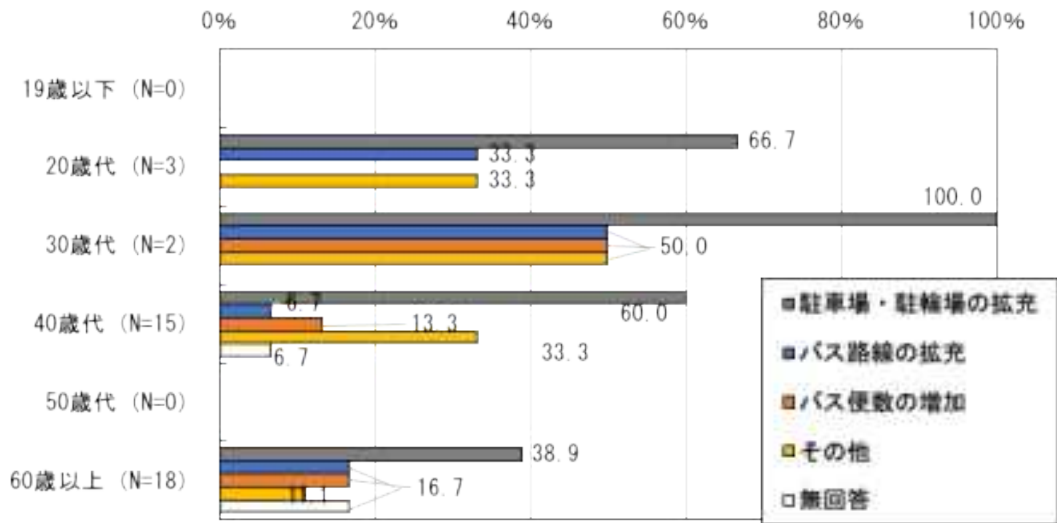
20歳代～50歳代は「自動車・バイク」、60歳以上は「徒歩」が最も多かった。



会場への交通手段（地域別）

北野や清田、里塚は「自動車・バイク」、平岡は「徒歩」が最も多かった。

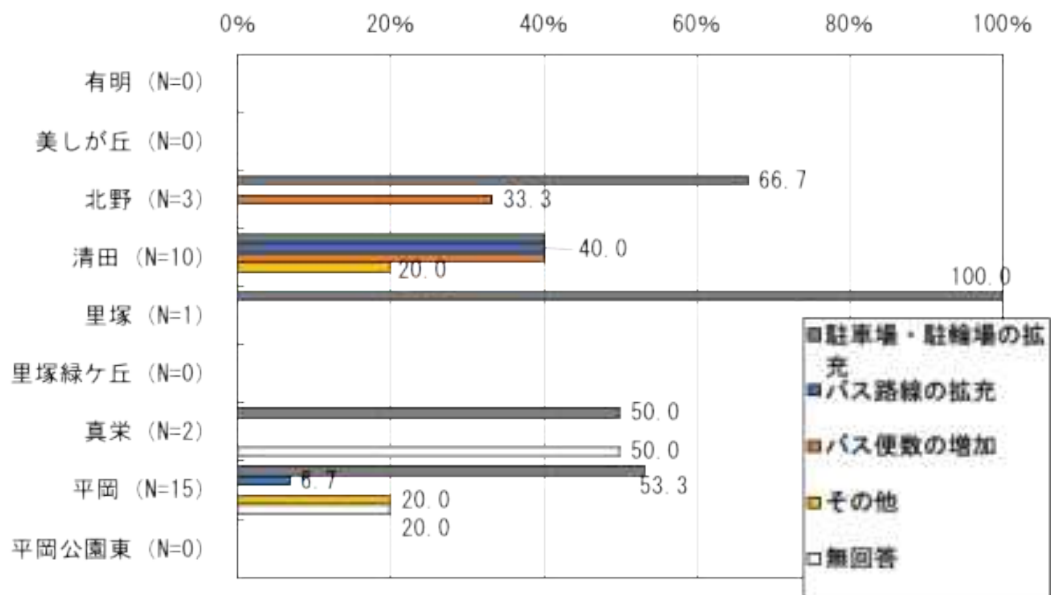
問9：清田区役所へ行くためにはどのような機能があるといいですか。（複数回答可）



清田区役所周辺へ行くために必要な機能（年代別）

全ての年代で「駐車場・駐輪場の拡充」が最も多かった。

「その他」の回答としては、地下鉄やコミュニティバス、シャトルバスなどがあつた。



清田区役所周辺へ行くために必要な機能（地域別）

全ての地域で「駐車場・駐輪場の拡充」が最も多かった。

【オープンカフェ&マルシェ会場、あしりべつ神社祭り会場共通】

清田区役所周辺のにぎわいのためには、どのような機能や取組があればいいと思いますか。（自由記載）

●イベントについて

- ・マルシェや音楽イベントなど定期的開催される事を希望
- ・飲食イベントが増えると来たいと思う
- ・子どもが遊べる物があると行く機会が増える
- ・フリーマーケットやハンドメイドのイベント

●PRについて

- ・SNSで告知する
- ・チラシなどで情報が欲しい

●ゆっくりくつろげる空間

- ・ゆっくり座って飲食できるスペースがあると良い
- ・広場は芝生になるといい
- ・カフェなどがある
- ・イスとテーブルを増やしたり、日除けのあるテントなど

●交通手段

- ・地下鉄が来て欲しい
- ・地下鉄があれば他の区からも人が来ると思う
- ・イベント時のシャトルバスの運行

## 5) キッチンカー出店者の意向（実施後アンケート）

### ①参加満足度について

- ・全体的に満足度は高かった。

### ②期間中の売上について

- ・想定より売上があった、想定どおりという回答が多かったが、想定より少なかったという回答もあった。

### ③次回以降の参加について

- ・全店舗が参加したいと回答した。

※今回と同様の出店形式（出店料なし、電源等持ち込み）の場合

### ④出店料について

- ・売上の10%程度（1,000～3,000円程度）が妥当という回答が多かった。

### ⑤出店場所（市民交流広場）について

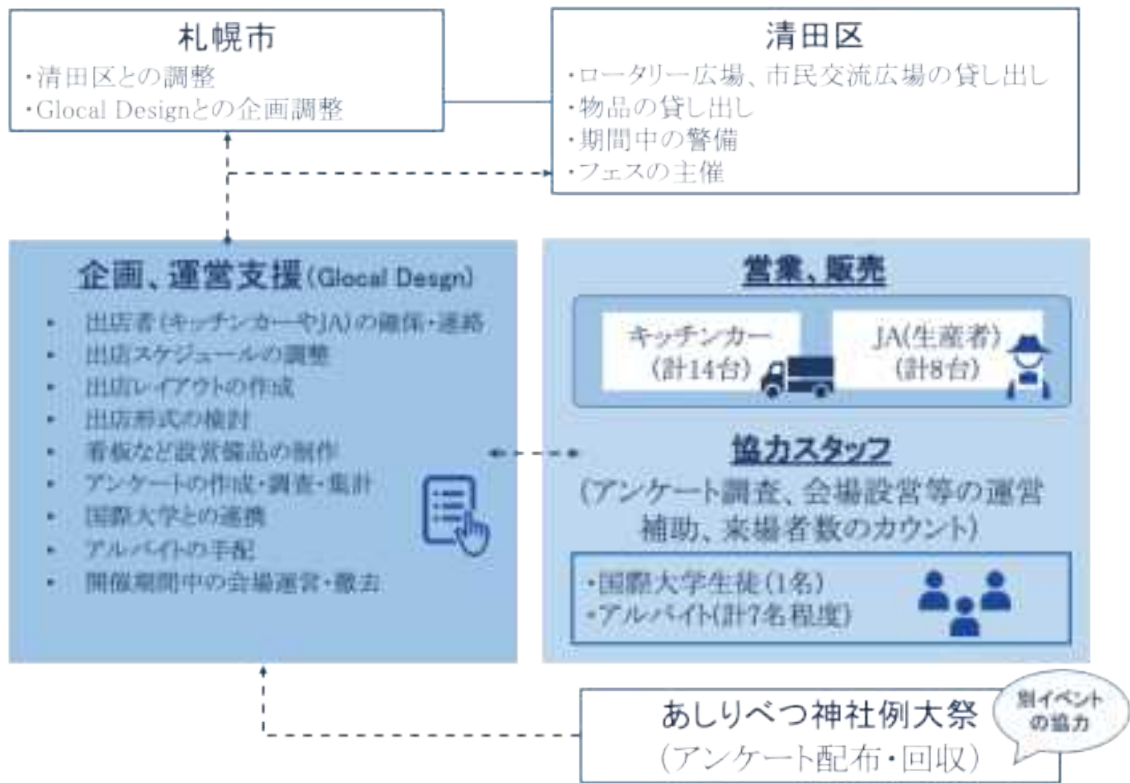
- ・魅力的であるという回答が多かった。
- ・自由に活用できるのではあれば魅力を感じる、せっかくの広場なので活用の可能性があるのではないか、などの回答があった。

### ⑥その他（自由記載）

- ・マルシェとキッチンカーが離れていると、一体感が感じられずもったいない。
- ・店によりターゲットとなる人や時間帯が異なるので、ある程度絞った短い時間で営業できるような仕組みがあると非常に魅力的である。
- ・SNS等で開催の周知をしてくれる人がいると良い。
- ・音楽を流せる環境があると居心地がよくなる。



## 6) 実施体制



## 7) 概算コスト

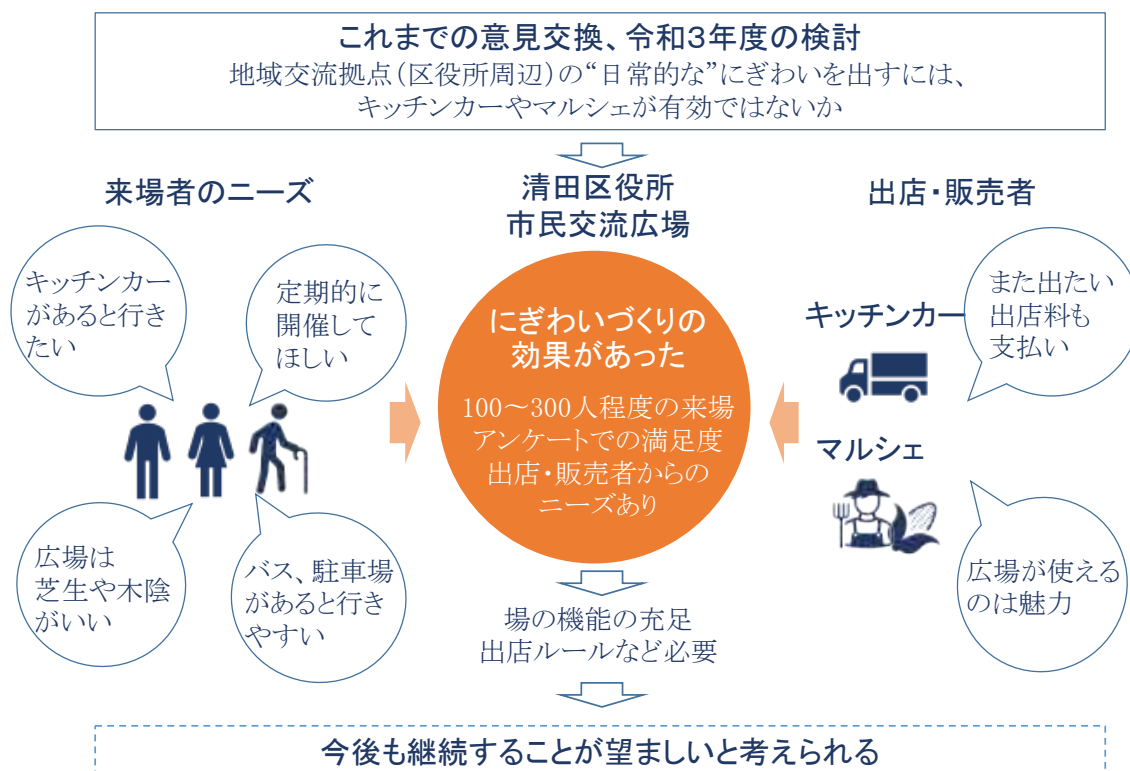
主な内訳	金額
①備品関係 ・看板制作、レンタル品(テーブル4台・イス 16脚) ・移動運搬・輸送、その他雑費	約 20 万円
②人件費(9日間の実施期間中) ・車両誘導、現地での運営・管理調整(3名/日) ・設営・撤去、アンケート調査、来場者カウント(3名/日)	約 60 万円
③広場利用料 ・約 8,000 円/日	約 8 万円
	※今回は実証実験のため、計上無し
計	約 80 万円～

※その他に実施計画やキッチンカー・生産者との調整などの人件費が必要となる

## 8) 検証内容の評価

市民交流広場において、オープンカフェやキッチンカー、農産物マルシェなどのコンテンツを展開することで「恒常的なにぎわい」づくりの効果があつたといえる。

ハード面や運営に関するマネジメント面の機能充足、出店・販売者に関わるルール等の充足は今後も必要であるが、公共空間を活用したにぎわいづくりは今後も継続することが望ましいと考えられる。



## (2) きよっち探検隊の実施

### 1) 実施概要

- テーマ：清田の歴史や自然をクイズ!?!体験!?!でマスターするまち歩き探検
- 開催目的：
  - 清田を好きになってもらう(愛着・誇り)
  - 学びながら歩いて、区役所～区民センター間の空間的つながりも感じてもらう
- 実施時期：2022年10月15日(土) 10時～14時
- 開催場所：清田区役所～清田区民センター、あしりべつ郷土館、清田公園
- 対象者：清田区内の小学生(100名)
- 関係・協力団体
  - あしりべつ郷土館、清田区スポーツ推進委員会、清田区青少年育成委員会連絡協議会、清田区内の児童会館、札幌国際大学学生、札幌市子ども会育成連合会清田区支部
- 検証内容：
  - ①団体との連携と継続性
    - 区内で活躍する団体や個人と連携した企画・実施
  - ②歩きたくなる要素
    - 区役所～区民センターまでまち歩き
    - 清田区ゆかりの地を巡るコース設定
  - ③区役所周辺への移動手段
    - 子ども達の帰宅送迎用バス

### ●開催概要及びまち歩きルート

- ・区役所～あしりべつ郷土館までのまち歩き
- ・地域交流拠点清田周辺の歴史・自然を物語る資源や場所を歩く(クイズを出しながら学ぶ)
- ・清田公園で遊びの時間
- ・帰宅はバス1台を用意して、児童会館で降車できる
- ・子ども達に満足度などを聞くアンケート、引率者に歩きやすさや移動手段などについてヒアリング



2) 当日の様子



開会式



まち歩きスタート



チェックポイントでのクイズ出題



あしりべつ郷土館での映像鑑賞



あしりべつ郷土館での解説・体験



アンケート記入



清田公園での遊びの時間



集合写真



### 3) 参加者数

きよっち探検隊の参加者は、広報さっぽろで募集した一般参加のほか、清田区内の児童会館の協力による参加があった。

参加者数は以下のとおりである。

参加者数：計 93 名

- ・ 一般参加：13 名
- ・ 児童会館からの参加：80 名

### 4) アンケート調査結果

当日参加した子ども達を対象にアンケート調査を行った。

#### ①実施概要

実施期間：2022 年 10 月 15 日(土)

回収数：93 (参加数と同数)



アンケート調査の様子



②設問内容

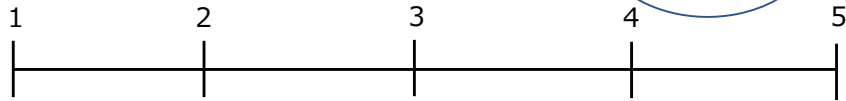
10月

たんけんたい  
きよっち探検隊アンケート

参加してくれたみなさん、今日はありがとうございました。  
さいごにみんなの感想をきかせてください！

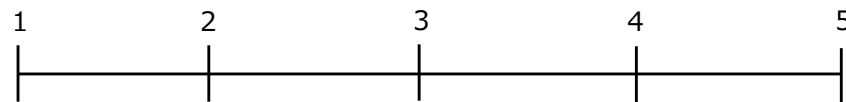
数字に0をつ  
けてね！

問1. 今日のイベントは楽しかったですか？



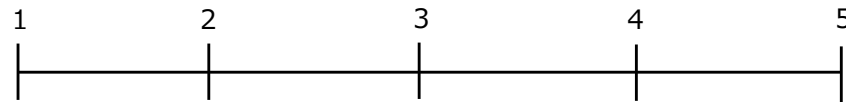
たのしなかった あまりたのしなかった ふつう けっこうたのしかった たのしかった

問2. 清田区の歴史や自然のことがわかりましたか？



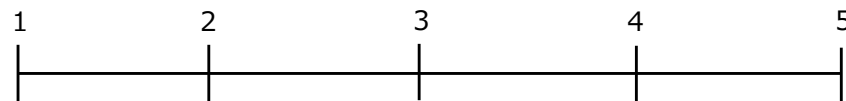
わからなかった あまりわからなかった すこしわかった けっこうわかった わかった

問3. 清田区のことを好きになりましたか？



ならなかった あまりならなかった ふつう すこし好きになった なった

問4. またきよっち探検隊をやってほしいですか？



やってほしくない あまりやってほしくない どちらでもいい やってほしい ぜひやってほしい

きょうりょく  
ご協力ありがとうございました。

きよっち探検隊に参加した子ども達向けのアンケート調査票

### ③結果の概要

参加した子ども達の満足度は高く、今後の継続を希望する声が多い結果となった。

### ④設問ごとの回答結果

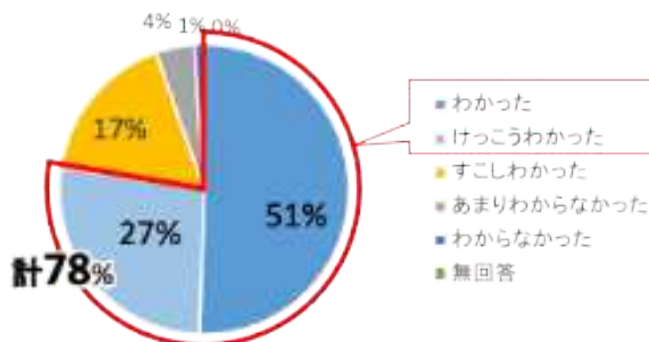
問1：今日は楽しかったですか？

「たのしかった」と「けっこうたのしかった」を合わせると97%であり、きよっち探検隊に対する満足度は高いといえる。



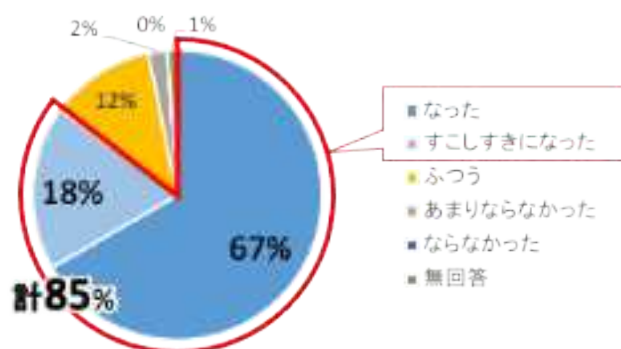
問2：清田の歴史や自然のことがわかりましたか？

「わかった」と「けっこうわかった」を合わせると78%であり、きよっち探検隊というまち歩きコンテンツの展開で、清田の歴史や自然の大切に対する子ども達の理解度が深まったといえる。



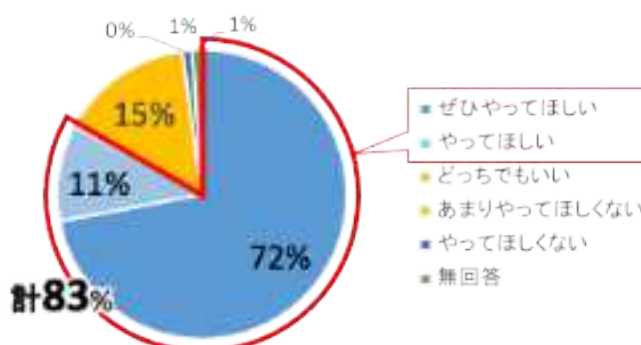
問3：清田のことが好きになりましたか？

「すきになった」と「すこしすきになった」を合わせると85%となり、きよっち探検隊というまち歩きコンテンツの展開で、清田区役所周辺や区民センター界隈への子ども達の愛着度が高まったといえる。



問4：また「きよっち探検隊」を行なってほしいですか？

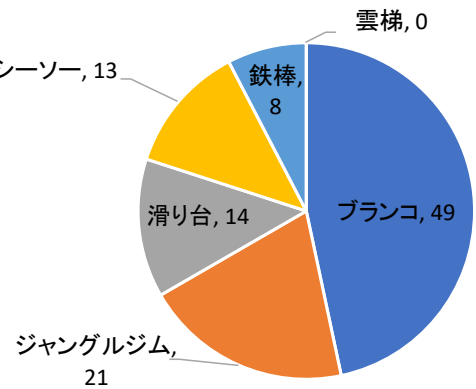
「ぜひやってほしい」と「やってほしい」を合わせると83%となり、子ども達のニーズが高いため、今後もきよっち探検隊を継続していくことが望ましいといえる。



問5：清田公園にほしい遊具はありますか？

ブランコ、ジャングルジム、滑り台、シーソー、鉄棒シーソー、13  
という順が多かった。

その他にはターザンロープ、砂場、噴水、トイレ、  
公園を大きくしてほしい、宝探しイベントの開催をし  
てほしいという回答があった。



5) 引率者、保護者（一般参加）へのヒアリング

①バスの運行によるイベントへの参加のしやすさ

- ・「参加しやすくなる」という回答があった。
- ・自家用車がある世帯では「わからない」という回答であった。

②バスの有料化とその利用料金

- ・「有料でも利用したい」という回答があり、利用料金は200～300円程度であった。

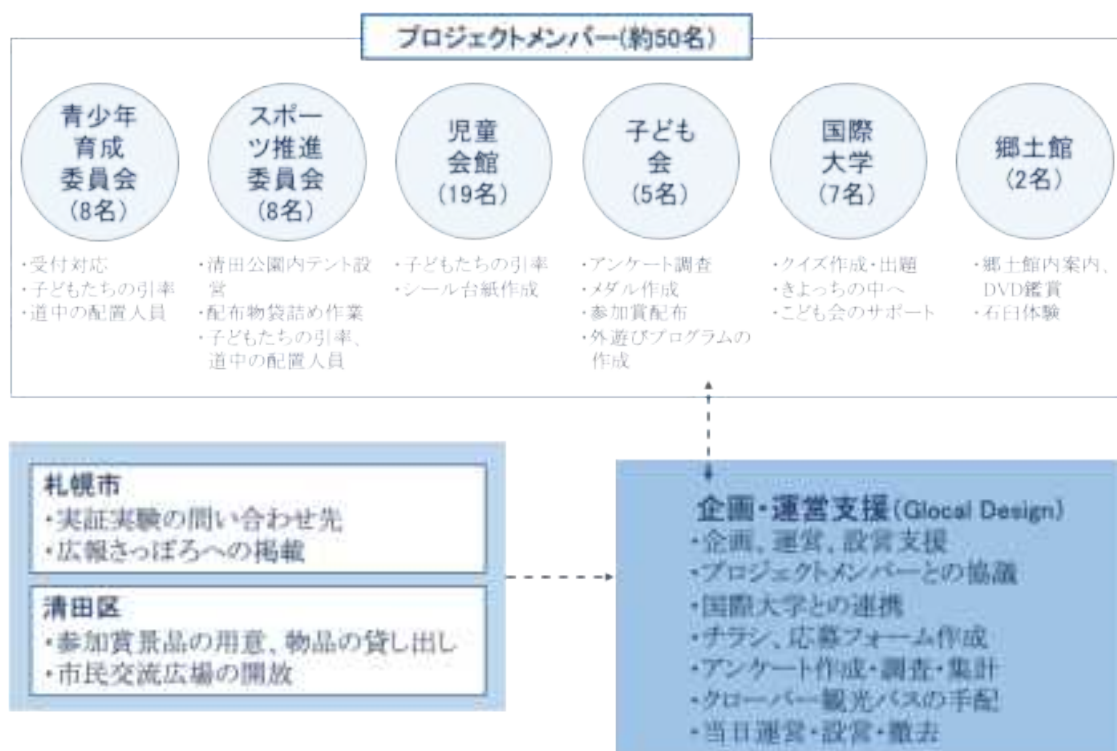
③今後のまち歩きイベントの開催ニーズ

- ・「開催してほしい」という回答があった。

④その他（自由記載）

- ・歩いたり、遊ぶことができ楽しめていた。
- ・自分の住んでいる地域の歴史を学ぶ事ができ、楽しかったようだ。
- ・豊平区の小学校に通っているので清田区の歴史に触れられて良かった。
- ・また、来年も開催されたら子どもを参加させたい。

## 6) 実施体制



## 7) 概算コスト

主な内訳	金額
<b>①備品関係</b> ・告知体の制作～広報、テント・イス等の運搬 ・クイズ作成、参加賞景品の用意、その他雑費	約 5 万円
<b>②人件費</b> ・受付、子ども達の引率、道中の安全管理 ・歴史解説・体験、アンケート調査、遊びプログラム ・設営・撤去	約 40 万円
<b>③バス運行料</b> ・50 人乗車1台(約 45,000 円)	約 6 万円
<b>③広場利用料</b> ・市民交流広場(約 8,000 円/日) ・区民センター会議室(約 8,000 円/日)	
<b>計</b>	約 50 万円～

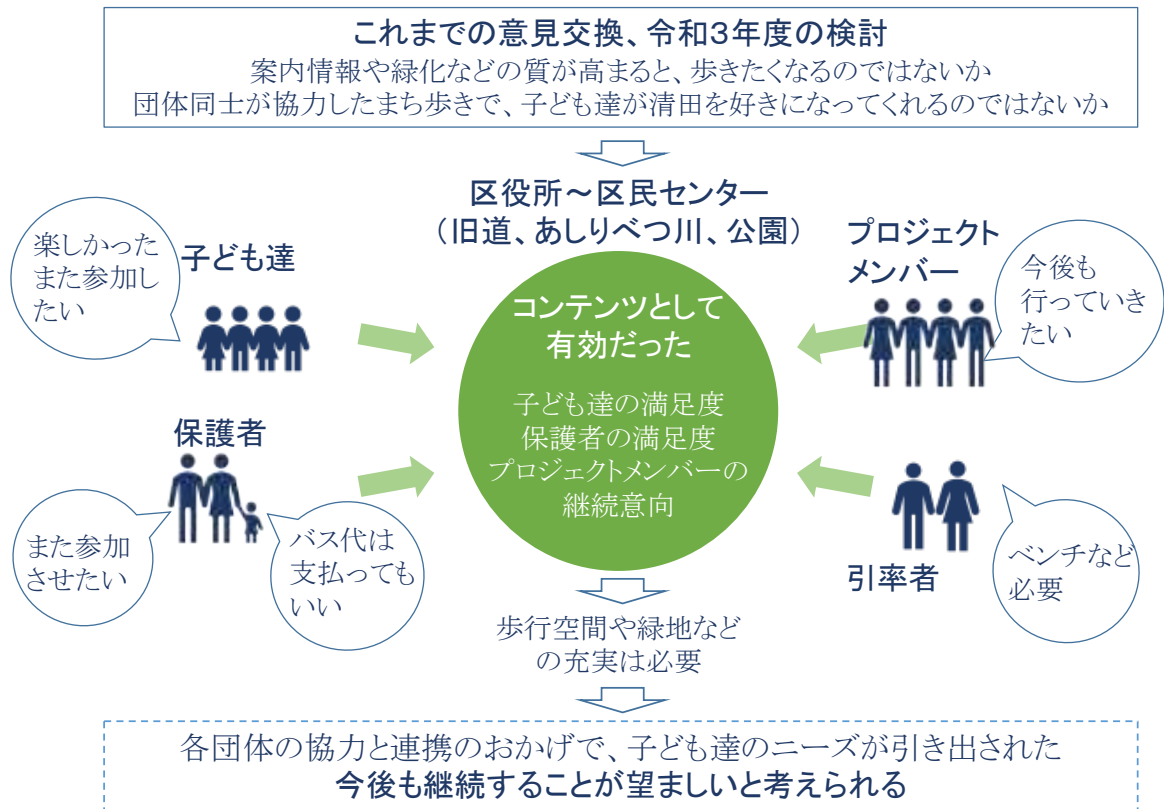
※その他に実施計画やプロジェクト企画会議（5～6回）の実施、各協力団体の企画準備（外遊びプログラム、石臼体験など）などの人件費が必要となる

## 8) 検証内容の評価

きよっち探検隊では地域の各団体と連携して、区役所から区民センターまでのまち歩きコンテンツが展開され、「つながり」づくりの効果があつたといえる。

歩きやすさや歩きたくなる歩行空間を充実させていくためには、歩行空間の緑化やベンチ等の設置、サインの整備などが必要であることも引率者や参加者から確認された。

参加者の満足度が高く、プロジェクトチームのメンバーは次年度以降も実施する意向があるため、新たなルート設定をしながらまち歩きコンテンツを継続することが望ましいと考えられる。



### (3) きよた灯りカフェの実施

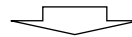
#### 1) 実施概要

##### ●企画実施までの経緯：

秋の実証実験  
オープンカフェ&マルシェ  
市民交流広場におけるオープンカフェ等により日常的な「にぎわい」づくりの効果があつた  
きよっち探検隊  
地域の団体の協力で「つながり」をつくるイベント的活用ができた



第3回きよた暮らしラボの主な意見  
・冬期の市民交流広場の活用には、スノー・アイスクャンドルが良いのではないか  
・清田区役所がにぎわいの中心であるため、冬期であることも含めて屋内も活用してはどうか



##### ●開催目的：

区役所の屋外空間と屋内空間を活用して、日常的な利用や滞在の促進を検証

1/28（土）に西友清田店で開催された「まちの灯り in きよた」からの流れをつなぐ

##### ●実施時期：2023年2月4日（土） 10時～19時

##### ●開催場所：清田区役所（屋内）、市民交流広場（屋外）、あしりべつ神社（屋外）

##### ●主な対象：清田区民の方々

##### ●検証内容：

###### ①地域の団体との連携の可能性

→市民交流広場とあしりべつ神社でのキャンドルづくり体験・点灯

→地域の各団体などが協力しながら実施

###### ②屋内・屋外空間の活用と滞在の可能性

→区役所内でのカフェ・物販&休憩コーナーの仮設設置、コンサートの実施

→ロータリーでのキッチンカー出店





配置図

	市民交流広場・あしりべつ神社	清田区役所(1階、3階)
10:00	・スノーキャンドルづくり開始	・あしりべつ郷土館パネル展・DVD視聴(1階)
11:00		・キッチンカー、カフェスペース(1階)、きよっち食堂(3階)開店 ・子どもが遊べるコーナー(3階) 
12:00	・スノーキャンドルづくり終了	
14:00		・歌声広場 ミニコンサート♪(1階)
15:00		
16:00	・スノーキャンドル点灯	
17:00		・キッチンカー、カフェ、きよっち食堂 閉店
19:00	・スノーキャンドル消灯	

プログラム

2) 当日の様子



スノーキャンドルづくり（市民交流広場）



キッチンカー（区役所ロータリー）



音楽コンサート（区役所1階ロビー）



カフェスペース（区役所1階ロビー）



スノーキャンドル点灯（市民交流広場）



スノーキャンドル点灯（市民交流広場）



スノーキャンドル点灯（あしりべつ神社）

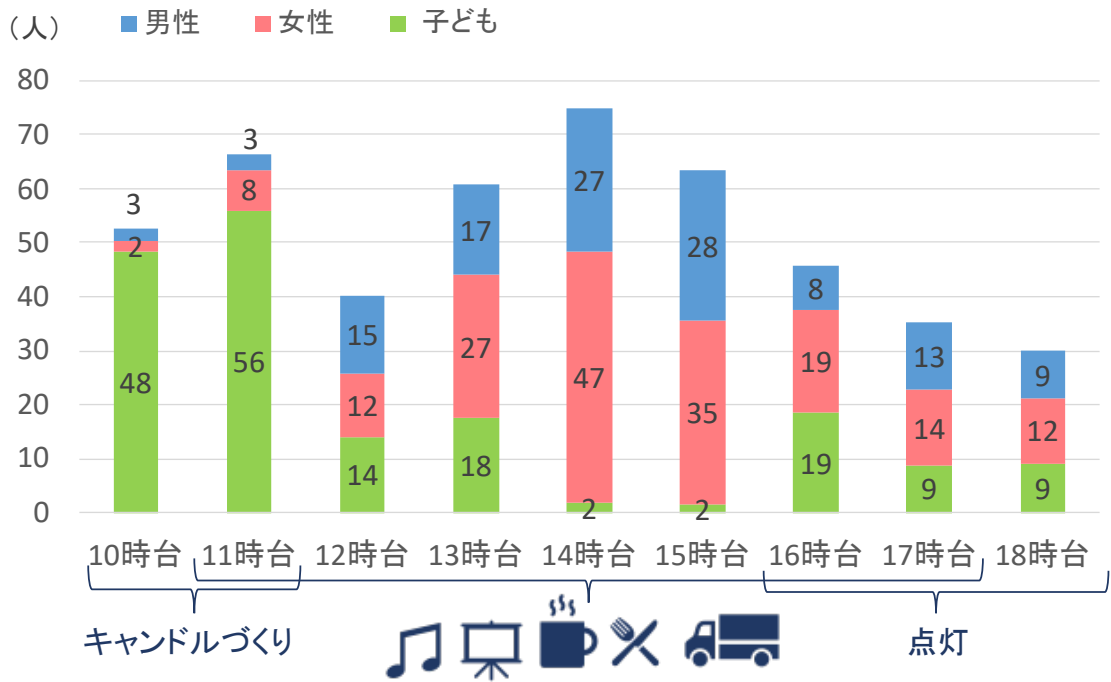


スノーキャンドル点灯（あしりべつ神社）

### 3) 滞在者数

きよた灯りカフェでは、各地点で20分ごとに滞在者数をカウントした。

屋内外あわせて常時40～70名の滞在者がいたことから、屋内・屋外空間を活用した冬ならではの取組により、人が滞在する状況をつくり出せたといえる。

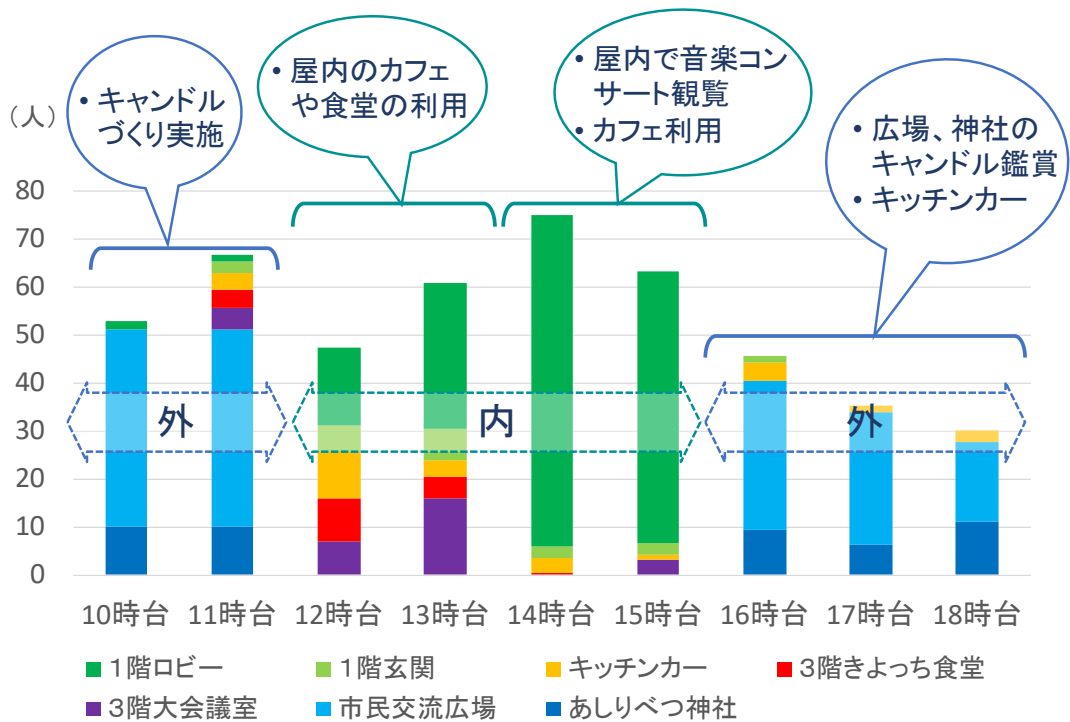


時間帯別の平均滞在者数（全地点）

午前中はスノーキャンドルづくりに48名の子どもが参加した。

12時から15時は清田区役所内の音楽コンサート観覧やカフェスペース利用などにより、大人の滞在者数が多かった。

スノーキャンドルが点灯された夕方から夜はキャンドルづくりに参加した子どもが家族と一緒に滞在していた。



時間帯別の平均滞在者数（各地点）

12時から13時は昼食を取るために1階ロビー・玄関（カフェスペース）やキッチンカー、3階きよっち食堂・大会議室（休憩スペース）における滞在者が多かった。

14時から夕方は1階ロビーで実施された音楽コンサート観覧による滞在者がほとんどを占めていた。

夕方から夜はスノーキャンドル点灯を鑑賞するために市民交流広場とあしりべつ神社における滞在者が多かった。



#### 4) アンケート調査

清田区役所屋内及び市民交流広場への来場者を対象にアンケート調査を行った。また、スノーキャンドルづくりに参加した子ども達にも、当日プログラムの満足度を把握するためのアンケートを行った。

##### ①実施概要

実施期間：2023年2月4日（土）

来場者向けアンケート回収数：紙 13、WEB 8

子ども向けアンケート回収数：46



アンケート調査の様子

②設問内容

2023年2月4日(土)

「Fun!Fan!KIYOTA きよた灯りカフェ」に関するアンケート

このアンケートは「Fun!Fan!KIYOTA きよた灯りカフェ」にお越しいただいた皆様にお配りしております。アンケートの結果は今後の取組の参考とさせていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

問1. あなたの性別をお答えください。

1. 男性                      2. 女性                      3. その他

問2. あなたの年齢をお答えください。

1. 19歳以下              2. 20歳代                      3. 30歳代  
4. 40歳代                      5. 50歳代                      6. 60歳以上

問3. あなたのお住まいの地域をお答えください。

1. 清田区（以下の当てはまる地域に○を付けてください）  
〔 有明              美しが丘      北野      清田              里塚 〕  
〔 里塚緑ヶ岡      真栄              平岡      平岡公園東 〕  
2. 清田区外（                      ）

問4. どなたと一緒にお越しになりましたか。（複数回答可）

1. 友人                                      2. 職場の同僚  
3. 家族                                      4. 恋人  
5. ひとり                                      6. その他（                      ）

問5. 当イベントを何で知りましたか？（複数回答可）

1. 広報さっぽろ                      2. 清田区・札幌市ホームページ  
3. 清田区 SNS                              4. キッチンカーの SNS  
5. 清田区内のお店                      6. 町内会の回覧  
7. 児童会館からのお知らせ              8. 口コミ(家族、知り合い、友人など)  
9. 現地で知った                              10. その他（                      ）

問6. どのような目的でお越しになりましたか？（複数回答可）

1. 当イベントへの参加                      2. 周辺の他イベントへの参加  
3. 周辺施設での買い物・食事              4. 散歩・休憩  
5. 仕事・商用                                      6. その他（                      ）

裏面に続きます。

来場者向けアンケート調査票 (1/2)



問7. どの交通手段でお越しになりましたか？

1. 自動車・バイク      2. バス      3. タクシー  
4. 自転車      5. 徒歩

問8. 清田区役所周辺へ来るためにどのような機能があるといいですか。(複数回答可)

1. バス路線の拡充      2. バス便数の増加  
3. 駐車場・駐輪場の拡充      4. その他 (                      )

問9. 「きよた灯りカフェ」の満足度を教えてください。

1. とてもよかった      2. まあまあよかった  
3. あまりよくなかった      4. よくなかった      5. わからない

問10. どのような利用をされましたか。(複数回答可)

1. キャンドルづくり      2. キャンドル鑑賞  
3. キッチンカー      4. 1階 カフェスペース  
5. 1階 音楽、映像鑑賞      6. 3階 きよっち食堂  
7. 3階 遊びコーナー

問11. 「きよた灯りカフェ」にどのくらい滞在しましたか。また、このようなイベントがあると滞在時間は変化すると思いますか。

滞在時間 (      時間      分 )

1. 長くなる      2. 変わらない      3. その他 (                      )

問12. 清田区役所周辺のにぎわいのためには、『屋内』や『屋外』でどのような機能や取組があればいいと思いますか。下記枠内にそれぞれご記入ください。(自由記載)

●屋内

例：カフェで飲食ができる。コワーキングや勉強ができる。WiFiを完備し利用できる。料理教室や体操などのイベントが定期的に開催されている。など

●屋外

例：芝生の広場がある。キッチンカーやカフェなどで飲食ができる。音楽やマルシェなどのイベントが定期的に開催されている。など

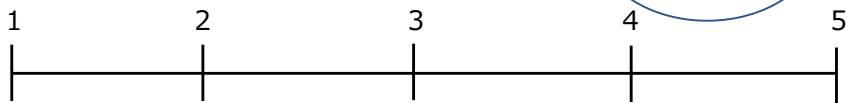
ご協力ありがとうございました。

## あかり きよた灯りカフェアンケート

参加してくれたみなさん、今日はありがとうございました。  
さいごにみんなの感想をかかせてください！

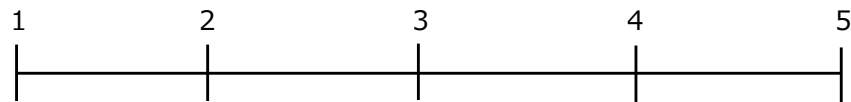
数字に○をつ  
けてね！

問1. 今日のイベントは楽しかったですか？



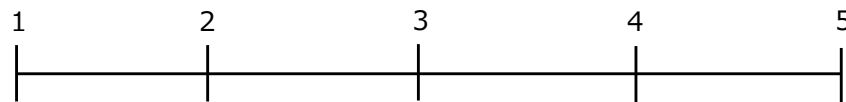
たのしくなかった    あまりたのしくなかった    ふつう    けっこうたのしかった    たのしかった

問2. 清田区のことを好きになりましたか？



ならなかった    あまりならなかった    ふつう    すこし好きになった    なった

問3. また「きよた灯りカフェ」をやってほしいですか？

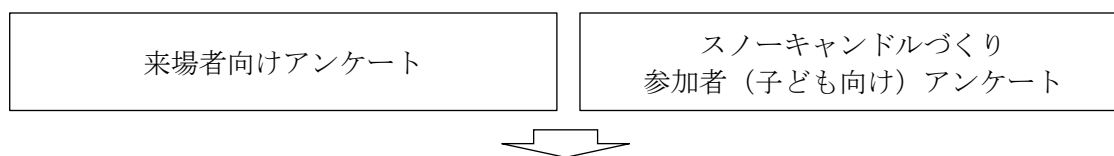


やってほしくない    あまりやってほしくない    どちらでもいい    やってほしい    ぜひやってほしい

問4. その他、感想など自由にかいてください！

ご協力ありがとうございました。

### ③結果の概要



#### ●きよた灯りカフェの満足度は高い

全世代で満足度は高い。

スノーキャンドルづくりに参加した子ども達の満足度も高い。

各コンテンツの参加者やカフェ・食堂の利用者は定期的な開催を望んでいる。

#### ●カフェスペース（飲食や休憩）があると滞在につながる

きよた灯りカフェの滞在時間は1～3時間が多く、カフェスペースなどで休憩・滞留できる機能があることで、滞在が長くなるという回答があった。

飲食・カフェやスタディールームの機能が必要との回答があった。

屋内外の各コンテンツに合わせた休憩や滞留の機能の充実が考えられる。

#### ●広場には、心地よく過ごすことができる空間整備が必要

日常的に人がいて、より長く過ごしてもらうためには、天候に左右されず快適に休憩できるスペースの整備やイベントの実施などが望まれており、心地良く安全に過ごせる空間づくりが望ましいと考えられる。

心地よい環境に合わせて、キッチンカーが定期的に出店することも望まれている。

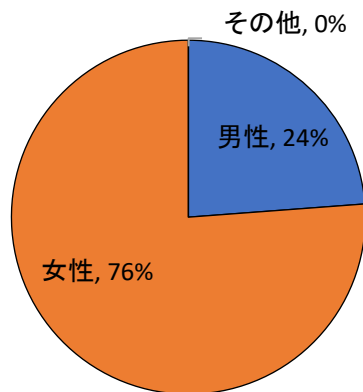
#### ●地域交流拠点清田の機能向上には交通機能の充実も必要

清田区役所周辺へ行くために必要な機能としては、バス路線の拡充や便数の増加、駐車場・駐輪場の拡充が挙げられた。

④設問ごとの回答結果

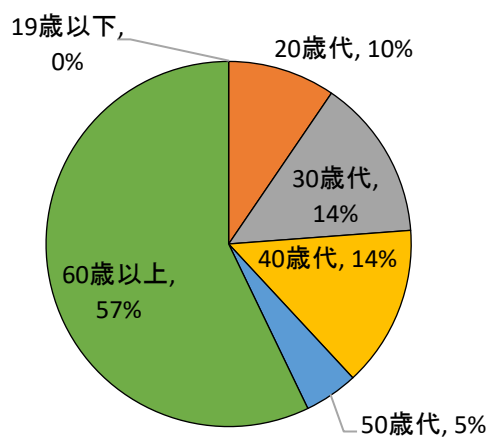
【来場者向けアンケート】

問1：あなたの性別をお答えください。



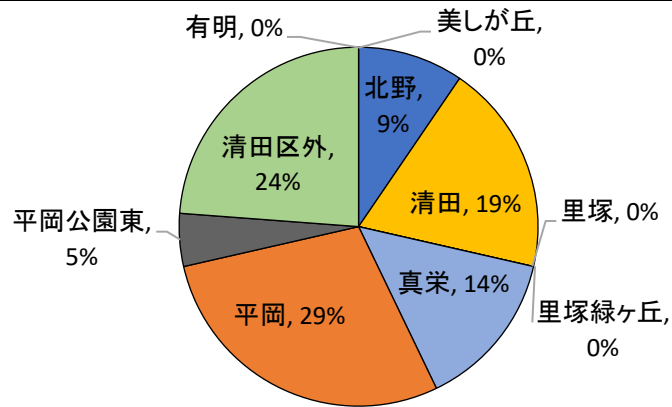
「男性」が約2割、「女性」が約8割という結果だった。

問2：あなたの年齢をお答えください。



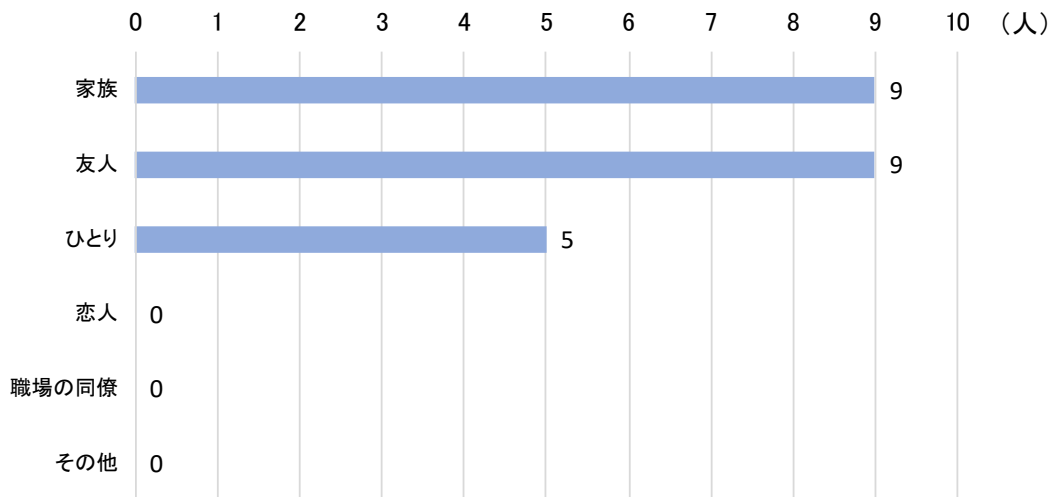
「60歳以上」が約6割と最も多く、次いで「40歳代」「30歳代」が多かった。

問3：あなたのお住まいの地域をお答えください。



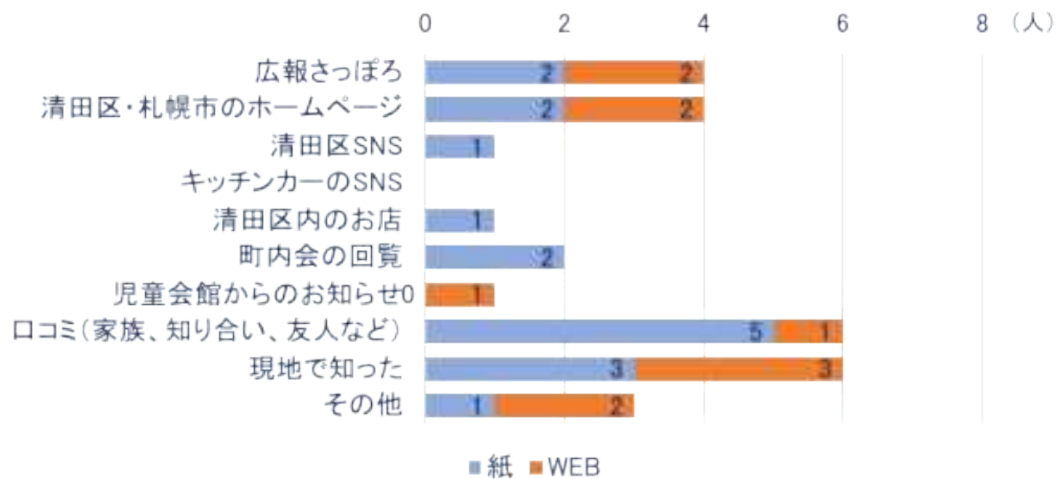
「清田区」が約8割で、そのうち「平岡」「清田」「真栄」が多かった。

問4：どなたと一緒に過ごしになりましたか。（複数回答可）



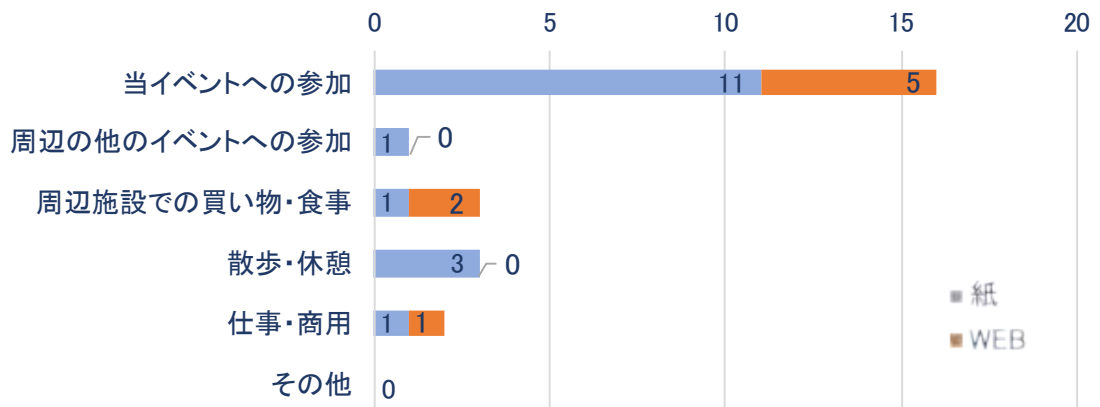
「家族」と「友人」が最も多かった。

問5：当イベントを何で知りましたか。（複数回答可）



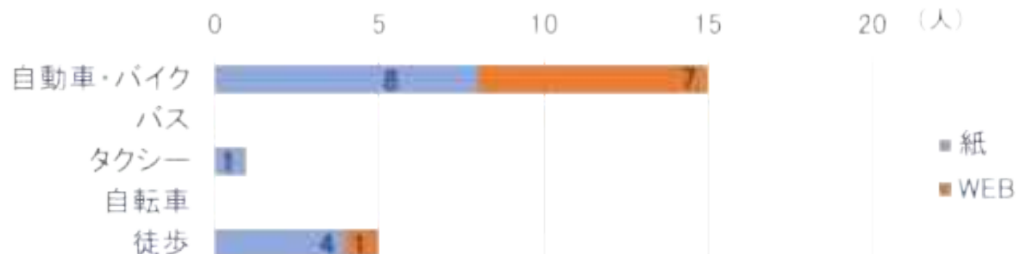
「口コミ」と「現地で知った」が最も多く、紙の回答では「口コミ」、WEBの回答では「現地で知った」が多かった。

問6：どのような目的でお越しになりましたか。（複数回答可）



紙とWEBのどちらの回答でも「当イベントへの参加」が最も多かった。

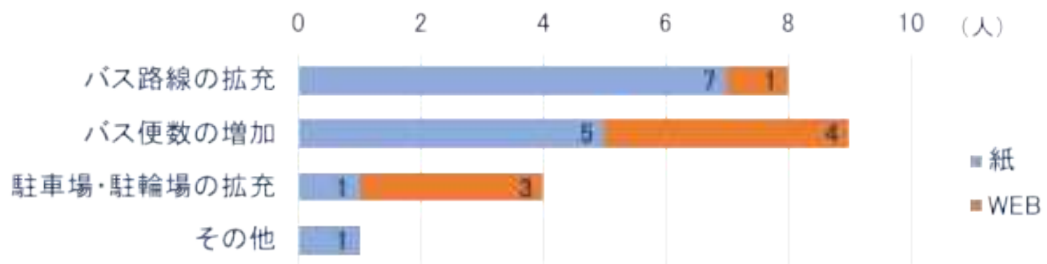
問7：どの交通手段でお越しになりましたか。



紙とWEBのどちらの回答でも「自動車・バイク」が最も多かった。

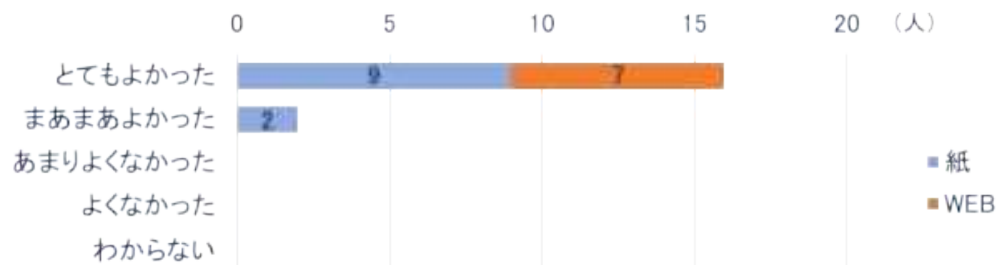


問8：清田区役所周辺へ来るためにどのような機能があるといいですか。（複数回答可）



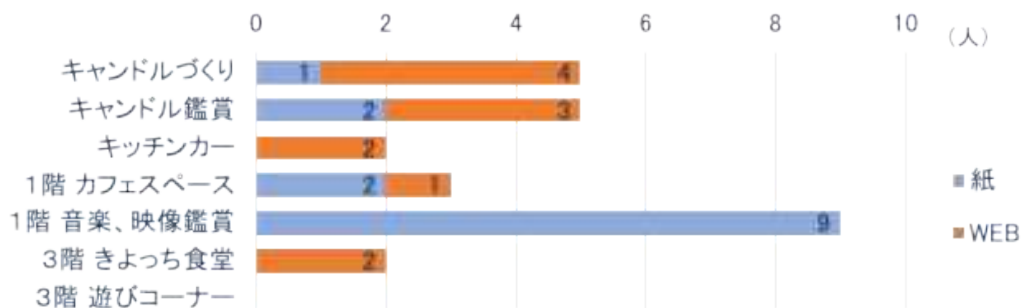
紙の回答では「バス路線の拡充」と「バス便数の増加」、WEBの回答では「バス便数の増加」と「駐車場・駐輪場の拡充」が多かった。

問9：きよた灯りカフェの満足度



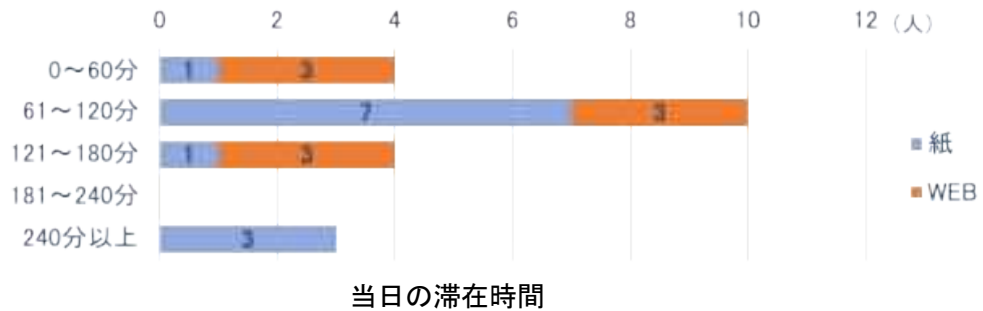
紙とWEBのどちらの回答でも満足度は高かった。

問10：どのような利用をされましたか？（複数回答可）

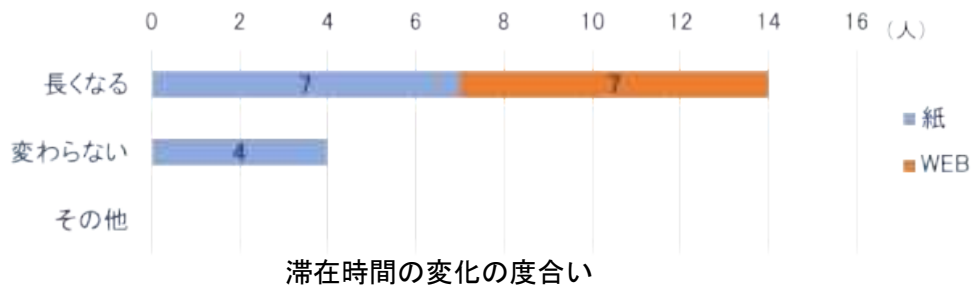


紙の回答では「1階 音楽、映像鑑賞」、WEBの回答では「キャンドルづくり」や「キャンドル鑑賞」が多かった。

問 11：きよた灯りカフェにどのくらい滞在していましたか？また、このようなイベントがあると滞在時間は変化すると思いますか？



紙とWEBのどちらの回答でも「61～120分」が最も多く、WEBの回答では「0～60分」と「121～180分」も多かった。



紙とWEBのどちらの回答でも「長くなる」が最も多いが、紙の回答では「変わらない」という回答もあった。

問 12：清田区役所周辺のにぎわいのためには、屋内や屋外でどのような機能や取り組みがあればいいと思いますか？（自由記載）

●屋内

- ・健康のため、体操教室はもう少し増やしてほしい
- ・カフェなどで飲食ができるスペース
- ・体操や子どもが遊べるイベント
- ・スタディスペースがある
- ・子どもへの読み聞かせスペース
- ・乳幼児向けのイベント頻度の増加

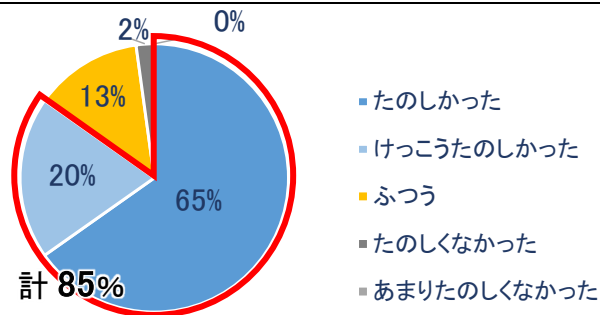
●屋外

- ・四季問わず休憩できる場所
- ・音楽のコンサート
- ・お祭り、キッチンカー、マルシェ
- ・テント
- ・乳幼児の安全に遊べるスペースがある、お祭り

【スノーキャンドルづくり参加者（子ども向け）アンケート】

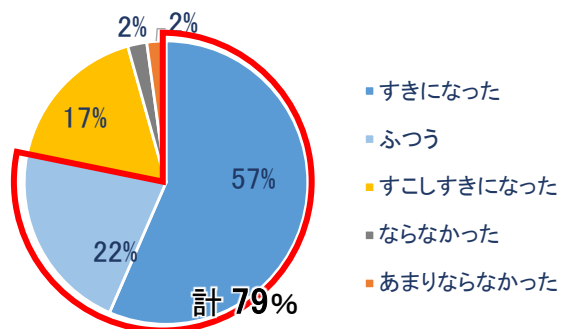
問1：今日のイベントは楽しかったですか？

「たのしかった」と「けっこうたのしかった」を合わせると85%であり、スノーキャンドルづくりに対する満足度は高いといえる。



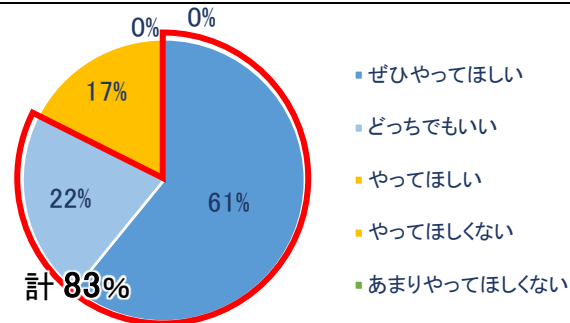
問2：清田区のことを好きになりましたか？

「すきになった」と「すこしすきになった」を合わせると74%であり、きよた灯りカフェの実施で、清田区役所周辺に対する子ども達の愛着度が高まったといえる。



問3：また「きよた灯りカフェ」を行ってほしいですか？

「ぜひやってほしい」と「やってほしい」を合わせると78%であり、子ども達のニーズが高いため、今後もきよた灯りカフェを継続していくことが望ましいといえる。



問4：感想など自由記述（一部抜粋）

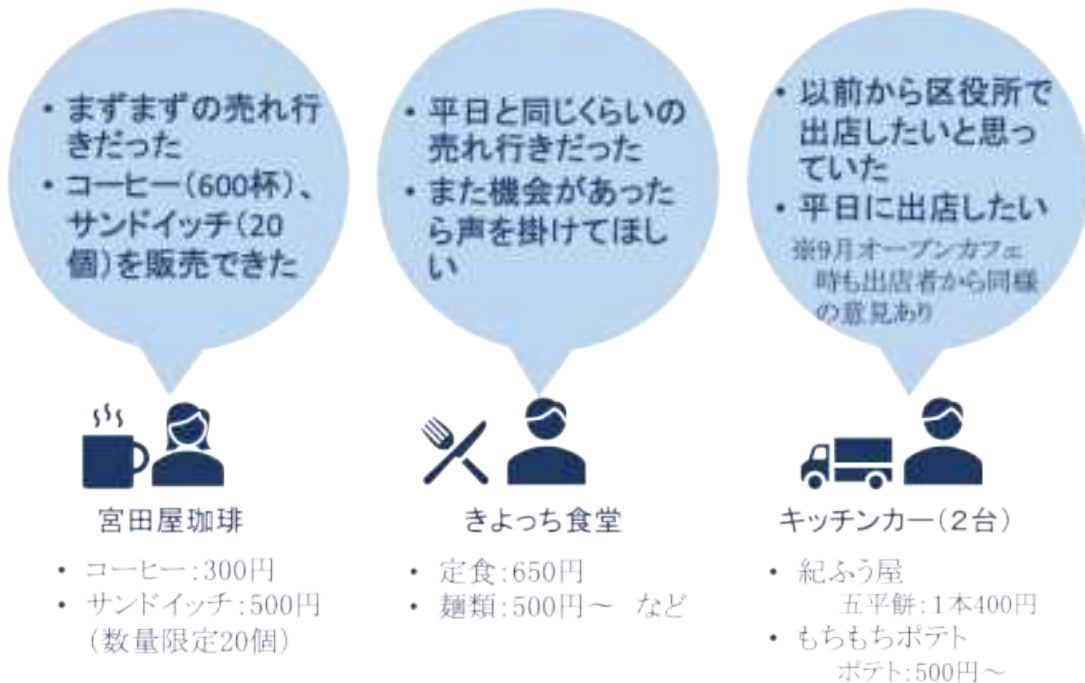
- ・今日はありがとうございました。また行きたいです。楽しかったです。
- ・キャンドルづくりがだんだんできるようになり嬉しかった。
- ・清田のことが好きになって、いつか行きたいなと思いました。
- ・来年もやってほしい。
- ・今日のイベントが1番楽しかった。

## 5) 出店者へのヒアリング

きよた灯りカフェの出店者である宮田屋珈琲やきよっち食堂（食堂運営事業者）、キッチンカー2店舗に対して、今回の売り上げ状況や今後の出店意向についてヒアリングを行った。

各出店者ともに、「まずまずの売れ行きがあった」「機会があれば今後も参加したい」という回答だった。

また、「市民交流広場を自由に活用したいが、全面積を使用することはない」「使用面積に合わせた出店料の徴収方式になると活用しやすい」という出店ルールに関する意見があった。



各出店者からの聞き取り情報

## 6) 企画運営及び協力スタッフ

- 清田区スポーツネット、町内会関係：40名  
キャンドルづくりの指導、キットの貸し出し  
市民交流広場のキャンドル配置、遊歩道、台座制作
- 清田地区商工振興会：1名  
アイスクャンドルの提供、広報の協力  
商工振興会加盟店舗の紹介
- あしりべつ郷土館：2名  
1階玄関・ロビーで音響・映像映写  
郷土館のパネル展示
- 清田区スポーツ推進委員会：8名  
あしりべつ神社会場にてキャンドルづくり、設置のサポート  
キャンドルの点灯サポート
- 清田区青少年育成委員会連絡協議会：15名（5地区から3名ずつ）  
市民交流広場会場にてキャンドルづくり、設置のサポート  
キャンドルの点灯サポート  
林氏にて音響・映像機材等、出演者調整の協力  
スタンプラリーのハンコ押し、きよっちグッズ引き換え
- 札幌市子ども会育成連合会清田区支部：3名予定  
大会議室の遊びコーナー運営  
きよっちグッズの袋詰めサポート
- あしりべつ神社：1名  
キャンドルづくり会場
- 神輿隊：5名程度  
あしりべつ神社会場にてキャンドルづくり、設置のサポート  
スタンプラリーのハンコ押し
- 大学生（国際大学、北星学園大学）：5～6名程度  
市民交流広場会場のキャンドル設置、点灯サポート  
スタンプラリーのハンコ押し、きよっちグッズ引き換え
- 株式会社パンジ（食堂運営事業者）  
3階食堂の臨時営業  
キッチンカー2台の調整
- 札幌市・清田区・事務局  
企画運営支援、広報支援、公共空間の使用許可  
来場者の人数カウント

7) 概算コスト

主な内訳	金額
<b>①備品関係</b> ・看板制作、レンタル品(テーブル4台・イス16脚) ・ローソク、告知媒体の制作～広報、景品の用意 ・音響・映像機器、設営、その他雑費 ※制作キットは町内会から借用、アイスクャンドルは商工振興会から提供いただいた	約10万円
<b>②人件費(40名)</b> ・除雪、キャンドル制作・台座整備、キャンドル配置 ・子ども達への指導、安全管理 ・来場者カウント、アンケート調査 ・設営・撤去	約40万円 ※今回はボランティア協力のため、計上無し
<b>③広場利用料</b> ・市民交流広場(約8,000円/日) ・屋内空間(過去、利用料金の徴収実績なし)	約2万円 ※今回は実証実験のため、計上無し
<b>計</b>	約50万円～

※その他に実施計画やプロジェクト会議(4～5回)、各協力団体の企画準備(広報協力、除雪、出演者手配、パネル等運搬、スタンプ制作、子ども達の遊び検討、食事メニュー検討など)などの人件費が必要となる

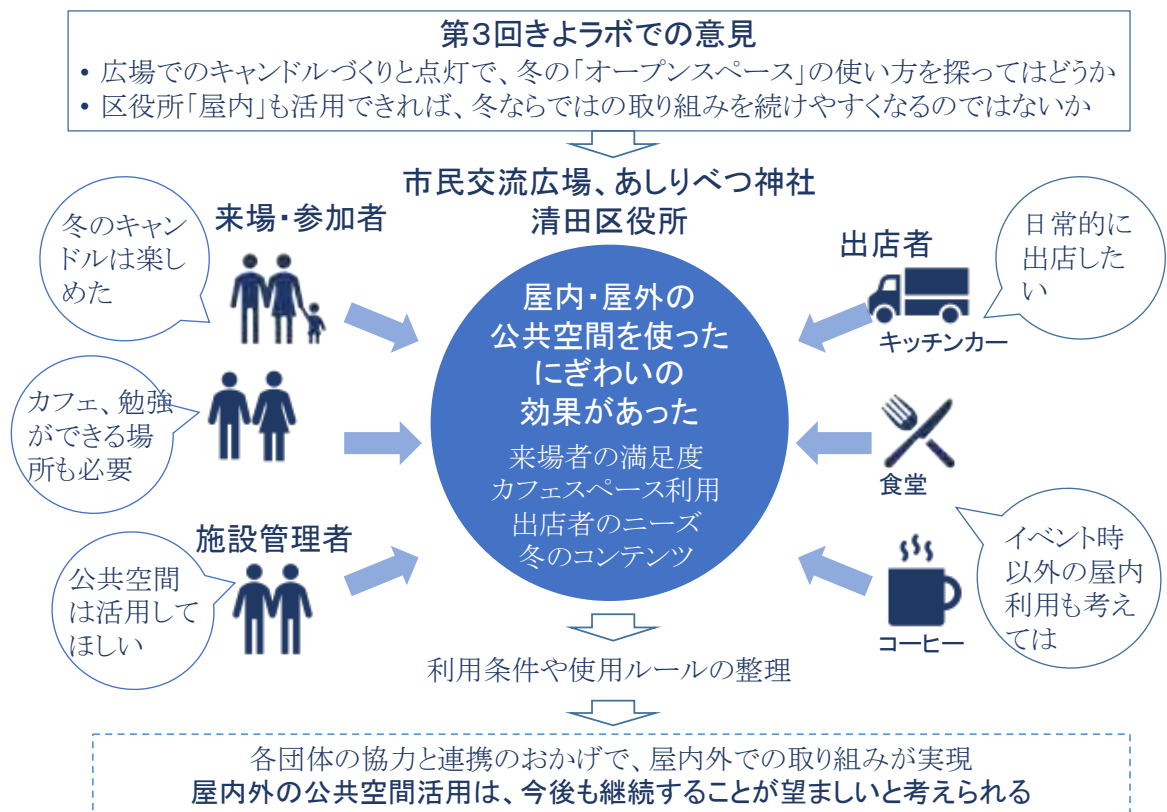


## 8) 検証内容の評価

清田区役所内と市民交流広場を活用したカフェスペースの設置やスノーキャンドルの点灯を行うことにより、冬期に「人々が集う場」づくりが実現できたといえる。

来場者やスノーキャンドルづくりに参加した子ども達の満足度が高く、プロジェクトチームのメンバーは次年度以降も実施する意向があった。

清田区役所内や市民交流広場の利用ルールの整理及び実施に向けた体制づくりは必要であるものの、屋内外の公共空間を活用した冬期における「恒常的なにぎわいづくり」は今後も継続することが望ましいと考えられる。



#### 4-4 実証実験における検証結果の機能向上案への反映

---

全3回実施した Fun! Fan! KIYOTA の検証結果を踏まえ、地域交流拠点清田の機能向上案へ反映する内容を整理する。

機能向上案への反映については、次ページ以降に3つの実証実験ごとに整理する。

実証実験	検証内容とコンテンツ	検証内容の評価	機能向上案への反映(地域交流拠点に求められる機能)
<p>オープンカフェ &amp;マルシェ</p>	<p>にぎわいづくりの実験</p> <p>検証内容とコンテンツ</p> <p>①オープンスペースでの行動創出の可能性 →オープンカフェの設置 →インフォメーションサインの設置</p> <p>②日常利用向上の可能性 →キッチンカーの出店 →マルシェ(地元農家の軽トラ市)の開催</p>	<p><b>&lt;総論&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「恒常的なにぎわい」創出の効果があるため、屋外の公共空間を活用した定期的なコンテンツの展開が有効</li> <li>●利用者の滞在延長を促す心地よい空間づくりや交通機能などを充足</li> <li>●公共空間を官民連携で日常的に活用するためのルールや仕組みの整備</li> </ul> <p><b>来場者の行動・滞在時間</b></p> <p>①恒常的なにぎわいづくりのコンテンツ ・市民交流広場を活用したコンテンツ実施により1日あたり100~300人の来場があった。 →「いつも何かやっている」「日常的に人がいる」状況をつくるコンテンツの定期的な展開</p> <p>②広場の滞在延長を促す空間整備 ・日差しが強く気温が高い時間帯は、庇の付いた既設ベンチを利用する来場者が多い。 ・日陰ができる時間帯は、仮設のテーブルとイスを利用する傾向にある。 ・イベントの滞在時間は16分~31分ほどが多い。滞在時間の延長には、日除けなどが望ましい。 →緑陰をつくる緑地帯、屋根や庇などの装置、テーブル・ベンチ・パラソルなどの休憩機能の導入</p> <p><b>来場者へのアンケート調査</b></p> <p>①にぎわいを生むコンテンツの満足度 ・全年代で飲食や音楽、マーケットなどの定期開催を望んでいる。 →市民交流広場を活用したにぎわいづくりの定期実施、ステージ機能などの導入</p> <p>②市民交流広場には、心地よく滞在できる機能が必要 ・広場の芝生化や緑地の整備、テーブル・ベンチ・テントなどの休憩施設を望む意見が多い。 ・子どもたちが遊べるスペースを望む意見も多い。 →芝生広場や緑地帯の整備、テーブル・ベンチ・パラソルなどの休憩機能の導入 →子どもが遊べるスペースや屋外の遊戯施設などの子育て支援施設の導入</p> <p>③コンテンツや対象に応じた「相互」の情報発信 ・60歳以上は現地や広報さっぽろ、30~40代は各キッチンカーのSNSで実証実験を知った人が多い。 →清田のまちの情報提供コーナーやデジタル技術の活用によるターゲットに応じた発信</p> <p>④地域交流拠点清田の機能向上には交通機能の充実も必要 ・バス路線の拡充や便数の増加、駐車場・駐輪場の拡充、その他に地下鉄などの意見が挙げられた。 →交通ネットワークの形成、駐輪・駐車場機能の導入</p>	<p><b>ハード</b></p> <p><b>【屋内】人が集まる交流機能〔区役所〕</b></p> <p>交流・滞留機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェスペース</li> <li>・コワーキングスペース</li> <li>・学習スペース</li> <li>・図書スペース</li> <li>・キッチンスペース</li> <li>・Wi-Fi</li> </ul> <p>情報発信機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清田のまちの情報提供コーナー</li> <li>・デジタル技術の活用</li> </ul> <p>子育て支援機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズルーム、遊戯施設</li> </ul> <p>飲食機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清田の食材を使った地産地消レストラン</li> </ul> <p>交通機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の待ち合い機能</li> <li>・交通ネットワークの形成</li> <li>・駐輪・駐車場</li> </ul> <p><b>【屋外】オープンスペース機能〔市民交流広場〕</b></p> <p>交流・滞留機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生広場</li> <li>・緑陰をつくる緑地帯</li> <li>・子どもが遊べるスペース</li> <li>・屋根や庇による半屋外空間</li> <li>・ステージ</li> <li>・物品保管スペース(テント、パラソルなど)</li> <li>・歩行や車両通行用の舗装路面</li> <li>・イベント用設備(電源、バナー設置など)</li> </ul> <p>休憩機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンチ、テーブル、テント、パラソル</li> </ul> <p>子育て支援機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊戯施設</li> </ul>
	<p>検証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者の行動・滞在時間の把握、来場者数のカウント</li> <li>・来場者へのアンケート調査</li> <li>・キッチンカー出店者へのアンケート調査</li> <li>・きよた暮らしラボでの検討</li> </ul>	<p><b>キッチンカー出店者の意向</b></p> <p>①期間中の売上と今後の出店意向 ・想定以上の売上があったという回答が多かった。 ・全出店者が次回の参加意向あり。※出展料なし、電源等持ち込みの出店形式の場合</p> <p>②出店料について ・売上の10%程度(1,000~3,000円程度)が妥当。</p> <p>③出店の仕方(ルールや仕組みづくり) ・市民交流広場を自由に活用できるのであれば魅力を感じる。 ・出店者ごとのターゲットや売り上げのピークタイムに応じた営業展開の仕組みが必要。 →公共空間を活用する際の出店ルールや仕組みの整備 →イベント実施を支える機能(物品保管、舗装路面、イベント用設備)の導入</p>	<p><b>ソフト</b></p> <p>市民交流広場を活用した「にぎわいづくり」コンテンツの定期的な展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンカフェ</li> <li>・キッチンカー</li> <li>・農産物マルシェ</li> </ul>
		<p><b>きよた暮らしラボでの検討</b></p> <p>①キッチンカーやマルシェは恒常的なにぎわいの効果があると評価 →「いつも何かやっている」「日常的に人がいる」状況をつくるコンテンツの定期的な展開</p> <p>②滞在を促すためにはハード面の整備も必要 →カフェや飲食、買い物、コワーキングスペース、Wi-Fiなどの機能の導入が必要。</p> <p>③官民連携により公共空間を日常的な活用を継続するためには、調整機能などの仕組みが必要 →市民交流広場を活用した「にぎわいづくり」コンテンツの定期的な展開 →実行委員会(プロジェクトチーム)や協議会を組成して「にぎわいづくり」を行う仕組みづくり</p>	<p><b>マネジメント</b></p> <p>実行委員会や協議会を組成のうえ、官民連携により区役所や市民交流広場にて定期的にコンテンツを展開</p> <p>公共空間を活用する際の出店ルールや仕組みの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共空間の利用料金・時間</li> <li>・管理者への届出</li> </ul>

実証実験	検証内容とコンテンツ	検証内容の評価	機能向上案への反映(地域交流拠点に求められる機能)
<p>きよっち探検隊 (まち歩き)</p>	<p>つながりづくりの実験</p> <p>検証内容とコンテンツ</p> <p>①地域の団体との連携の可能性 →区内で活躍する団体や個人と連携した企画・実施</p> <p>②歩いてみたくなる要素の抽出 →区役所～区民センターまでのまち歩き →清田区ゆかりの地を巡るコース設定</p> <p>③区役所周辺への移動手段 →子ども達の帰宅送迎用バス</p>	<p><b>&lt;総論&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●団体相互が連携して初めて行ったコンテンツとして有効</li> <li>●プロジェクトメンバーや参加した子ども達は継続を望んでいる</li> <li>●地域の団体との連携のもと、新たなルート設定をしながらまち歩きコンテンツを継続</li> </ul> <p>参加者(子ども達)へのアンケート調査</p> <p>①つながりをつくるコンテンツの満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加した子ども達の満足度は高く、継続を望む声が多い。</li> <li>→区役所～区民センターまでのまち歩きなど「つながり」をつくるコンテンツの定期的な展開</li> </ul> <p>引率者、保護者(一般参加)へのヒアリング</p> <p>①バスの運行によるイベントへの参加のしやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスがあると参加しやすくなる。</li> <li>②バスの有料化とその利用料金</li> <li>・有料でも利用したい。料金は200～300円程度。</li> <li>→区役所までの交通ネットワークの形成</li> <li>③今後のまち歩きイベントの開催ニーズ</li> <li>・開催してほしい。</li> <li>・引率者からは歩行空間の安全性の確保や緑化、休憩機能などの充実の必要性が挙げられた。</li> <li>→地域の各団体と連携した「つながりづくり」コンテンツの継続的な展開</li> <li>→歩行空間の緑化、緑道・散策路の整備、ベンチ等の設置、サインの整備</li> </ul> <p>プロジェクトメンバーの意向</p> <p>①まち歩きコンテンツの満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトメンバーの満足度は高く、継続意向がある。</li> <li>→各団体と連携した季節ごとのイベント的な活動を実施</li> <li>②地域交流拠点清田の機能向上には交通機能の充実も必要</li> <li>・バス路線の拡充や便数の増加、駐車場・駐輪場の拡充など。</li> <li>→区役所までの交通ネットワークの形成</li> </ul>	<p><b>ハード</b></p> <p><b>【屋内】人が集まる交流機能〔区役所〕</b></p> <p><b>交通機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の待ち合い機能</li> <li>・交通ネットワークの形成</li> <li>・駐輪、駐車場</li> </ul> <p><b>【屋外】歩いてつながる機能〔区役所～区民センター間〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化された歩行空間</li> <li>・緑道・散策路</li> <li>・休憩施設(ベンチ等)</li> <li>・案内誘導サイン</li> </ul>
	<p>検証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者(子ども達)へのアンケート調査</li> <li>・引率者、保護者(一般参加)へのヒアリング</li> <li>・プロジェクトメンバーへのヒアリング</li> <li>・きよた暮らしラボでの検討</li> </ul>	<p><b>きよた暮らしラボでの検討</b></p> <p>①各団体が連携して企画・実施したまち歩きは新たなコンテンツとして効果があると評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→地域の各団体と連携した「つながりづくり」コンテンツの継続的な展開</li> </ul> <p>②地域の各団体や個人との連携により公共空間を日常的な活用を継続するためには、調整機能などの仕組みが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→実行委員会(プロジェクトチーム)形式や協議会を組成して、地域の各団体などと連携した季節ごとのイベント的な活動を実施</li> </ul>	<p><b>ソフト</b></p> <p>地域の各団体と連携した「つながりづくり」コンテンツの継続的な展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源(河川、緑地、歴史など)を活用したまち歩き</li> </ul> <p><b>マネジメント</b></p> <p>地域の各団体と連携した季節ごとのイベント的な活動実施</p>

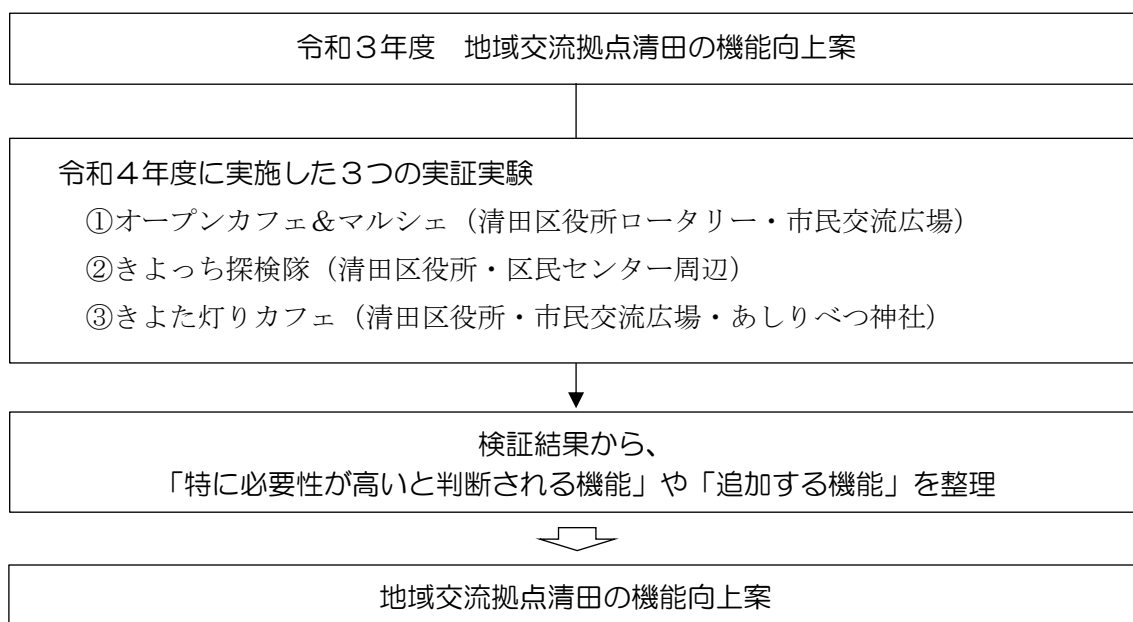


実証実験	検証内容とコンテンツ	検証内容の評価	機能向上案への反映(地域交流拠点に求められる機能)
<p>きよた灯り カフェ</p>	<p>冬のにぎわいづくりの実験</p> <p>検証内容とコンテンツ</p> <p>①地域の団体との連携の可能性 →市民交流広場とあしりべつ神社でのキャンドルづくり体験・点灯 →地域の団体などと協力して実施</p> <p>②屋内・屋外空間の活用と滞在の可能性 →区役所でのカフェ・物販&amp;休憩コーナーの仮設置、コンサートの実施 →ロータリーでのキッチンカー出店</p>	<p><b>&lt;総論&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●冬期でも「人が集える場」創出の効果があるため、屋内外の公共空間を活用したコンテンツの展開が有効</li> <li>●屋内外の公共空間活用は体制や制度を整えつつ今後も継続</li> <li>●官民連携により公共空間を日常的に活用するためのルールや仕組みの整備</li> </ul> <p><b>来場者数の行動・滞在時間、滞在者数</b></p> <p>①恒常的ににぎわいづくりのコンテンツ ・区役所と市民交流広場を活用したコンテンツ実施により屋内外合わせて常時40~70名が滞在。 →屋内外で「いつも何かやっている」「日常的に人がいる」状況をつくるコンテンツの定期的な展開</p> <p>②滞在延長を促す空間整備 ・滞在時間は1~3時間ほどが多い。屋内にカフェスペースなどがあると滞在延長につながる。 →屋内へのカフェスペースやコワーキングスペース、Wi-Fiの導入</p> <p><b>来場者へのアンケート調査</b></p> <p>①冬期のにぎわいや人が集う場をつくるコンテンツの満足度 ・各コンテンツの参加者やカフェ・食堂の利用者は定期実施を望んでいる。 →区役所や市民交流広場を活用したにぎわいづくりの定期実施、ステージ機能の導入</p> <p>②カフェスペース(飲食や休憩)による滞在促進 ・カフェスペースやスタディールームなどの機能があると、滞在が長くなる。 →屋内にカフェスペースやスタディールーム、図書スペース、キッズルーム、遊戯施設などの導入</p> <p>③市民交流広場には心地よく滞在できる機能が必要 ・屋外では天候に左右されず快適に休憩できるスペースやイベントの実施などが必要。 ・心地よい屋外環境に合わせて、キッチンカーの定期的な出店が望まれている。 →緑陰をつくる緑地帯、屋根や庇などの装置、テーブルやベンチ、パラソルなどの休憩機能を導入 →芝生広場や緑地帯の機能を導入 →イベント実施を支える機能(物品保管、舗装路面、イベント用設備)の導入</p> <p>④地域交流拠点清田の機能向上には交通機能の充実も必要 ・バス路線の拡充や便数の増加、駐車場・駐輪場の拡充、その他に地下鉄などの意見が挙げられた。 →区役所までの交通ネットワークの形成</p>	<p><b>ハード</b></p> <p><b>【屋内】人が集まる交流機能[区役所]</b></p> <p>交流・滞留機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェスペース</li> <li>・コワーキングスペース</li> <li>・学習スペース</li> <li>・図書スペース</li> <li>・キッチンスペース</li> <li>・Wi-Fi</li> </ul> <p>情報発信機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清田のまちの情報提供コーナー</li> <li>・デジタル技術活用</li> </ul> <p>子育て支援機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズルーム、遊戯施設</li> </ul> <p>飲食機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清田の食材を使った地産地消レストラン</li> </ul> <p>交通機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の待ち合い機能</li> <li>・交通ネットワークの形成</li> <li>・駐輪・駐車場</li> </ul>
	<p>検証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者の行動・滞在時間の把握、滞在者数のカウント</li> <li>・来場者へのアンケート調査</li> <li>・出店者への意向調査(ヒアリング)</li> <li>・きよた暮らしラボでの検討</li> </ul>	<p><b>出店者の意向</b></p> <p>①イベント中の売上と今後の出店意向 ・まずまずの売上となった。 ・機会があれば今後も参加したい。</p> <p>②出店の仕方(ルールや仕組みづくり) ・市民交流広場を自由に活用したいが、全面積を使用することはない。使用面積に合わせた出店料の徴収方式になると活用しやすい。 →公共空間を活用する際の出店ルールや仕組みの整備 →イベント実施を支える機能(物品保管、舗装路面、イベント用設備)の導入</p> <p><b>きよた暮らしラボでの検討</b></p> <p>①地域と行政が連携して公共空間を活用した取組を継続 ・冬も含めて屋内外の公共空間活用は今後も継続していくことが望ましい。</p> <p>②日常使いを高めるコンテンツの展開 →屋内外で「いつも何かやっている」「日常的に人がいる」状況をつくるコンテンツの定期的な展開</p> <p>③官民が連携した実行委員会(プロジェクトチーム)形式の体制づくり ・官民の様々な主体の連携 ・若い世代の参加。 ・将来的なNPO法人化も考えられる。</p> <p>④取組を実施するための資金調達 ・協賛金やスポンサー料、クラウドファンディング、助成金などを活用する。 →公共空間を活用する際の出店ルールや仕組みの整備 →実行委員会(プロジェクトチーム)や協議会を組成して「にぎわいづくり」を行う仕組みづくり</p>	<p><b>【屋外】オープンスペース機能[市民交流広場]</b></p> <p>交流・滞留機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生広場</li> <li>・緑陰をつくる緑地帯の整備</li> <li>・子どもが遊べるスペース</li> <li>・屋根や庇による半屋外スペース</li> <li>・ステージ</li> <li>・物品保管スペース(テント、パラソルなど)</li> <li>・歩行や車両通行用の舗装路面</li> <li>・イベント用設備(電源、バナー設置など)</li> </ul> <p>休憩機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンチ、テーブル、テント、パラソル</li> </ul> <p>子育て支援機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊戯施設</li> </ul> <p><b>ソフト</b></p> <p>区役所や市民交流広場を活用した「にぎわいづくり」コンテンツの定期的な展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェ、キッチンカー</li> <li>・子どもを対象としたカルチャースクール</li> <li>・フリーマーケット、アウトドア活用</li> </ul> <p><b>マネジメント</b></p> <p>実行委員会や協議会を組成のうえ、官民連携により区役所や市民交流広場にて定期的にコンテンツを展開</p> <p>公共空間を活用する際の出店ルールや仕組みの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共空間の利用料金・時間</li> <li>・管理者への届出</li> </ul>

## 5章 地域交流拠点清田の機能向上案の検討

### 5-1 地域交流拠点清田の機能向上案

3つの実証実験の検証結果を令和3年度に検討した地域交流拠点清田の機能向上案へ反映し、「特に必要性が高いと判断される機能」や「追加する機能」を整理した。  
整理した機能向上案は、次ページに掲載する。





■地域交流拠点清田の機能向上案

エリア	機能向上案への反映(地域交流拠点に求められる機能)		
人が集まる交流エリア	<p><b>ハード</b></p> <p><b>【屋内】人が集まる交流機能</b>  <b>〔区役所〕</b>  <b>交流・滞留機能</b>            ・カフェスペース            ・コワーキングスペース            ・学習スペース            ・図書スペース            ・キッチンスペース            ・Wi-Fi</p> <p><b>情報発信機能</b>            ・清田のまちの情報提供コーナー            ・デジタル技術活用</p> <p><b>子育て支援機能</b>            ・キッズルーム、遊戯施設</p> <p><b>飲食機能</b>            ・清田の食材を使った地産地消レストラン</p> <p><b>交通機能</b>            ・公共交通の待ち合い機能            ・交通ネットワークの形成            ・駐輪・駐車場</p> <p><b>【屋外】オープンスペース機能</b>  <b>〔市民交流広場〕</b>  <b>交流・滞留機能</b>            ・芝生広場            ・緑陰をつくる緑地帯            ・子どもが遊べるスペース            ・屋根や庇による半屋外空間            ・ステージ            ・物品保管スペース(テント、パラソルなど)            ・歩行や車両通行用の舗装路面            ・イベント用設備(電源、バナー設置など)</p> <p><b>休憩機能</b>            ・ベンチ、テーブル、テント、パラソル</p> <p><b>子育て支援機能</b>            ・遊戯施設</p>	<p><b>ソフト</b></p> <p>区役所や市民交流広場を活用した「にぎわいづくり」コンテンツの定期的な展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンカフェ</li> <li>・キッチンカー</li> <li>・農産物マルシェ</li> <li>・カフェスペースでの物販</li> <li>・子どもを対象としたカルチャースクール</li> <li>・フリーマーケット、アウトドア活用</li> </ul>	<p><b>マネジメント</b></p> <p>実行委員会や協議会を組成のうえ、官民連携により区役所や市民交流広場にて定期的にコンテンツを展開</p> <p>公共空間を活用する際の出店ルールや仕組みの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共空間の利用料金・時間</li> <li>・管理者への届出</li> </ul>
まちと人をつなげるエリア	<p><b>ハード</b></p> <p><b>【屋外】歩いてつながる機能</b>  <b>〔区役所～区民センター間〕</b>            ・緑化された歩行空間            ・緑道・散策路            ・休憩施設(ベンチ等)・案内誘導サイン</p>	<p><b>ソフト</b></p> <p>地域の各団体と連携した「つながりづくり」コンテンツの継続的な展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源(河川、緑地、歴史など)を活用したまち歩き</li> </ul>	<p><b>マネジメント</b></p> <p>地域の各団体と連携した季節ごとのイベント的活動実施</p>

青字: 実証実験から特に必要性が高いと判断される機能 赤字: 実証実験を踏まえて追加する機能



## 5-2 地域交流拠点清田における今後の進め方

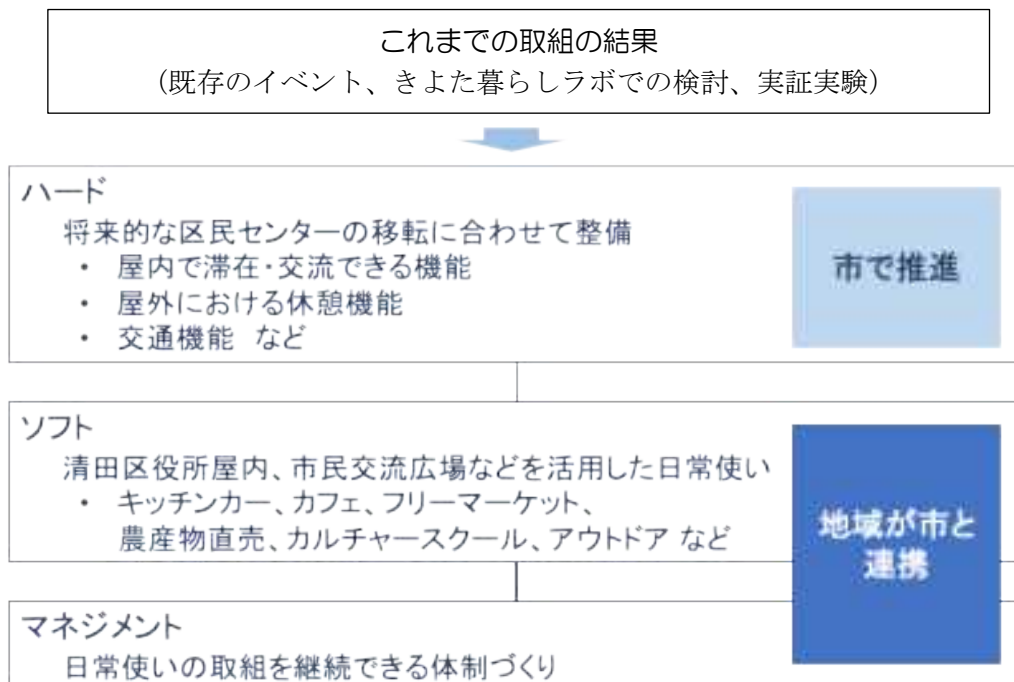
地域交流拠点清田の恒常的なにぎわいづくりに向けて、ハード・ソフト・マネジメントの3つの視点で機能向上案を検討してきた。

これまでに地域が実施している既存イベントによる効果やきよた暮らしラボにおける検討、実証実験による検証結果を踏まえて、公共空間を活用した地域交流拠点清田における今後の進め方を整理する。

### (1) 今後の方向性

ハードの機能向上については、区役所への将来的な区民センターの移転に合わせた札幌市による推進が考えられる。

ソフトとマネジメントの機能向上については、清田区役所及び市民交流広場など屋内外の公共空間で「いつも何かやっている」「日常的に人がいる」状況が創出されるように、地域が札幌市と連携して推進することが考えられる。



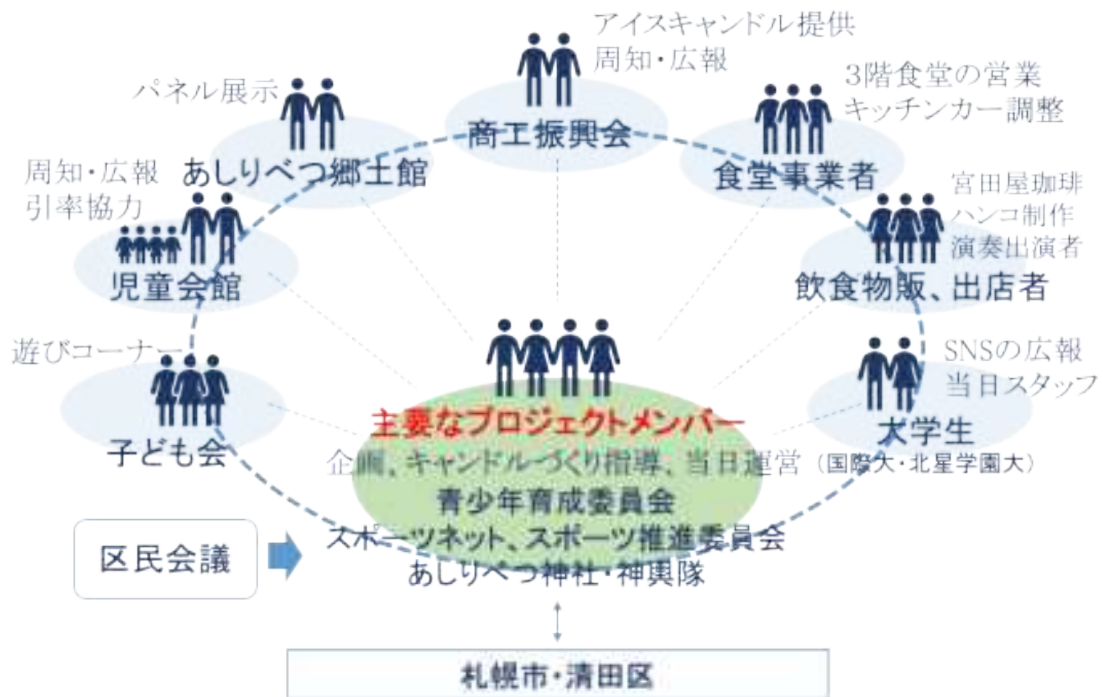
今後の方向性

## (2) にぎわいづくりの展開の仕方

公共空間を活用して展開するコンテンツに応じて、官民の様々な主体が連携する協議会や実行委員会（プロジェクトチーム）を組成して進めていくことが考えられる。

プロジェクトチームは若い世代の参画や企業などとの連携により、実効性のある体制が築けるものと考えられる。将来的には、NPO 法人化など、にぎわいづくりの推進役を担うことも考えられる。

取組実施の資金は団体からの協賛金や企業などからのスポンサー金のほか、クラウドファンディングや行政からの助成金などの活用が考えられる。また、出店料を徴収し、得られた収益の活用も考えられる。

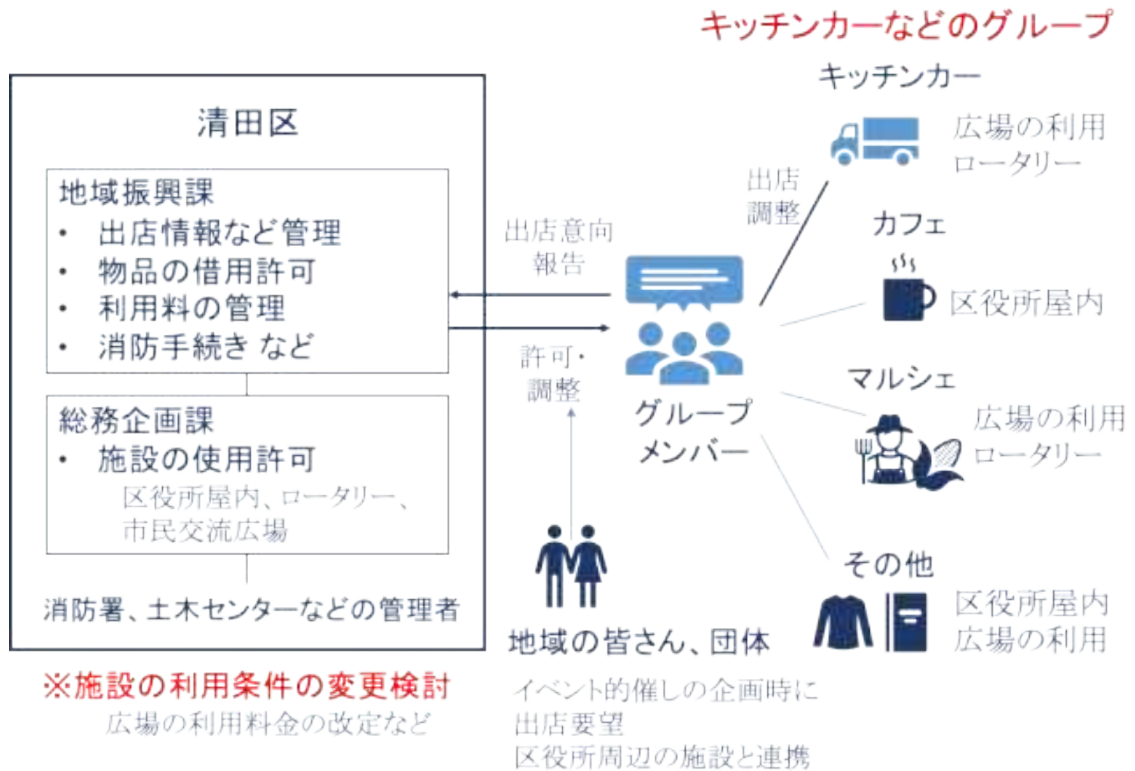


「きよた灯りカフェ」を例にしたプロジェクトチーム

### (3) 官民の連携体制や役割分担

公共空間の管理者である清田区が、出店意向を持つ民間事業者からなるグループメンバーとの調整管理や公共空間の使用許可などの手続きを行うことが考えられる。

地域の団体や個人もグループメンバーに関わることで、既存のイベントや活動と連携した相乗効果のあるコンテンツとしての展開が期待される。



官民の連携体制や役割分担